

# 南アルプス学術文献調査報告書 (第1次)

平成21年3月

南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会  
学術調査検討委員会

## 目 次

### 第1部 南アルプスの自然の概要

I 序文・総括・今後の調査課題	……1 ページ
II 地形・地質	……3 ページ
III 植物	……11 ページ
IV 動物	……15 ページ
V 昆虫	……19 ページ
学術調査検討委員 名簿	……23 ページ

### 第2部 南アルプス学術文献リスト

## 第1部 南アルプスの自然の概要

## I 序文・総括・今後の調査課題

(信州大学農学部教授 中村寛志)

本報告書は、南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会の学術調査検討委員会が、南アルプスの世界自然遺産の登録基準への合致の証明をするため、南アルプスの傑出した自然について学術的観点から知見や情報を収集し分析したものである。

学術調査検討委員会は、南アルプスの傑出した自然等に係る学術調査に関する事項を検討する目的で、学識経験者9名を委員として、平成20年1月に発足した。具体的には以下の4項目の作業を進めている。

1. 学術的文献の収集
2. 顕著で普遍的な価値の検証
3. 追加調査必要性の検討
4. 南アルプスの顕著で普遍的な価値の証明

本報告は、上記1から3までの作業をまとめたものである。この間3回の委員会を開催し、学術的文献の収集とその検討方針を協議した。会議経過は以下のようである。

第1回 平成20年1月18日 学術調査の進め方を検討し、委員を地形・地質、植物、動物、昆虫の4分野に分け文献を収集することとした。また、作業スケジュールの概要を決める。

第2回 平成20年3月13日 文献のフォーマットと作業期間を決める。

第3回 平成20年8月20日 報告書のスタイルを決定し実際の報告書作成作業に入る。

収集した文献数は、総数で994件であった。これより得られた南アルプスの特殊性と独自性についての学術的知見は、地形・地質、植物、動物、昆虫の4分野ごとに、次のように総括できる。

### 地形・地質：

南アルプスの地形・地質に関する617件の論文を収集した。南アルプスの範囲については、一般には標高2500m以上の山域を指すと考えられるが、ここでは諏訪湖を頂点とし天竜川と富士川に挟まれた地域とした。よって山地だけでなく丘陵や平野まで含めている。また、南アルプス形成に関係すると思われる周辺地域（三河高地・伊那谷・木曾山脈・南部フォッサマグナ・東海沖および南海トラフなど）も含めて文献を収集した。

本報告では、収集された地形・地質文献から南アルプス地域が研究者にどのようにとらえられ、どのように調査研究され、何が分かってきたのかについて記した。

### 植物：

植物に関する50件の文献を収集した。南アルプスは山体が大きく、広大な高山帯、亜高山帯、山地帯を有している。受け皿が大きければ大きいほど、多くの植物種が生育することができる。特に日本列島には過去の気候変動の結果揺り動かされた北方系の植物群、南方系の植物群、大陸性気候の植物群、海洋性気候の植物群、第三紀から遺存的に残った植物など、様々な植物種がひしめき合っている。南アルプスはそのような日本列島の中核に位置し、その受け皿の大きさから実に多様な植物相を残している。多様な植物相が存在するというこ

は、緯・経度、標高差、微地形などの様々な生育環境へ種がふるい分けられ、多様な植生タイプが存在することになる。南アルプスは、垂直植生帯が完全に発達している数少ない地域の1つである。しかし、南アルプスの植生に関する包括的な報告はなされていないので、本報告では、南アルプスにおける各論的な報告を紹介しつつ、南アルプスの植生を概観した。

#### 動物：

動物に関する33件の文献を収集した。南アルプスの動物は、標高1000mの里山から3000mの稜線部まで幅広く生活している。2000mを越える標高差の中、いくつかの種は標高に応じてすみ分けをしている。その一方、天竜川に注ぎ込む支流やその河畔林、また山の中腹にのびる林が動物たちの通り道となり、いくつかの種は低標高域から高標高域まで自由に移動している。その結果、奥山からツキノワグマやサルが里山の農地に出没して、農作物を食べ荒らし、また高山帯にまでニホンジカが進出し貴重な高山植物を食べ尽くすといった問題が起きている。希少種では南アルプスを生息に南限とするニホンライチョウを筆頭に、樹洞に巣を作るカグヤコウモリや針広混交林で暮らすアズミトガリネズミ、ミズラモグラなどが南アルプスには生息している。

#### 昆虫：

南アルプスの昆虫に関する文献は、今回の調査で294件収集した。これを昆虫の分類別に見ると、文献数が一番多いのは、チョウ目で半数近くを占めている(140件)。次がコウチュウ目の110件で、その中でもオサムシ類など地上性歩行虫類の文献が多いのが特徴である。

南アルプスの昆虫相は、高山帯を有する中部山岳地域の特徴を持っており、日本列島の中で最も多様性の高い場所の一つであることは間違いない。しかし、その中で南アルプスだけを強く特徴づける種を拾い出すことは難しいともいえる。また、多くの分類群では南アルプスでの調査研究が極めて遅れており、調査が進んでいるチョウやガ、カミキリムシ、オサムシ、ゴミムシのような一部の分類群でも、アクセスの難しい場所では調査不足であるといえる。それらをふまえてここでは、一部の分類群において南アルプスの特徴をとらえて報告する。

世界自然遺産への登録基準は、以下の4項目の1つをクリアーすることである。

1. 地質学的要素
2. 生態・生物学的要素
3. 美的景観
4. 生物多様性

収集した1000件に近い文献の分析結果から、明らかになったことは、地質学的要素と生物多様性に関する学術的観点から知見や情報は、多く収集することが出来た。一方、美的景観に関する情報収集と検討が不十分であり、また南アルプス独自でアピールできる生体・生物学的要素の抽出ができるのかどうかは今後の調査と検討課題であるといえる。

## II 地形・地質

### i 南アルプス学術文献調査報告書（地質とくに四万十帯について）

（飯田市美術博物館 自然部門担当専門主査 村松武）

#### 1. はじめに

南アルプスの地形・地質に関する617件の論文を収集した。南アルプスの範囲については、一般には標高2500m以上の山域を指すと考えられるが、ここでは諏訪湖を頂点とし天竜川と富士川に挟まれた地域とした。よって山地だけでなく丘陵や平野まで含めている。また、南アルプス形成に関係すると思われる周辺地域（三河高地・伊那谷・木曾山脈・南部フォッサマグナ・東海沖および南海トラフなど）も含めて文献を収集した。

今回のリストは、静岡側で作成されたリストをもとにして、河本・村松の検討委員によって新たに追加・修正したものである。

ここでは、収集された地形・地質文献から南アルプス地域が研究者にどのようにとらえられ、どのように調査研究され、何が分かってきたのかについて記してみたい。なお、文献の内容を分析するまでの時間がとれなかったため、文献の概要と南アルプスの名称などについては文献タイトルから検討した結果であり、南アルプスの特徴については四万十帯に絞って検討したにすぎないことをお断りしておきたい。

#### 2. 収集された文献の概要

南アルプスおよびその周囲を含めて収集された南アルプスの地形・地質関係の文献の内訳を見ると、

地質	525
地形	74
地震・地物	19

となって、地質関係にたいへん偏っている。これは収集した委員が得意とする専門分野（地質）によるものなので、地形や地震・地球物理関係の文献が十分収集できていないのだろう。

地域で見ると、

広域	106
南アルプス全域	18
南アルプス一部地域	468

となって、多くの文献が南アルプス一部地域をフィールドにしていることが分かる。南アルプスを含む広域もかなり多い。南アルプス一部地域を、さらに県毎に分けてみると、

長野県	209
静岡県	211
山梨県	77

となり、静岡・長野県が多く、山梨県が少ない。これは、文献収集した南アルプス地域にしめる県の面積の違いによるものだろう。静岡県は面積が広いだけでなく、地形的に平野から山地まで変化に富んでいる。

## 3. 文献からみた南アルプスの名称

文献タイトルから南アルプスに対する呼び名を調べてみた。その結果、

赤石山地	107
赤石山脈	4
南アルプス	18

となり、研究者の多くは、「赤石山地」という名称を用いていることが分かった。教科書や地図帳に一般に用いられている「赤石山脈」という名称は、地形・地球物理分野の研究者が用いており、地質分野の研究者は用いていない。また、「南アルプス」の名称を利用する研究者は地形分野に比較的多く、最初に用いられたのは1963年の発行の日本自然保護協会の報告書で、「南アルプス・塩見岳・赤石岳付近の地形と地質」という題名であった。

## 4. 文献に出てくる山と川の名前

文献タイトルから山の名前を検索すると、

入笠山	1
甲斐駒ヶ岳	1
鳳凰山	3
仙丈ヶ岳	6
塩見岳	2
赤石岳	1
大沢岳	1
易老岳	1
光岳	1
山伏	1
高草山	7

などとなり、高草山と仙丈ヶ岳が多い他は、一つの山に集中しているわけではない。高草山については、アルカリ玄武岩についての研究例が多く、仙丈ヶ岳については氷河地形や森林植生に関する文献が数例ずつあった。登山者の人気では、北岳がトップと思われるが、北岳をタイトルにした文献は見あたらなかった。

次に川の名前を検索すると、

天竜川	9
三峰川	4
小渋川	4
遠山川	7
水窪川	1
気田川	1
天竜川と天竜川水系の合計	26
富士川	5 (内、地層名として1)
釜無川	4
早川	3

富士川と富士川水系の合計	12
大井川	15 (内、地層名として5)
寸又川	4
大井川と大井川水系の合計	19
安倍川	5
瀬戸川	30 (すべて地層名)

となり、瀬戸川が最も多く、大井川も多い。これらは地層名として利用されているため、特に多く検索されている。地層名としての利用を除くと、流域の面積に比例しているように見える。

以上、タイトルから山と川を検索した結果、仙丈ヶ岳と高草山以外は、特別な地形・地質に集中していないことが分かった。これは、研究者にとって南アルプスをつくる個々の山や川に、特別に注目すべき研究テーマがないことを意味しているのかもしれない。

## 5. 文献からみた南アルプスの特徴

### 5-1. 地質図

まず、公開されている地質図（産業総合研究所／旧地質調査所発行／県など）を取り上げてみる。

20万分の1地質図では「甲府(2002)」「飯田(1990)」「静岡(1976)」「豊橋(2004)」がすでに発行されていて、南アルプス地域はこれらに含まれている。またインターネットでは図幅間のズレを修正した20万分の1地質図が公表されている。これらを見れば、南アルプスの地質概要を把握することができる。県別では20万分の1静岡県地質図(2001)が新しくして利用価値が高い。他にも10万分の1山梨県地質図(1970)、20万分の1長野県地質図(1967)、20万分の1愛知県地質図(不明)があるが、発行年度が古く、改訂が必要となっている。

5万分の1地質図を見ると、赤石山地の主要地域はまだ発行されていないことが分かる。北部では「諏訪(1954)」「高藤(1996)」「市野瀬(1983)」が発行され、仙丈ヶ岳全域と甲斐駒ヶ岳・北岳の一部が色分けされている。南西～南～南東部では「三河大野(1952)」「浜松(1972)」「秋葉山(1955)」「見付・掛塚(1957)」「御前崎(1988)」「清水(1990)」「静岡(1982)」が発行されているが、これらはすべて赤石山地周辺部である。これらの地質図は、発行されていても発行年度がすでに古くなってしまい、利用できなくなっているものもある。赤石山地で地質図ができていない図幅は、「大河原」「赤石岳」「井川」「満島」「佐久間」「千頭」「家山」「鰍沢」「身延」「南部」の10区画である。図幅以外では、5万分の1天竜川上流地域地質図(1984)が発行されており、赤石山地の主稜線から長野県側にかけての地質図ができています。これが南アルプス唯一の5万分の1地質図であるが、やや古く放散虫化石による新しい時代論に基づいていない。

産業総合研究所発行の5万分の1地質図は、地質図と地域地質の基本情報を整理し記載する基本的な文献である。南アルプスの主要地域が空白域として残されていることは地質調査自体が遅れていることを意味する。今後、南アルプス主要地域の地質調査を組織的に行うとともに、産業技術研究所に対して南アルプスの地質調査を活発にするよう働きかける必要がある。

## 5-2. 四万十帯

四万十帯は、仏像構造線（釜無川源流～三峰川源流～北又沢～下栗）の南東側に広く分布する地質体で、東縁は糸魚川～静岡線で南部フォッサマグナの新第三系と接し、南縁は新第三系の前弧海盆堆積物に不整合で覆われている。狭義の南アルプス地域は、ほとんど四万十帯に属している。ここでは四万十帯に関する文献を取り上げてみる。

北の入笠山から南の駿河・遠州平野にかけて6つの地域に分けて見ると、文献数は

赤石山地北部（白根三山以北）	7
赤石山地中部（塩見岳～荒川岳）	23
赤石山地南部（赤石岳～光岳・山伏）	26
赤石山地深南部（光岳・山伏以南の標高1200m以上）	32
赤石南部山地（標高1200m以下）	67
駿河・遠州平地	18

となり、赤石南部山地が他と比べて多い。赤石南部山地には四万十帯南帯に属する三倉帯と瀬戸川帯が分布しており、とくに瀬戸川帯に関する論文が多い。赤石山地に関して言えば、北方へ行くに従って文献数が少なくなっている。

分野別では、

岩石・鉱物	51
構造・テクトニクス	29
地域地質	54
堆積	7
古生物	24

となり、地域地質分野が最も多く、ついで岩石・鉱物分野が多い。地域と分野でクロスさせてみると、赤石山地北部や中部では、堆積分野および古生物分野に関する文献はゼロになる。これは、赤石山地北・中部ほど変形が強いため地層の初生的な構造や化石が保存されにくいためであろう。

文献の中で、構造発達史などの総合的なものや広域的なものを見ると、四万十帯全般に関する発達史が2件、瀬戸川帯の発達史やオフィオライトの成因論が数件見つかる。また、赤石山地の研究例をもとに、日本あるいは世界に視野を広げて、プレート運動論を展開した文献がKano et al(1991)、Osozawa et al(1990)の2件見られる。これらはいずれも赤石山地深南部から赤石南部山地をフィールドとしたもので、南アルプス主稜線付近の研究例ではない。

以上、四万十帯の文献を調べてみると、北低南高となっており、狭義の南アルプス地域での際だった研究例が見つからない。四万十帯に関して言えば、赤石山地中北部での研究を活発化させる必要がある。

## ii 南アルプス学術文献調査報告書（南アルプスの特徴と今後の研究課題）

（大鹿村中央構造線博物館 学芸員 河本和朗）

### 1. はじめに

文献のタイトルをもとにした分析は村松委員により報告されるので、ここでは南アルプスの地形・地質の特徴を概観する。なお文献のリストアップは継続中である。また、これまでにリストアップされた論文についても、本文またはアブストラクトを見なければ分からない概要については、まだ「未確認」のものが多い。

### 2. 赤石山地（広義）の外縁と、山地の内部を通る2本の構造線

ここでは、糸魚川－静岡構造線と中央構造線～赤石構造線に限られた山地を「狭義の赤石山地」と呼び、それに巨摩・身延山地、伊那山地、三河山地東部を加えた地塊を「広義の赤石山地」と呼ぶことにする。

広義の赤石山地の東側には、諏訪盆地～甲府盆地を経て富士川から駿河湾に達する低地が連続している。駿河トラフ底から見ると、赤石山地は5000m級の高度を持ち、水平距離に対する比高は、地球上で最も起伏が激しい地域のひとつであることを示す。

山地の北東側は、糸魚川－静岡構造線活断層系および巨摩・身延山地東縁の活断層により、甲府盆地～富士川低地と画される。甲斐駒ヶ岳～鳳凰三山の稜線から釜無川の河床へは比高2000mの急崖をなす。

糸魚川－静岡構造線は、山梨県武川から夜叉神峠付近を通り、広義の赤石山地の内部を南下する。山梨県内では、早川が下刻して狭義の赤石山地と巨摩・身延山地に分けている。静岡県内では、竜爪山地東部から賤機山東麓を経て静岡市街地に至る。

山地の北西側では東上りの傾動地塊となり、その西縁では伊那谷活断層系により中央アルプスが隆起し、その断層角盆地を天竜川が南流している。

赤石傾動地塊の内部には、茅野から水窪へ南北に中央構造線が通り、天竜川の支流が下刻して一直線の断層線谷が形成され、狭義の赤石山地と伊那山地を分けている。中央構造線は、諏訪湖付近では糸魚川－静岡構造線活断層系の左横ずれにより、茅野から岡谷まで12km食い違わされた後、関東平野の下へ続いている。南方では、水窪から本来の東西方向に向きを変えて豊橋を通り、紀伊半島、四国、九州を縦断している。茅野～水窪の南北方向の中央構造線から連続して、水窪から遠州灘へ赤石構造線が続いている。

天竜川は、伊那谷の南方で赤石山地南部から三河山地東部へ連続する隆起帯を横断し、赤石構造線にほぼ沿って天竜海底谷へ流下している。すなわち、天竜川は北部では伊那谷断層、南部では赤石構造線に沿って流れ、中央構造線とは佐久間で交差している。

諏訪湖を頂点とし、天竜川と釜無川～富士川を2辺とするこの三角形の山塊をエドムント・ナウマンは1885年に記した『日本群島の構造と起源について』において「赤石スフェノイド（楔形山地）」と呼んだ。

山地南縁の南方には、新生代新第三紀中新世後期～鮮新世前期の前弧海盆に堆積した地層が陸化して分布している。前弧海盆とは、海洋プレート沈み込み帯において、海溝の陸側に形成される外縁隆起帯の陸側に生じる低地帯である。

### 3. 赤石山地（広義）の地質

日本列島の骨格は、地球スケールで見れば約5億年前に太平洋ができ始めて以後に、古アジア大陸東縁に太平洋側のプレートが沈み込む場で形成されてきた。

広義の赤石山地の地質は、おもにイザナギークラ・プレート、太平洋プレート、フィリピン海プレートの沈み込みにより形成されてきた。沈み込み帯で形成される地質の特徴としては、出発点としての付加体の形成、沈み込み帯でのマグマの発生と花崗岩地殻の形成、対の変成作用、沈み込まれる側の大規模な変動（大規模横ずれ断層や押しかぶせ断層）、海嶺の沈み込み、縁海の形成、島弧または小大陸の衝突などが挙げられる。

広義の赤石山地を構成する地質は、巨摩・身延山地を除き、関東から九州・沖縄へ続く西南日本の骨格をなす帯状構造の一部である。古第三紀までは日本海はまだ開裂しておらず、この帯状構造はアジア大陸東縁で形成されたものである。

この帯状構造は、新第三紀に日本海を拡大しながら南下した西南日本と、北上を開始したフィリピン海プレート上の伊豆－小笠原島弧の衝突で、赤石山地－関東山地の部分では大きく「ハ」の字型に屈曲している。そのため赤石山地では帯状構造が南北方向に変化するとともに、北部ではまくれ上がって逆転している。また折れ曲がった中央構造線と赤石構造帯を境に、東側が50～60km北方へ食い違っている。

一方、巨摩・身延山地は、かつて南方から衝突した伊豆－小笠原島弧と衝突直前に本州との間の海を埋めた堆積物からなっている。

#### (1) 付加体

付加体とは、海洋プレート上の堆積物や玄武岩質地殻が、海洋プレートの沈み込みにともなって剥ぎ取られ、大陸プレート側に付け加わったものであり、遠洋から運ばれてきた岩石と海溝堆積物起源の岩石からなる。付加体の年代は大陸側に付加したときの年代で示され、遠洋性の岩石が誕生した年代は、移動に要する時間だけ付加年代よりも古い。付加体の形成とともに大陸は海側に成長する。

狭義の赤石山地の長野県側にジュラ紀の付加体と白亜紀の付加体の境界をなす仏像構造線が通っている。「仏像」は高知県土佐市の小集落の名である。

ジュラ紀の付加体は、北アルプス南部まで分布している。そのうち中央構造線の太平洋側に分布するものは秩父帯と呼ばれる。狭義の赤石山地の主稜線およびその南東側は、白亜紀以降の付加体である四万十帯からなり、海側に向かって順々に新しいユニットが配列している。秩父帯・仏像構造線・四万十帯は、関東山地から沖縄本島まで追跡できる。

#### (2) 沈み込み帯のマグマ活動

沈み込み帯では、沈み込んだ海洋プレートの上面が深さ100～200kmに達した付近で陸側プレートの下のマントルの一部が融解し、マグマが発生し、上昇して海溝と平行に火山帯が形成される。火山帯の海溝側の境界線を「火山フロント」という。

伊那山地には、白亜紀後期に大規模に貫入した花崗岩類が分布している。また、甲斐駒～鳳凰三山には、海溝に近い四万十帯に新第三紀中新世に例外的に貫入した花崗岩が分布している。これは当時のフィリピン海プレートが若く温かかったことと、日本海拡大時の西南日本の南下のために、火山フロントが海溝に近づいたためと考えられている。

### (3) 対の変成帯と中央構造線

内陸寄りのマグマ上昇域では地温が上昇し、中～低圧高温型の広域変成作用が生じる。一方、沈み込み口に近い領域では、冷たい海洋プレートの沈み込みにより、高圧低温型の広域変成作用が生じる。この沈み込み帯特有の地温分布により、海溝と平行に生じる一組の変成作用を「対の変成作用」といい、それが地表に露出した「対の変成帯」は世界各地の過去の沈み込み帯で見られる。西南日本ではジュラ紀の付加体を原岩とし白亜紀に変成作用を受けた対の変成帯：中～低圧高温型変成岩（片麻岩）・花崗岩類からなる領家変成帯と高圧低温型変成岩（結晶片岩）からなる三波川変成帯が関東～九州へ並走している。

領家変成帯と三波川変成帯の間には、数10km以上の幅の中間領域があったはずであるが、中央構造線により両帯は直接に接している。中央構造線を境に日本海側を内帯、太平洋側を外帯という。伊那山地は領家変成帯に属し、狭義の赤石山地の中央構造線寄りには三波川変成帯に属する。三波川変成帯と秩父帯は戸台構造線に画されている。

中央構造線の始まりは、白亜紀後期までさかのぼる。当時、断層深部の高温域で延ばされた岩石（マイロナイト）が、伊那山地の中央構造線沿いに露出している。中央構造線は異なるステージ（時階）の活動を繰り返してきたが、未解明の部分が多い。現在接している両帯の、白亜紀末以来の移動量についても、200kmから2000kmまで様々な見積りがある。また、領家変成帯と三波川変成帯が接した時期やプロセスについても未解決である。

### (4) 戸台構造帯

三波川変成帯と秩父帯の間に、戸台構造線およびそれに併走する断層で画された戸台構造帯が挟在する。戸台構造帯には、白亜紀前期の浅海成の戸台層が分布し、アンモナイトや三角貝などの化石を産する。戸台層には花崗岩礫を含む礫岩がみられる。飯田市南信濃の兵越の小規模な花崗岩体からは、古生代二畳紀の年代が得られている。

### (5) 南部フォッサマグナと糸魚川－静岡構造線・・・省略

### (6) 赤石構造帯

新第三紀に生じた帯状構造の屈曲にともない、水窪～天竜二俣の赤石構造線と長野県和田～静岡県森町北方の光明断層が形成された。両断層の間の赤石構造帯を挟み、外帯の帯状構造が50～60km左横ずれに食い違っている。この左横ずれ断層運動は、水窪以北の中央構造線に連続して赤石時階の再活動として認識される。赤石構造帯の内部では、外帯の地質体がブロック化して回転するとともに、新第三紀の海成層が分布している。

## 4. 現在の赤石山地の隆起

鮮新世後期の300万年前ごろには、広義の赤石山地地域は、ほぼ海面に近い標高の準平原にまで侵食されていたと考えられている。約200万年前から東上がりの傾動隆起が始まり、伊那層が堆積した。約100万年前から急速な隆起に転じ、赤石山地から大量の礫が供給され始め、前弧海盆堆積物を削り込んで小笠層群の礫層が堆積した。

地形から推定される主稜線付近の平均隆起速度は、主稜線に準平原面が保存されているなら年間3mm程度、準平原面が削剥されたと考える立場では5mm程度と見積もられる。

実測データとしては、一等水準線は街道沿いに設置されているため、明治以来の100年間の水準測量では、稜線のデータは得られていない。広義の赤石山地内部の唯一の一等水準線は、飯田市～遠山～天竜二俣の測線である。このうち遠山の木沢の水準点で100年間に40cmの隆起量が得られている。伊那谷から主稜線にかけては、東上がりの傾動隆起であり、稜線の隆起速度はこれより速いと考えられる。

一方、赤石山地は、プレート境界型地震のシーソー運動をこうむる地域に含まれる。この100年間に東海地震は発生しておらず、長期間の平均隆起速度は、地震時の地殻変動を加えた（あるいは差し引いた）ものになるはずである。

## 5. 課題

エドムント・ナウマンが1885年に記した『日本群島の構造と起源について』には、「上ノ諏訪」から天竜河口への120kmの直線上に、天竜川の支流が谷を刻んでいること。その北部においては、西傾斜の片麻岩と東傾斜の結晶片岩との境界となっており、これが「断裂」であることが記されている。この123年前の記述は、今日から見ても驚くほど正確である。ナウマンは天竜川を下っているが、中央構造線沿いの谷へは入っていない。この調査は、助手の西山正吾によるものと思われる。中央構造線やフォッサマグナの命名もナウマンによる。この時代にナウマンが、日本列島の南下と「七島弧」との衝突を考えていたのも驚くべきことである。

その後、日本列島の形成史は、地向斜という沈降域に厚い地層が堆積し、やがて深部に花崗岩が形成され、その浮力により隆起域に転じるという造山輪廻という考え方が支配的になった。大洋底が移動していることが明らかになり、プレート・テクトニクスが提案されて後にも、それが地質研究者に広く受け入れられるまでには年月を要した。

海洋プレートの沈み込みにより、大陸縁に成長した付加体が日本列島の土台になっていることが明らかになった背景には、微化石による地層の年代決定が進められたことが大きい。

しかし、アジア大陸東縁に沈み込むプレートの相対運動の復元から、日本列島の形成史を組み直す研究はまだ始まったばかりである。日本列島の形成史には、プレート沈み込み方向や速度だけでなく、中央海嶺の接近や沈み込みが大きな影響を与えてきたようである。

西南日本の帯状構造の形成について、日本列島に平行な断層運動と、直交する押しつぶせ断層とどちらが効いているかということも考えが分かれている。南アルプスでは、中央構造線や戸台構造帯・仏像構造線の運動方向の復元が課題となる。

地球規模で南アルプスの学術的価値を考えると、海洋プレートの沈み込み帯にあるということは大きな特徴である。したがって、南アルプスを直接に研究対象とした文献だけでなく、西南日本の帯状構造全体を扱った文献もリストに加えていくべきだと考える。

ひとつには、それが南アルプスの特徴でもあるからである。

もうひとつは、南アルプス地域は伊豆一小笠原島弧との衝突により大きく変形しており、その様子は変形を受けていない他地域との比較により明らかになるからである。

地球規模での特徴を知るためには、いずれは世界の他の沈み込み帯とも比較する必要があるかもしれない。

### Ⅲ 植物

#### i 南アルプス（赤石山地）の植生概観

（飯田市美術博物館学芸係 蛭間啓）

南アルプスは山体が大きく、広大な高山帯、亜高山帯、山地帯を有している。受け皿が大きければ大きいほど、多くの植物種が生育することができる。特に日本列島には過去の気候変動の結果揺り動かされた北方系の植物群、南方系の植物群、大陸性気候の植物群、海洋性気候の植物群、第三紀から遺存的に残った植物など、様々な植物種がひしめき合っている。南アルプスはそのような日本列島の中核に位置し、その受け皿の大きさから実に多様な植物相を残している（植松 1967）。多様な植物相が存在するという事は、緯・経度、標高差、微地形などの様々な生育環境へ種がふるい分けられ、多様な植生タイプが存在することになる。南アルプスは、垂直植生帯が完全に発達している数少ない地域の1つである。しかし、南アルプスの植生に関する包括的な報告はなされていない。本報告では、南アルプスにおける各論的な報告を紹介しつつ、南アルプスの植生を概観することにする。

##### 1. 高山帯

南アルプス北部において植生調査を行った浅野（1970）によると、ハイマツ-コケモモ群集、ミヤマキンポウゲ-シナノキンバイ群集、ムカゴトラノオ-クロユリ群集、マキバエイラン-タイアオノツガザクラ群集、タカネヤハズハ-アオノツガザクラ群集、コメバツガザクラ-ミネズオウ群集、オヤマノエンドウ-ヒゲハリスゲ群集、イワオウギ-タイツリオウギ群集、シラネニンジン-ミヤマオトコヨモギ群集、チョウジコメツツジ-ミヤマウイキョウ群集が報告されている。そのほか、高山植物群落の分布と氷河地形との関係について、詳細な報告がなされている（増沢 2007）。

##### 2. 亜高山帯

シラビソ、コメツガ、トウヒを主体とする常緑針葉樹林が広く成立している（近田 1979）。浅野（1970）によると、北部ではアオモリトドマツ群集、ダケカンバー-オノエガリヤス群集、ミヤマハンノキ群集が報告されている（浅野 1970）。

##### 3. 山地帯

山腹にはウラジロモミ、ミズナラ、イヌブナ、ブナ、サワラ、ヒノキを主体とする針広混交林が広がり、尾根部にはモミ、ツガ、チョウセンゴヨウ、ハリモミを主体とする林が、溪畔にはサワグルミ、シオジ、トチノキ、カツラ、ケヤキなどの夏緑広葉樹林が成立している。北部では、ブナ-スズタケ群集、サワグルミ-ヤマタイミンガサ群集、オオバヤナギ-ミヤマウラジロイチョゴ群集が報告されている（浅野 1970）。また、巫女淵、豊口山などの石灰岩地では、ヤツガタケトウヒ群落、ヒメバラモミ群落などの石灰岩地植生が成立している（野出ほか 1998；勝木ほか 2005）。



写真1：荒川前岳の高山草原



写真2：三峰川上流域の針広混交林



写真3：巫女淵のヤツガタケトウヒ群落

## ii 南アルプスの植物相（フロラ）の特徴

（長野県環境保全研究所自然環境部長 大塚孝一）

南アルプスは南北約150kmに連なり、3000mをこえる山岳が10余りあり、広大な高山帯から山地帯までを有している。標高約2400～2500m付近を森林限界として、より上部にはハイマツ群落やシナノキンバイ、ミヤマキンポウゲなどの草本とアオノツガザクラ、チングルマなどの低小木などの高山帯植生が発達している。亜高山帯では、シラビソ、コメツガ、トウヒ等を主体とする常緑針葉樹林が良く発達している。北部の駒ヶ岳・鳳凰三山にかけては花崗岩質の岩石からなるが、その他はかつての海溝で形成された砕屑岩類（一部に火山岩や石灰岩等を含む）で構成される。地質的に古いこともあり遺存種も多く植物相は豊かである。また、山脈の西側（主に長野県側）には石灰岩の露頭が多く現れ、石灰岩地に特有な種類が見られる（清水 1963、植松 1977、1978）。

南アルプスは、フォッサマグナの西縁と中央構造線の北部に挟まれた中にあり、各々の要素の植物が混在していることも植物相を豊かにしている要因である。南アルプス全域のフロラについては、植松雄春（1977、1978）により解析的研究がなされ、所産植物の種類を、1732種（変種・品種含む）としている。

### 1. 高山植物の南限となっている種類が多い

北岳や仙丈岳などは高山植物が多く見られる山岳として有名である。南アルプスの高山植物数は356種類（変種・品種含む）とされ（横内 2004）、北アルプスの456種類（横内 2000）にはおよばないものの、南限となっている高山植物も多い。良く知られているように南アルプス光岳に近い山城がハイマツの南限となっている（清水編 1997）。また、国立・国定公園特別地域内指定植物で南アルプスを南限とする種類は109種類もある（環境庁 1982）。

### 2. 南アルプスの固有種および準固有種

南アルプスの山岳名を冠した植物があり、それらは南アルプス固有種あるいは南アルプス以外でも1～2の山岳・山城等にしか知られない準固有種のことが多い。北岳固有種のキタダケソウ、キタダケキンポウゲ、キタダケトリカブト、仙丈岳の名がついたセンジョウアザミ、赤石の名がついたアカイシ Lindoウ（写真1）、鳳凰山のホウオウシャジン、戸台白岩のシライワシャジン、その他キタダケヨモギ、サンブクリンドウ、キタダケカニツリなどがある（大場・高橋 1999; 矢原 2003）。樹木ではヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミがある（中部森林管理局 2007）。

### 3. 日本では主として南アルプスに分布する種類

シダ植物では、大陸との共通種であるが、日本では主として南アルプス山系に分布する種類としてヒイラギデンダ、センジョウデンダ、トヨグチウラボシ（写真2）、ヤシャイノデ、ウロコノキシノブ、キタダケデンダ等があり、いずれも遺存種で絶滅が危惧される種類である。種子植物では、タカネマンテマ、キタダケヤナギラン、ヒメセンブリ、ミヤマハナシノブなどがある。

#### 4. 遺伝子型の分化

北アルプスなど他の山域との共通種で、南アルプスの固有種にまで分化は進んでいない種類でも、遺伝的に分化が進んでいることが知られている。日本列島のヨツバシオガマでは、飯豊山あたりからの東北地方以北に北方系統、月山あたりからの東北地方以南で南方系統の遺伝子型をもつタイプが分布し、さらに北アルプス、八ヶ岳、南アルプスなどの山域ごとに異なったタイプのヨツバシオガマが分化している。このように南アルプスにおいても、固有な遺伝子型に分化した種類が存在することが知られている（植田・藤井 2000）。

#### 5. 石灰岩地に特有な植物

南アルプスには石灰岩地が多く、土壌はアルカリ性を呈し植物の生育に適するとは言えないが、このような特殊な環境に適応した石灰岩地域特有な植物相が形成されている。伊那市の白岩岳、戸台白岩（写真3）・幕岩、大鹿村豊口山などが主な石灰岩地で、イチョウシダ、トダイアカバナ、シライワコゴメグサ、シライワシャジン、トダイハハコ（写真4）などがみられる（植松 1977）。



写真1：アカイシリンドウ



写真2：トヨグチウラボシ



写真3：戸台白岩



写真4：トダイハハコ

## IV 動物

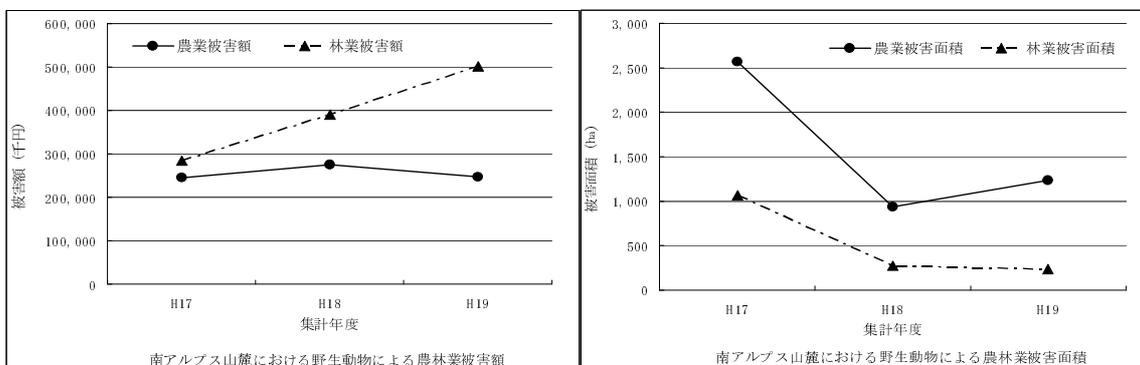
### i 南アルプスにおける野生動物と人との関係

(信州大学農学部准教授 竹田謙一)

#### 1. 野生動物と人との軋轢

1999年に「鳥獣保護および狩猟に関する法律」(以下、「鳥獣保護法」とする。)の改正に伴い、適正な生態系管理の考え方であるワイルドライフマネジメントシステムが導入された。このシステムは、個体数の管理、生息環境の整備等について目標とその方法を定め、特定鳥獣保護管理計画制度として、法律に謳われたのである。これを受けて、各都道府県は独自の保護管理計画を定め、長野県では現在、ニホンザル、ニホンカモシカ、ニホンジカ、ツキノワグマの4種について、それぞれの保護管理計画を制定した。このような保護管理計画制度が誕生した背景には、①シカやイノシシ等特定の哺乳類の増加によって、農林業被害が深刻化したこと、②ツキノワグマについては、地域によって個体群の絶滅が懸念されていることが挙げられる。

南アルプスの山麓における近年の野生動物による農林業被害額を図1に、被害面積を図2に示した。なお、集計データには中央アルプス山麓での農林業被害データも含まれているが、市町村単位で集計されているため、その両者を明確に切り離せないことを付け加えておく。長野県上伊那地方において、亀井ら(2006)が平成15年に実施した「野生動物の農業被害に関する意識調査」によれば、62.8%の農家が被害対策を実施しているにもかかわらず、被害を受けていると回答していた。しかし、直近3年間の農業被害は、何とか現状維持の傾向が見て取れ、先の意識調査実施時に比べれば、正確な情報の下、被害対策が実施され始めていると推察される。その一方、林業被害については、平成17年度と平成19年度を比較した場合、被害額は2倍に増加し、被害面積は1/2に縮小している。このことは、被害対策の一環として1つの林班全体を防護ネットで囲う取り組みがなされ始め、広く点在していた林業被害が、一部の林班が囲われたことにより、対策未実施林班に被害が集中していたと考えられる。ちなみに、農業被害をもたらす野生動物(哺乳類)は、ニホンジカ、ニホンザル、イノシシが全体の9割を占め、林業被害ではニホンジカが最も多く、全体の約56%を占め、次いでニホンカモシカ、ツキノワグマがそれぞれ約20%をしめる。



人に対する野生動物の影響がある反面、耕作地や人家付近に棲みついてしまった野生動物は、被害対策の一環として、駆除されている。例えば、長野県上伊那郡での平成18年度におけるクマの駆除頭数は25頭で、サルは221頭が駆除されている。特に、この2種の動物につい

ては、駆除と被害軽減との明確な相関が認められていないにもかかわらず（松本 2005）、ほとんどの市町村での対策は駆除一辺倒であり、不必要に多くの野生動物が殺され、その数の減少が懸念されている。

これら問題は、農林業従事者の減少による里山の荒廃によって、かつては明確だった人間の生活圏と野生動物との生活圏との境界が不明瞭になり、両者が重なり始めていることに起因する。したがって、安全で安心な営農活動や生活を保障するばかりでなく、野生動物の安易な絶滅を回避し、人と野生動物が共生できる社会の実現は、南アルプス山麓地域の緊急の課題である。

## 2. キー・スピーシーズ (Key species) としてのシカの存在

前項に述べたような人の生産活動場面以外にも、野生動物の存在によって原生的自然が危機に瀕している。その危機を引き起こしているのは、ニホンジカである。ニホンジカの高栄養状態下での繁殖率は約20%であり、5年間でその個体数が2倍になるという繁殖率の高い動物である。長野県が策定した特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）によれば、第1期計画時の南アルプス地域個体群の推定生息頭数は約19000頭だったが、5年後の第2期計画時に推定された個体数は約30000頭と1.6倍に増加し、皮肉にも、理論値に近似した増加傾向を示している。

天然生林の食害については、林業生産と直結していないため、その被害程度についての詳細なデータはないが、近年、観察されるようになった（図3）。南アルプス南部の静岡県側では、ニホンジカによる天然生林の食害について、門脇ら（2007）によって報告されている。長野県側においては、ヒノキ幼齢造林地での食害（尾上・川崎 2002）は報告されているものの、天然生林については未だ詳細な報告はない。また、南アルプスの低標高域の多くはカラマツ植林地が優占しており、その下層植生はスズタケやミヤコザサで覆われていることが多いが、図4のように葉は全てニホンジカに採食され、稈のみが立ち枯れて残っている状況も観察されるようになってきた。

さらに、「南アルプス保護地域特別調査報告書」（静岡県教育委員会・山梨県教育委員会・長野県教育委員会 2000）では、ニホンジカの個体数が増加し、ニホンカモシカの生息密度が減少した場所も見られることから、局所的に種間競争が起きていることを示唆している。このような山地帯、亜高山帯におけるニホンジカによる他の生物への圧力は、高山帯でも、懸念される事態が見られるようになった。泉山・望月（2008）は、戸台川流域で発信機を装着したニホンジカが南アルプス稜線の鞍部を往来し、標高1800m以下の低標高域で越冬していたと報告した。さらに、南アルプスの亜高山帯へ進出するニホンジカの季節移動パターンを積雪などの生息環境の質の悪化により移動する「季節的分散集中移動型」と分類し、今後も南アルプス亜高山帯に定着が進んでいく可能性があるという警鐘を鳴らしている。亜高山帯と高山帯の境界に生育しているダケカンバは、ニホンジカの食害を受け、ブランジングラインが明瞭に観察されるようになった（図5）。中部森林管理局（2007）が実施した「平成18年度南アルプスの保護林におけるシカ被害調査報告書—南アルプス北部の保護林内」によれば、南アルプス登山道周辺の雪田草原の多くがニホンジカの食害を受けていた（図6）。



図 3. ニホンジカによる剥皮被害を受けたウリハダカエデ（長野県大鹿村）



図 4. ニホンジカの採食によって立ち枯れたスズタケ（長野県大鹿村）



図 5. ニホンジカの口が届く範囲が採食され、ブラウジングライが見えるダケカンバ（南アルプス馬の背）



図 6. マルバダケブキが優占した群落（南アルプス馬の背ヒュッテ付近）

また、シナノキンバイやハクサンイチゲ、クロユリなどの高山植物はニホンジカの採食によりほとんど確認できなくなり、ニホンジカの嗜好性が低いバイケイソウやマルバダケブキが優占している（図6）。なお秋にはこれらの高山植物も採食される。

生態系の鍵といふべき強い影響力を持つ種を「キー・スピーシーズ key species」と呼ぶ。これまで述べてきたように、農林業生産物だけでなく、天然林およびその下層植生、亜高山帯の高茎草本植物群落やニホンカモシカやライチョウの生息域衰退、さらには、急峻な地形の土壌浸食をも引き起こすニホンジカは、キー・スピーシーズであり、南アルプスの多様な自然を維持していくためには、その個体数および生息域制御が非常に重要な鍵となる。

### 3. 共存に向けた野生動物の保護管理

ツキノワグマ等の地域個体群が絶滅しかねない状況下では、人の生活圏内に近づいてきた野生動物を積極的に追い払い、人と野生動物との物理的、心理的境界線を再構築する必要がある。例えば、野生動物の行動を追跡する無線システムを利用した野生動物リアルタイムモニタリングシステムを構築し、地域における営農林活動支援と野生動物との共生社会の実現が図られるだろう。

その一方、自然環境に対するインパクトも強烈なニホンジカについては、抜本的な対策を講じない限り、希少な南アルプスの自然環境を維持することは不可能だろう。世界的にも国立自然公園や世界自然遺産登録地で、シカ科動物による類似した問題が発生しており、スコットランドでは制御不能な状況にまで追い込まれている。南アルプスの亜高山帯で確認されるニホンジカは、冬季、山梨や長野の越冬地に移動することを既に紹介した（泉山・望月 2008）。今後は、越冬地を特定し、そこでのニホンジカの生態系管理捕獲が必須である（図7）。ただし、捕獲にあたっては、動物愛護の視点から虐殺であるとの批判を浴びることも予想される。このような批判に答えるためにも、捕獲一辺倒の生態系管理ではなく、科学的データに基づいたフィードバック管理の視点を常に持つことが重要である。そのためには、ニホンジカの個体群状況、生息地の植生状況、希少動植物の保全状況に関する継続的なモニタリング調査が求められる。



図7. ニホンジカの越冬場所と考えられる牧草地での大規模囲いワナ  
(長野県大鹿村)

### 引用文献

- 亀井活利ら（2006）上伊那地域における農家の獣害に対する意識調査. 日本草地学会誌, 52 (別), 416-417.
- 松本歩（2005）上伊那における獣害の実態とウシの放牧による獣害防除の可能性. 信州大学大学院農学研究科修士論文.
- 泉山茂之・望月敬史（2008）南アルプス北部の亜高山帯に生息するニホンジカ（*Cervus nippon*）の季節的環境利用. 信州大学農学部 AFC 報告, 6, 25-32.
- 中部森林管理局（2007）平成 18 年度南アルプスの保護林におけるシカ被害調査報告書 南アルプス北部の保護林内.
- 門脇正史ら（2007）南アルプス静岡地域における天然生林のニホンジカ *Cervus nippon* による被害の事例報告
- 尾上佳子・川崎圭造（2002）長野県南部におけるシカ食害の現状. 中部森林研究, 50, 69-71.

## V 昆虫

(信州大学農学部教授 中村寛志 ・ 飯田市美術博物館学芸係 四方圭一郎)

### 1. 南アルプスの昆虫相について

南アルプスの昆虫相は、高山帯を有する中部山岳地域の特徴を持っており、日本列島の中で最も多様性の高い場所の一つであることは間違いない。しかし、その中で南アルプスだけを強く特徴づける種を拾い出すことは難しいともいえる。

また、多くの分類群では南アルプスでの調査研究が極めて遅れており、調査が進んでいるチョウやガ、カミキリムシ、オサムシ、ゴミムシのような一部の分類群でも、アクセスの難しい場所では調査不足であるといえる。

それらをふまえて、一部の分類群において、南アルプスの特徴を以下にあげる。

#### <高山性鱗翅類>

高山帯や亜高山帯の沢筋などには、依存種である高山チョウや高山ガが分布している。世界的な視野に立てば、これらの種のほとんどはユーラシア大陸や周ベーリング海地域に分布している種であり、南アルプスはその世界的な分布の中で最南端の生息地となっている。そして、特に研究が進んでいるチョウ類に関しては、日本（本州）のものは、特徴的な個体群として亜種に分けられているものが多い。

さらに、タカネキマダラセセリとクモツマキチョウの南アルプスの個体群は、他の山域の個体群から分けられ、南アルプスの固有亜種として記載されている（クモツマキチョウはハヶ岳と共通亜種）。これらは南アルプス山塊に依存種として取り残されてから、南アルプス個体群が特化したことを示している。

ミヤマシロチョウは、東アジアの冷温帯に分布する種であるが、日本では中部山岳地域に依存的に生息し、日本亜種として記載されている。この中で北アルプス個体群はすでに絶滅したと考えられ、その他の生息地でも個体数の減少が報告されている。一方、南アルプスでの生息状況はまだ未調査の部分も多いが、急峻な地形を背景に比較的安定した状態であるように感じる。日本亜種の安定した生息域として南アルプスは重要である。

蛾類では、タカネツトガは日本固有種で南アルプスの高山帯のみで発見されている。微小な蛾類であるが、南アルプスの高山性昆虫のなかで、最も特徴的な種であるといえる。またキタダケヨトウは過去に3個体が採集されているのみである。現在はヨーロッパの種と同じにされているが、今後、追加標本の採集をふくめ、さらなる調査研究が必要な種といえる。

#### <地表性・地中性甲虫類>

オサムシ科やハネカクシ科など甲虫類の一部の種では、成虫の翅が退化し日本列島において著しく種分化を遂げた種がみられる。オサムシ科 *Pterostichus* 属やメクラチビゴミムシ類、ハネカクシ科 *Quedius* 属などは、山塊ごとに特徴的な種が生息する。南アルプスにおいても、トダイオオナガゴミムシ、ヒメオオズナガゴミムシ、リュウトウナガゴミムシ、ヒロガワラツヤムネハネカクシなど、多くの固有種の生息が確認されている。

## 2. 文献調査の概要

南アルプスの昆虫に関する文献は、今回の調査で294件収集した。これを昆虫の分類別に見ると、次の表1のようになる。

表1 昆虫の分類別の文献数

分類	文献数	内訳	
チョウ目	140	チョウ類	98
		ガ類	42
コウチュウ	110	オサムシ類	26
		カミキリ類	20
		ハネカクシ類	6
		コガネムシ類	4
		その他	54
カメムシ目	5		
ハエ目	24		
その他	15		
計	294		

文献数が一番多いのは、チョウ目で半数近くを占めている。次がコウチュウ目で、その中でもオサムシ類など地上性歩行虫類の文献が多いのが特徴である。

チョウ類では、いわゆる長野県で天然記念物に指定されている高山蝶のうち、クモマツマキチョウ、ミヤマシロチョウ、コヒオドシ、オオイチモンジ、ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ、タカネキマダラセセリの7種が生息している。そのうち、クモマツマキチョウは南アルプス・八ヶ岳連峰亜種、タカネキマダラセセリは南アルプス亜種とされ、北アルプスなどに生息している個体群とは別亜種に分類されている。

ガ類では高山蛾調査が行われ、成果が発表されている。南アルプスに生息する高山蛾は、これまでに5科24種とされてる。このうちタカネツトガは、日本特産種で南アルプスの高山帯にだけ分布する。また、アルプスナカジロナミシヤクとキタダケヨトウは、日本では現在のところ南アルプスの特産種である。

長野県側の山腹部分には石灰岩や蛇紋岩が分布し、そのような場所で特徴的に出現するクビジロツメヨトウ、ナマリキシタバなども南アルプスの特徴づける種といえるだろう。

一方、高山蛾に比べ、亜高山帯以下での調査は決して十分ではない。特にアクセスが難しい山地帯上部から亜高山帯にかけては、今後の調査が必要である。

甲虫類では、オサムシ類やカミキリムシ類の報告が多い。オサムシ類は後翅が退化して飛ばなくなった種が多く、日本列島内で激しく種分化している。文献調査でもトダイオオナガゴミムシやヒメオオズナガゴミムシなどのように、南アルプスをタイプローカリティとするオサムシ・ゴミムシ類の新種・新亜種記載も多く、オサムシ・ゴミムシの仲間が南アルプスにおいて

特有な進化をとげたことがわかる。

また、カミキリムシ類では、ツジヒゲナガコバネカミキリという特徴的な固有種が山麓部の長谷村から記載されている。

ハエ目もハナアブ類を中心に、近年南アルプスの記録が報告されるようになってきた。この仲間は分類学的にも研究が遅れており、亜高山帯から高山帯にかけては調査がほとんど行われていない。高標高地には未記載種や未記録集が数多く生息していることが予測され、南アルプスにおける今後の調査研究が待たれる。

主に南アルプスに生息する希少昆虫のリストを表2に示した。分類別にみるとオサムシ・ゴムシ類が13種と最も多く、次いでチョウ類が3種、カミキリムシ類が2種、バッタ類が1種である。

表2 南アルプスに棲む希少昆虫類(長野県版 RDB より)

和名	科名	カテゴリー	分布	ページ	文献番号
ヒメヒゲナガヒナバタ	バッタ科	絶滅危惧Ⅰ類	長谷村、小黒川沿川に記録	129	
ツジヒゲナガコバネカミキリ	カミキリムシ科	絶滅危惧Ⅰ類	戸台	135	62
ホソムネシラホシヒゲナガコバネカミキリ	カミキリムシ科	絶滅危惧Ⅰ類	南アルプスの山梨県・長野県・県側の亜高山・高山の針葉樹	135	B79.B130
ミヤマシロチョウ	シロチョウ科	絶滅危惧ⅠB類	長野県を中心とした亜高山帯 特別指定希少野生動植物指定種	142	
トダイオオナガゴミムシ	オサムシ科	絶滅危惧Ⅱ類	南アルプスの長谷 1998年新種記録	157	53
ヒメオオズナガゴミムシ	オサムシ科	絶滅危惧Ⅱ類	南アルプスの上村	157	53.891
ヒラノアカヒラタゴミムシ	オサムシ科	絶滅危惧Ⅱ類	富士山から南アルプスの東海	158	64
リュウトウナガゴミムシ	オサムシ科	絶滅危惧Ⅱ類	南アルプスの南信濃村、静岡県	158	892
ミヤママルガタゴミムシ	オサムシ科	絶滅危惧Ⅱ類	南アルプスの山頂・稜線、山梨・静岡	159	64
ハセツヤゴモクムシ	オサムシ科	絶滅危惧Ⅱ類	南アルプス北部の山岳帯	162	65
リュウトウツヤゴモクムシ	オサムシ科	絶滅危惧Ⅱ類	大鹿、南アルプス南部	163	66
タカネキマダラセセリ(南アルプス亜種)	セセリチョウ科	絶滅危惧Ⅱ類	長谷村の亜高山帯、南アルプス千丈岳周辺の山梨県側 指定希少野生動植物指定種	186	
クモツマキチョウ(南アルプス・ハヶ岳連峰亜種)	シロチョウ科	絶滅危惧Ⅱ類	長野県を中心とした山梨県、静岡県にかけての亜高山帯 指定希少野生動植物指定種	187	
サンプククロナガオサムシ(コクロナガオサムシ赤石山脈亜種)	オサムシ科	準絶滅危惧	近畿と中部、長野県個体群は分布域の最東北端	195	53.71
アカイシホソヒメクロオサムシ(ホソヒメクロオサムシ赤石山脈亜種)	オサムシ科	準絶滅危惧	南アルプスの亜高山帯	196	53.72
アカイシハネアカナガゴミムシ(ハネアカナガゴミムシ赤石山脈亜種)	オサムシ科	準絶滅危惧	南アルプス北部の高山帯	200	53
マスモトオオナガゴミムシ	オサムシ科	準絶滅危惧	南アルプス・富士山麓南西部	201	73
アカイシハラトゲナガゴミムシ(ヤツハラトゲナガゴミムシ赤石山脈亜種)	オサムシ科	準絶滅危惧	南アルプスの長野県側と山梨県側	201	53
アシグロツヤゴモクムシ	オサムシ科	準絶滅危惧	南アルプスの亜高山帯	202	66

南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会  
 学術調査検討委員会 委員名簿

平成21年3月現在

所 属	役 職	氏 名	専 門	備 考
信州大学農学部所属アルプス圏 フィールド科学教育研究センター	教授	中村 寛志	昆虫学	委員長
信州大学農学部所属アルプス圏 フィールド科学教育研究センター	准教授	泉山 茂之	動物生態学	
信州大学農学部	准教授	竹田 謙一	動物行動学	
信州大学農学部	講師	中堀 謙二	森林生態学	
長野県環境保全研究所	自然環境部長	大塚 孝一	植物分類学	
飯田市美術博物館	自然分野担当 専門主査	村松 武	地質学	副委員長
飯田市美術博物館	学芸員	四方 圭一郎	昆虫学	
飯田市美術博物館	学芸員	蛭間 啓	植生学	
大鹿村中央構造線博物館	学芸員	河本 和朗	地質学	

## 第2部 南アルプス学術文献リスト

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
1	地質	広域	西南日本	四万十帯、層序、構造発達史	学術誌	Aitchison, J. C.	1985	Stratigraphy, Sedimentology and Tectonic Evolution of the Shimanto Terrane, Southwest Japan	Earth science, 40, 337-363	未確認	村松	?	なし	
2	地質	南ア一部	北杜市・韮崎市(山梨)	糸魚川-静岡構造線、花崗岩	学会誌	赤石山地地質研究グループ	1969	赤石山地東麓における糸魚川-静岡構造線について(予報)	地球科学, 54, 40-45.	糸魚川-静岡構造線と直接に接する四万十帯層群は瀬戸川帯の南巨摩層群である。鳳凰山花崗岩体と焼地蔵花崗岩体は、フオッサマグナ側の御坂層に変質を与えていない。	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
3	地質	南ア一部	水窪~天竜二俣(静岡)	赤石裂線	学会誌	赤石裂線追跡グループ	1976	赤石裂線の位置	地質学論集, 13, 73-81	赤石裂線の位置と姿勢	村松	村松	なし	
4	地質	広域	南部フオッサマグナ	南部フオッサマグナ	学会誌	天野一男・マーティン J. アンドリュウ・田中館宏橋・金栗 聡・依田直樹・会津 隆	1999	島弧-島弧衝突テクトニクスと堆積盆の形成-南部フオッサマグナを例として-	構造地質, 43, 11-20	未確認	村松	村松	なし	
5	地質	広域	房総半島南部~関東山地南部、赤石山地南東部、瀬戸川	環伊豆地塊、伊豆-小笠原背弧、マントルかんらん岩	学会誌	Arai, S.	1991	The Circum-Izu Massif peridotite, central Japan, as back-arc mantle fragments of the Izu-Bonin arc system. Ophiolite Genesis and Evolution of the Oceanic Lithosphere	Minist. Petrol. & Minerals, Sultanate of Oman, p. 801-816.	環伊豆地塊に見られる、伊豆-小笠原背弧に形成された海洋リソスフェアかんらん岩の断片	狩野	狩野	静岡	
6	地質	広域	瀬戸川・小仏・葉山・嶺岡	蛇紋岩、四国海盆、マントルかんらん岩、貫入	紀要	荒井章司	1994	環伊豆地塊蛇紋岩帯	静岡大学地球科学研究報告, 20, 175-185	環伊豆地塊蛇紋岩体は、原岩のかんらん岩はハルツバージャイト~レルゾライトを主とする背弧海盆のマントルかんらん岩であり、四国海盆拡大時のすれちがいプレート境界沿いの上昇貫入した。	村松河本	村松河本	なし	
7	地質	南ア一部	岡部町青羽根~藤枝市市之瀬(静岡)	瀬戸川、四万十、蛇紋岩、超塩基性岩、ドレライト、固体貫入	学会誌	荒井章司・下川浩一	1978	瀬戸川帯の超塩基性-塩基性岩類の貫入形態に関して	地質学雑誌, 84, 691-693.	瀬戸川帯の市之瀬-青羽根に分布する超塩基性-塩基性岩体は種々の岩塊の集合体であり、泥質堆積物を介在し、泥岩を主とする地層の堆積中にスランピングにより固体貫入したものである。	狩野村松河本	狩野村松河本	静岡	
8	地質	南ア一部	静岡市大岳、岡部町青羽根~藤枝市市之瀬、島田市相賀、瀬戸川	岩石学、瀬戸川、笹山、超塩基性岩	紀要	荒井彰司・内田 隆	1979	瀬戸川帯の超塩基性岩の平衡条件について	静岡大学地球科学研究報告, no. 4, p. 19-24.	瀬戸川帯の笹山線に沿った3地域に分布する超塩基性岩類の平衡条件を、嶺岡帯、三浦半島のもの(ハルツバージャイトなど)と比較する。	狩野河本	狩野	静岡	
9	地形	南ア一部	富士見町(長野)	地形、糸魚川-静岡構造線	紀要	Arii, T.	1953	Geomorphological studies on Fujimi village and its adjacent areas in the southeastern part of Nagano Pref.	Bull. Tokyo Gakugei Univ., 5, Ser. History and Geography, 35-47.	未確認	狩野	狩野	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
10	地質	南ア一部	富士見町、糸静線(長野)	活断層、糸魚川-静岡構造線活断層系、テクトニック・バルジ	学会誌	新井慶将・今泉俊文・平川一臣・佐藤比呂志	2000	若宮断層(富士見町)のテクトニック・バルジの露頭について。	活断層研究, 19, 59-62.	糸魚川-静岡構造線活断層系の中部地域では、左横ずれ運動が卓越し、茅野~富士見では、細長いプレシャーリッジが雁行配列し、フラワーストラクチュアが推定される。	狩野河本	狩野河本	静岡	
11	地形	南ア一部	韮崎市上戸井~龍岡・南アルプス市有野、糸静線(山梨)	活断層、巨摩山地、糸魚川-静岡構造線、韮崎泥流	学会誌	浅川一郎・平川一臣	1986	巨摩山北部東縁の活断層	活断層研究, 2, 33-42	巨摩山地の東縁に西側隆起の断層地形が発達し、全体としてはA級の活動度を示す。鳳凰山下の糸魚川-静岡構造線も、その活動が停止しているとはいきれない。	狩野河本	狩野河本	静岡	
12	地質	南ア一部	静岡市井川、川根本町寸又峡、浜松市秋葉山、四万十	犬居、寸又川、in-situ、玄武岩、海嶺、沈み込み、化学組成	学会誌	麻木孝郎・吉田武義・遅沢壮一・石川正樹	1999	赤石山地南縁四万十帯、犬居・寸又川・光明層群玄武岩類の化学組成	地質学論集, 52, 181-194.	四万十帯犬居・寸又川層群中の緑色岩は、白亜紀末に海嶺沈み込みに伴い泥岩堆積場に噴出した玄武岩である。その化学組成は中央海嶺型ではなく沈み込み型である。	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
13	地物	南ア一部	静岡県浜松市春野~愛知県新城市作手、赤石構造体	構造探査	紀要	爆破地震動研究グループ	1989	静岡県-愛知県地域における爆破地震動野観測(春野-作手測線)。	震研彙報, 64, 533-551.	未確認	狩野	狩野	静岡	
14	地質	南ア一部	焼津市(静岡)	未確認	学会誌	千葉とき子	1965	静岡県高草山地域のアルカリ岩について	岩石鉱物鉱床学会誌, 54, 23-31	未確認	村松	村松	なし	
15	地質	南ア一部	焼津市(静岡)	アルカリ岩、高草山	紀要	Chiba, T.	1966	Petrology of the alkaline rocks of the Takakusayama district, Japan	Sci. Repts. Tohoku Univ., Ser. 3, 9, 541-610.	未確認	狩野	狩野	静岡	
16	地形	南ア全域	赤石山地(静岡)	巨大崩壊	紀要	千木良雅弘	1989	巨大崩壊発生の地質的要因と土砂生産-赤石山地の堆積岩の崩壊例-	電力中央研究所報告, U88064, 25, 電力中央研究所	未確認	狩野	狩野	静岡	
17	地形	広域	赤石山地南部(静岡)	岩盤クリープ、地すべり、崩壊、風化	書籍	千木良雅弘	1995	風化と崩壊-第3世代の応用地質	近未来社, 名古屋, 204p.	地震で発生した地すべり(伊豆)、結晶片岩地すべり(三波川)、堆積岩の岩盤クリープと転倒(雨畑)、転倒による巨大崩壊(大谷崩れ・七面山・赤崩れ・千枚岳)、軟岩の酸化と溶解	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
18	地形	南ア全域	赤石山地の四万十帯(静岡・山梨)	深層すべり	学会誌	Chigira, M. and Kiho, K.	1994	Deep-seated rock-slide-avalanches preceded by mass rock creep of sedimentary rocks in the Akaishi Mountains, central Japan	Engineering Geology, 38, 221-230.	未確認	狩野	狩野	静岡	
19	地物	広域	日本列島	測地学、日本列島、水準測量、上下変動、70年	学会誌	檀原 毅	1971	日本における最近70年間の総括的上下変動	測地学会誌, 17, 100-108.	水準測量データを用いて、日本列島の70年間の総括的な上下変動を求めた。赤石山地では4mm/年の隆起速度が推定された。	狩野	狩野	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
20	地質	南ア一部	赤石山脈、三河山	三波川変成帯、御荷銻緑色岩類、クラウイザナギプレート、沈み込み、高圧低温型広域変成帯	書籍	榎並正樹	2006	三波川変成帯—高温低圧型変成作用を受けたジュラ紀付加体	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 242-243	三波川変成岩や御荷銻緑色岩類は70~100Maの放射年代を示し、クラウイザナギプレートの沈み込みに伴い、低温部0.5~0.7GPa、~400°C、高温部0.8~1.1GPa、500~600°Cで再結晶した。御荷銻緑色岩類の主たる活動時期はジュラ紀前期で、スーパープリウム活動に関連した海山列または海台で形成された。岡谷の横河川の白雲母K-Ar年代は23~28Maで、その帰属は確定的でない。	河本	村松河本	なし	
21	地質	南ア一部	浜松市天竜区佐久間・天竜地域(静岡)	三波川変成岩、ユニット、面構造、線構造、四万十帯	書籍	榎並正樹・後藤益巳	2006	佐久間・天竜地域の三波川結晶片岩—海洋プレート沈み込みに伴う高圧低音型変成作用の代表的露頭	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 244-247	佐久間・天竜地域の三波川変成岩は、断層を介して西側の天竜・白倉ユニット(58~70Ma白雲母K-Ar年代)と東側の龍山・瀬尻ユニット(42~55Ma同)に分かれる。面構造・線構造の走向は西部のE-Wから東部のN-Sへ変化する。龍山・瀬尻ユニットは相対的に低い温度圧力条件下で再結晶しており、四万十帯の高圧部に相当する可能性がある。	河本	村松河本	なし	
22	地質	南ア一部	豊橋市・新城市吉祥山(愛知)	角閃岩、変斑れい岩、超苦鉄質岩、マグマ分化、大洋底変成作用、累進変成作用、パーガス閃石、アクチノ閃石、普通角閃石	書籍	榎並正樹・毛利勝廣	2006	御荷銻緑色岩類—沈み込み・付加した海洋プレート上の海台・海山	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 248-249	吉祥山岩体中南部はおもに角閃岩、北部は超苦鉄質岩・変斑れい岩・角閃岩・苦鉄質片岩や泥質片岩の大小のブロックからなる。かんらん石と斜長石の平衡晶出からマグマの分化が0.8GPa以下の低圧条件下で起こったと考えられる。火成作用で形成された角閃石は淡緑~淡褐色のパーガス閃石であるが、低圧の大洋底変成作用により、さまざまな程度に淡緑色~緑色のアクチノ閃石~普通角閃石に置換されている。しばしば周辺部に向かってAl <sub>2</sub> O <sub>3</sub> が増加する累帯構造が見られ三波川累進変成作用を被った記録と考えられる。	河本	狩野村松河本	なし	
23	地形	北部	茅野市・諏訪市・下諏訪町・岡谷市(長野)	活断層、諏訪湖、糸魚川—静岡構造線、横ずれ断層、プリアパートベズン、中央構造線	学会誌	藤森孝俊	1991	活断層からみたプリアパートベズンとしての諏訪盆地の形成	地理学評論, 64, 665-696.	諏訪湖は糸魚川—静岡構造線に沿う左横ずれ断層運動によるプリアパート盆地である。茅野市坂室の変位地形から平均変位速度は10m/1000年である。この横ずれにより中央構造線は茅野~岡谷間で12kmくらいがっている。	狩野河本	狩野河本	静岡	
24	地質	南ア一部	甲斐駒ヶ岳・鳳凰三山・焼地蔵(山梨)	花崗岩、井川—静岡構造線	学会誌	藤本丑雄・一木健二・亀井節夫・桂田保・河内洋佑・宮崎元・小沢昭三・佐藤芳治・徳岡隆夫・山田哲雄	1965	赤石山地北部の花崗岩類と糸井川—静岡構造線、赤石山地北部の地質(その2)	地球科学, 76, 15-24.	未確認	狩野	狩野河本	静岡	
25	地質	広域	西南日本	中央構造線、糸魚川—静岡構造線、新第三紀、横ずれ、諏訪	書籍	藤田至則	1973	新生代後期における中央構造線と糸魚川—静岡構造線	中央構造線, 東海大学出版会, 271-276.	中央構造線と糸魚川—静岡構造線に沿って、新第三紀の陥没盆地が分布している。糸静線の横ずれにより中央構造線は諏訪で8-12kmの水平ずりがあるとされるが、再検討を要する。	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
26	地質	南ア一部	浜松市龍山~佐久間(静岡)	三波川帯、ユニット	記念論文集	後藤益巳	1996	天竜川地域三波川帯の地質	原 郁夫先生退官記念論文集・テクトニクスと変成作用, 70-77	阿多古川断層以北の三波川帯は、天竜ユニットと下位の龍山ユニットに分けられ、龍山ユニットは低圧で変成白雲母のK-Ar年代も若いことから四万十帯の構成メンバーに対比される可能性がある。	村松河本	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
27	地質	広域	紀伊半島 中部～伊 那藤沢	中央構造線、 鹿塩マイロナ イト、領家南 縁剪断帯	学会誌	原 郁生・ 山田哲雄・ 横山俊治・ 有田正志・ 平賀祐三	1977	領家南縁剪断帯の研究	地球科学, 31, 204-217	領家南縁の延性剪断帯では、花崗岩類を構成する粗粒石英は中央構造線に向かってしだいに細粒再結晶石英集合体に変化する。原岩とマイロナイトの間に断層関係は見られない。三茶屋～高遠では形態定向配列面は中央構造線に斜交から平行に変化し線構造は水平であり、中部天竜～浦川の変成岩の線構造の向きも同様である。しかし伊那藤沢では面構造は平行で線構造は傾斜方向である。これらは領家南縁の構造と調和的である。ともに紀伊半島から高遠までは一連の左横ずれ応力場を示すが、剪断帯の変位量は東へ減じる。これは南からの押しにより関東-赤石の対曲が生じたという考えと合う。カリ長石の粗粒残晶は、特定の格子方位のものが結晶内すべりを免れて残ったもの。中央構造線にごく近い領域は後生的変形が強く考察していない。剪断帯南半は失われている。	村松 河本	村松 河本	なし	
28	地質	広域	日本列島	日本列島	学術誌	Harada, T.	1890	Die Japanischen Inseln.	Eine Topographisch-geologische Übersicht., Kaiser. Japan. Geol. Reich	未確認	村松		なし	
29	地質	南ア一部	藤枝市北方(静岡)	瀬戸川帯	紀要	春田博男	1960	藤枝市北方の地質	地学しずはた, 22, 20-27.	未確認	村松	村松	なし	
30	地質	南ア一部	伊那市長谷(長野)	紅れん片岩	紀要	橋本光男	1956	長野県における紅れん片岩の新産地	国立科博研報, 3, 2, 67-70.	未確認	村松	村松	なし	
31	地質	南ア一部	伊那市美和・伊那里(長野)	苦鉄質深成岩類	紀要	Hashimoto, M.	1957	On the basic plutonic rocks of Miwa and Inasato district, Nagano Prefecture, central Japan.	Bull. Nat. Sci. Mus., vol. 3, 137-155.	未確認	狩野 村松	狩野	静岡	
32	地質	南ア一部	伊那市美和・伊那里(長野)	紅れん石白雲母石英片岩	紀要	Hashimoto, M.	1959	Piedmontite from Piedmontite-bearing Muscovite-quartz Schist of Inasato, Nagano Prefecture	Bull. Nat. Sci. Mus., 4, 2, 183-187.	未確認	村松	村松	なし	
33	地質	南ア一部	伊那市長谷地域(長野)	変成岩, 長谷村	紀要	橋本光男	1960	長野県上伊那郡長谷村地方の変成岩	国立科学研報, vol. 5, 104-115.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
34	地質	南ア一部	静岡市竜爪山東方	静岡層群、竜爪層群、浮遊性大型有孔虫	学会誌	秦 光男・ 松丸国照	1988	静岡層群文珠層から産出する含Lepidocyclina 石灰岩礫について	地質学雑誌, 94, 715-717	静岡層群文珠層中の竜爪層群由来の石灰岩礫に前期～中期中新世の浮遊性大型有孔虫	村松 河本	狩野 村松 河本	なし	
35	地物	南ア一部	駿河湾北岸(静岡)	完新世垂直変動	紀要	羽田野誠一・津沢正晴・松島義章	1979	駿河湾北岸の完新世垂直変動と測地的上下変動	地震予知連絡会会報, 21, 101-106	未確認	村松	村松 河本	なし	
36	地質	南ア一部	浜松市浦河～飯田市(静岡、長野)	中央構造線、鹿塩、圧砕岩、領家花崗岩類	学会誌	端山好和・ 宮川邦彦・ 中島和一・ 山田哲男	1963	浦川～和田間の鹿塩構造帯	地球科学, 66, 23-31.	鹿塩構造帯における初期の研究史と概略を述べ、圧砕性岩石の記載と、領家花崗岩類やホルンフェルスとの関連を考察。圧砕性の岩石はマイロナイトではなく変動時侵入岩である。	狩野 河本	狩野 村松 河本	静岡	
37	地質	広域	西南日本	中央構造線、領家花崗岩、鹿塩圧砕岩、鹿塩時階	書籍	端山好和・ 山田哲雄	1973	領家深成作用と鹿塩時階の中央構造線	杉山隆二編「中央構造線」、東海大学出版会, 1-7.	鹿塩圧砕岩は鹿塩時階の中央構造線に古期領家花崗岩が進入した変動時侵入岩である。中央構造線の北方への湾曲は鹿塩時階に生じたと考えられる。	狩野 河本	狩野 村松 河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
38	地質	広域	西南日本	中央構造線、 領家花崗岩、 鹿塩庄砕岩、 鹿塩時階	学会誌	Hayama, Y., Yamada, T.	1980	Median Tectonic Line at the stage of its origin in relation to plutonism and mylonitization in the Ryoke Belt	Memoirs of the Geological Society, 18, 5- 26	未確認	村松	狩野、 村松	なし	
39	地質	南ア一部	伊那山脈 (長野)	中央構造線、 マイロナイト、 再結晶石英、 形態定向配列	学会誌	林 正貴・ 高木秀雄	1987	長野県南部における中央 構造線沿いの庄砕岩にみ られる再結晶石英の形態 ファブリック	地質学雑誌, 93, 349-359.	中央構造線沿いのマイロナイトの再結晶石英には、結晶粒子の形態定向性が見られ、左ずれ剪断センスが読み取れる。	狩野、 河本	狩野、 村松、 河本	静岡	
40	地形	広域	未区分	線状凹地	学会誌	桧垣大助	1996	水系の発達からみた線状 凹地と崩壊、地すべりと の関係	季刊地理学、 48, 1, 33-41, 東 北地理学会	未確認	狩野	狩野	静岡	
41	地質	南ア一部	韮崎市 (山梨)	下円井断層、 糸魚川-静岡 構造線、活断 層、露頭	学会誌	平川一臣・ 神沢公男・ 浅川一郎	1989	巨摩山地北東縁・下円井 の活断層露頭	活断層研究, 6, 43-46.	下円井の活断層露頭では、走向NNW低角西傾斜の断層で、西側基盤の花崗閃緑岩が東側の扇状地性の礫層に衝上している。	狩野、 河本	狩野、 河本	静岡	
42	地質	南ア一部	本川根町 (静岡)	地質図	図幅	平野 勇	1983	2万5千分の1大井川長島 ダム広域地質図	建設省中部地方建 設局長島ダム工事 事務所.	地質図	狩野	狩野、 村松、 河本	静岡	
43	地質	南ア一部	浜松市門 楯付近 (静岡)	四万十帯	卒論	廣田 豊		赤石山地南部、気田川 中・上流域の四万十帯	静岡大学理学部卒 論, 81p.	未確認	狩野	狩野	静岡	
44	地震	広域	相模・駿 河トラフ	プレート沈み 込み	学会誌	本座栄一	1984	相模・駿河トラフにおけ る沈み込みの形態	第四紀研究, 23, 77-81	未確認	村松	狩野、 村松	なし	
45	地質	南ア一部	浜松市天 竜区龍山 町(静岡)	峰の沢鉱山、 中央構造線、 赤石裂線、三 波川、別子、 鉱床、石英脈	学会誌	堀越義一・ 片野豊夫	1940	静岡県峰の沢鉱山付近の 地質鉱床概報	地質学雑誌, 47, 91-102.	中央構造線と赤石裂線に挟まれた三波川帯の、別子型鉱床の岩石および千枚岩中の石英脈の、偏光顕微鏡下で観察される産状を記す。	狩野、 河本	狩野、 村松	静岡	
46	地質	広域	甲府周 辺、東 濃・三河 (山梨・ 長野・岐 阜・愛 知)	日本海拡大、 花崗岩、中新 統	書籍	星 博幸	2006	甲府周辺の深成岩と東 濃・三河の中新統一日本 海拡大と中央構造線	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝 倉書店, 356-357	中部日本の空虚構造のうち西翼側の東濃・三河地方の屈曲は北設垂層群や富草層群が堆積した17~18Maと南設垂層群が堆積した15Maの間に、西南日本の時計回り回転に際して島弧内差別回転荷より生じた。	河本	狩野、 村松、 河本	なし	
47	地質	広域	南部 フォッサ マグナ	ネオテクトニ クス、応力場	学会誌	星野一男	1984	応力場、活断層と南部 フォッサマグナのネオテ クトニクス	第四紀研究, 23, 117-128	未確認	村松	村松	なし	
48	地質	広域	富士川上 流域(山 梨)	新第三系	学会誌	富士川団体 研究グルー プ	1976	富士川上流域における新 第三系の地質構造につい て	地質学論集, 13, 329-348	富士川上流域に見られる4つの小盆地は小ブロックの異なる垂直運動により形成された。	村松、 河本	村松	なし	
49	地質	広域	南部 フォッサ マグナ	地殻歪	学会誌	藤井陽一郎	1984	南部フォッサマグナ地域 の地殻歪とそのテクト ニックな意義	第四紀研究, 23, 91-103	未確認	村松	村松	なし	
50	地質	南ア一部	駿河湾沿 岸(静岡)	竜爪層群、静 岡層群~浜石 岳層群、浮遊 性有孔虫、地 質年代	学会誌	茨木雅子	1981	浮遊性有孔虫による南部 フォッサマグナ新第三系 の地質年代	地質学雑誌, 87, 47-49	駿河湾沿岸では、竜爪層群から前期中新世、静岡層群~浜石岳層群から後期中新世の浮遊性有孔虫が得られ、中期中新世の地層を欠く。	村松、 河本	狩野、 村松、 河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
51	地質	南ア一部	静岡市足久保	瀬戸川層群、浮遊性有孔虫、中期始新世	学会誌	茨木雅子	1983	瀬戸川層群滝沢累層の貝化石層準および石灰岩層から産出した中期始新世の浮遊性有孔虫群	地質学雑誌, 89, 57-59	瀬戸川層群南部足久保貝化石層準と石灰岩層から中期始新世の浮遊性有孔虫を発見	村松河本	狩野、村松、河本	なし	
52	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	瀬戸川層群、石灰岩、浮遊性有孔虫、中期-後期始新世	学会誌	Ibaraki, M.	1984	Middle-late Eocene planktonic foraminiferal faunas from limestones of the Setogawa Group, central Japan	Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., no. 135, p. 401-414.	未確認	狩野	狩野	静岡	
53	地質	広域	南部フォッサマグナ	新第三紀、浮遊性有孔虫	紀要	Ibaraki, M.	1989	Geologic ages of the Noogene sequences of the South Fossa Magna Based on Planktonic Foraminifera	Reports of Faculty of Science, SHIZUOKA UNIVERSITY, 23, 85-99	未確認	村松	村松	なし	
54	地質	南ア一部	菊川市長池(静岡)	掛川層群、堀之内砂岩シルト岩互層、前弧海盆	書籍	茨木雅子	2006	堀之内砂岩シルト岩互層-陸上に露出する前弧海盆埋積堆積物	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 416-417	菊川市堀之内周辺に露出する規則的に繰り返す砂岩シルト岩互層は堀之内層と呼ばれ、堆積盆地の中心部からかなり早い速度で堆積した。凝灰岩層から3.3Ma, 2.4Ma, 1.9MaのFT年代が得られた。上部では1枚の互層の堆積間隔が100年と見積もられている。	河本	狩野、村松、河本	なし	
55	地質	南ア一部	焼津市高草山(静岡)	シルト岩、浮遊性有孔虫	紀要	Ibaraki, M. Tsuchi, R.	1982	Planktonic Foraminifera from Silt Intercalations in The Takakusayama Alkali Basalt Complex of The Ryuso Group, Shizuoka, Japan	Reports of Faculty of Science, SHIZUOKA UNIVERSITY, 16, 117-125	未確認	村松	村松	なし	
56	地質	南ア一部	赤石山地中、東部(静岡・山梨)	後期中生界	研究報告	一木健二・遠藤 忠・小沢昭三・桂田 保・高山昭明・樋口 正・藤本●雄・宮崎 元・宮沢忠治	1958	赤石山地中、東部の時代未詳層群について	日本の後期中生界の研究連絡誌, 7, 90-96.	未確認	村松	村松	なし	
57	地質	南ア一部	赤石山地南東部(静岡)	瀬戸川帯、チャート	紀要	Iijima, A., Inagaki, H., Kakuwa, Y.	1979	Nature and origin of the Paleogene cherts in the Setogawa Terrain, Shizuoka, central Japan.	Jour. Fac. Sci. Univ. Tokyo, sec. 2, 20, 1-30.	未確認	狩野、村松	狩野	静岡	
58	地質	南ア一部	赤石山地南東部(静岡)	瀬戸川帯、チャート、第三紀層	紀要	Iijima, A., Matsumoto, R. and Watanabe, Y.	1981	Geology and siliceous deposits in the Tertiary Setogawa terrain of Shizuoka, central Honshu.	Jour. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Sec. II, 20, 241-276.	未確認	狩野	狩野	静岡	
59	地質	南ア一部	大鹿村大河原(長野)	塩基性・超塩基性岩類	学会誌	飯泉 滋	1972	長野県大河原付近に産する塩基性・超塩基性岩類のRb・Sr含量とSr同位体比	岩石鉱物鉱床学会誌, 67, 203-208	未確認	村松	村松	なし	
60	地質	南ア一部	山梨県南巨摩地域	糸魚川-静岡構造線	紀要	井尻正二	1940	山梨県南巨摩郡の糸魚川-静岡構造線に就いて	震研彙報, 18, 340-343.	未確認	狩野	狩野	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
61	地質	南ア一部	静岡市真富士山～竜爪山	竜爪層群, アルカリ岩	学会誌	池田保夫	1978	静岡県竜爪層群の火成岩類について	岩石鉱物鉱床学会誌, vol. 73, p. 47-57.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
62	地質	南ア一部	飯田市上村上町・下栗(長野)	秩父帯, ルートマップ	紀要	池戸昭夫	1979	下栗地域の地質調査資料	下伊那自然研究紀要, 2, 153-155.	下栗地域の秩父帯の地質	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
63	地質	南ア一部	飯田市上村下栗(長野)	秩父帯, 下栗, 地質分布図	紀要	池戸昭夫・坂本正夫	1978	上村下栗地域の地質, 下伊那自然研究紀要, 1, 81-83.	下伊那自然研究紀要, 1, 81-83.	下栗地域の秩父帯の地質	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
64	地質	南ア一部	飯田市南信濃八重河内～浜松市草木(長野・静岡)	秩父帯, 八重河内, ルートマップ	紀要	池戸昭夫・坂本正夫	1981	南信濃村ヒョー越峠周辺の地質, 下伊那紀, 4, 81-84.	下伊那自然研究紀要, 4, 81-84.	ヒョー越地域の秩父帯の地質	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
65	地質	南ア一部	静岡市・焼津市大崩海岸	葡萄石	学会誌	今吉隆吉	1948	静岡県大崩海岸産葡萄石	鉱物と地質, 2, 38.	未確認	狩野	狩野	静岡	
66	地質	南ア一部	静岡市・焼津市大崩海岸	ダトー石	学会誌	今吉隆吉・桜井欽一	1950	静岡県大崩海岸産ダトー石, 鉱物と地質	鉱物と地質, 3, 249-250.	未確認	狩野	狩野	静岡	
67	地質	南ア一部	浜名湖北方(静岡)	みかぶ帯, 塩基性超塩基性複合岩体	学会誌	猪俣道也	1978	浜名湖北方雨生山・富幕山周辺における“みかぶ緑色岩”と超塩基性複合岩体の地質	地球科学, 32, 336-344	愛知静岡県境地域のみかぶ帯には、鉄に富みダナイトとウェールライトを主とする大小の超塩基性岩体が分布する。下位にウエールライト、中部ではんれい岩層をはさみながら最上位の角閃石に移り変わる。	村松河本	狩野村松河本	なし	
68	地質	南ア一部	長野県諏訪～甲府盆地西縁	糸魚川-静岡構造線活断層系	学術誌	井上大栄・宮腰勝義・遠田晋次・三浦大助・阿部信太郎・上田圭一・青柳恭平・幡谷竜太	2000	糸魚川-静岡構造線活断層系の活動性解明に向けて-南部セグメントの活動性について-	月刊地球/号外, 28, 101-112.	未確認	狩野	狩野	静岡	
69	地質	南ア一部	飯田市和田～浜松市水窪(長野・静岡)	水窪層, 和田層	学会誌	乾 真一・宮田隆夫	1982	赤石山地・水窪層・和田層の地質構造	地質学会関西支部報, 91, 4.	未確認	狩野	狩野	静岡	
70	地形	広域	日本	氷河地形	学会誌	五百沢智也	1966	日本の氷河地形	地理, 11(3), 24-30	未確認	狩野	狩野	静岡	
71	地形	広域	日本アルプス	鳥瞰図	書籍	五百沢智也	1979	鳥瞰図譜-日本アルプス	講談社, 190.	未確認	狩野	狩野	静岡	
72	地震	南ア一部	駿河湾地域(静岡)	地震時地殻上下変動	学会誌	石橋克彦	1984	駿河湾地域の地震時地殻上下変動	第四紀研究, 23, 105-110	未確認	村松	狩野村松	なし	
73	地質	南ア一部	早川町新倉内河内川(山梨)	環伊豆地塊, 瀬戸川層群, 蛇紋岩帯, ピクライト質玄武岩, 岩石学	学会誌	石田 高・荒井章司・高橋奈津子	1990	瀬戸川帯北部の変成ピクライト玄武岩類	地質学雑誌, 96, 181-191.	山梨県新倉の瀬戸川帯北部の変成ピクライト玄武岩類の母マグマは、ハワイなどのプレート内ソレライトに類似したものである。	狩野河本	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
74	地質	南ア全域	赤石山地 (長野・静岡・山梨)	鉱産資源	報告書	石井清彦ほか	1955	赤石山地の地質及び鉱産資源	長野県資源調査研究会編, 地質調査報告書, 173-181. 信教出版.	未確認	狩野	狩野	静岡	
75	地質	南ア一部	赤石山地 (長野)	地質, 岩石	紀要	Ishii, K., Ueda, Y., Shimazu, M.	1956	The Geology and Petrology at the Ina District in the Akaishi Mountain Range, Nagano Prefecture	Sci. Rep. Tohoku Univ., Ser. III	未確認	村松	狩野, 村松	なし	
76	地質	南ア一部	長野県赤石山地	地質, 岩石	学会誌	石井清彦・植田良夫・島津光夫	1953	長野県赤石系の地質及び岩石	岩鉱, 37, 123-130.	未確認	狩野	狩野	静岡	
77	地質	南ア一部	静岡市大河内横山	有孔虫, 暁新世, 始新世	学会誌	石井基裕・牧野融	1946	瀬戸川統より発見せられたる高等有孔虫 Discocyclina について (予報)	地質学雑誌, 52, 1-2.	安倍川上流横山の, 宇津谷峠付近から連続すると考えられる石灰岩から, 暁新世初期~始新世後期の有孔虫を発見した。	狩野, 河本	狩野, 村松	静岡	
78	地質	南ア一部	大鹿村桶谷(長野)	領家帯, 変輝緑岩, 花崗岩化, 化学組成	学会誌	石井求・山田哲雄	1962	長野県小渋川流域の変輝緑岩の花崗岩化作用	地質学雑誌, 68, 797, 109-117.	大鹿村桶谷の伊那山地領家帯の片麻状花崗岩体に含まれる細粒塩基性捕獲岩は, その外縁において, 花崗岩化作用により周囲の花崗岩に移化し, 粗粒化および化学組成が花崗岩に近づいていく。	狩野, 河本	狩野, 村松, 河本	静岡	
79	地質	南ア一部	犬居層群(静岡)	犬居層群, in-situ 玄武岩	研究報告	石川正樹・遅沢壮一	1997	犬居層群 in-situ 玄武岩の産状	基盤研究(A)付加体形成における緑色岩の意義, 研究報告, 2, 53-56.	未確認	狩野	狩野	静岡	
80	地質	南ア一部	焼津市高草山(静岡)	アルカリ岩類	学会誌	石川政憲	1976	静岡県高草山地域のアルカリ岩類	地質学論集, 13, 367-379.	高草山層群は主に瀬戸川帯に貫入したアルカリ岩からなり, 噴出中心は南または南西へ移動した。	狩野, 河本	狩野, 村松	静岡	
81	地質	広域	三河・程野・上青木(愛知・静岡・長野)	三波川変成帯, 超苦鉄質岩類	研究報告	磯貝勝則	1977	中部地方の三波川変成帯にみられる超苦鉄質岩類	秀敬編, 三波川帯, 77-87, 広島大学出版研究会	中部地方三波川帯の超苦鉄質岩類は, 1 御荷鉢帯に産するもの, 2三波川帯プロパーに産するもの, 3秩父帯に産するものに分けられる。上青木岩体・程野岩体は周囲の泥質片岩・塩基性片岩とは貫入関係にある。上青木岩体の蛇紋岩はニッケル・クロムを多く含む。	村松, 河本	狩野, 村松, 河本	なし	
82	地質	南ア一部	浜名湖北方(静岡)	「古生層」	紀要	磯見博	1958	静岡県浜名湖北方の古生層	地調月報, 9, 2	未確認	村松	狩野, 村松	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
83	地質	広域	日本列島	ウィルソン・サイクル, 超大陸ロディニア, マントル・ブリューム, 超海洋, 揚子地塊, 中朝地塊, 海嶺沈みこみ, 付加体, 対の変成帯, 中央構造線, 縁海, 海洋島弧, 衝突	学会誌	磯崎行雄	1998	日本列島の起源と付加体造山帯の成長ーリフト帯での誕生から都城型造山運動へー	地質学論集, 50, 89-106	7億年間の日本列島形成史は超海洋である太平洋の出現から消滅までのウィルソン・サイクルの前半～中期の歴史である。超大陸ロディニアの分裂で生じた古太平洋の海洋地殻の断片は、5億年前に始まった沈み込みにより揚子地塊に付加した。大陸沖合いには最初の島弧が形成された。4億年前に最初の海嶺沈み込みが起こり、日本海側の対の変成帯が形成された。3億年前にシベリア直下のコールドブリュームが発生して大陸の集合が始まり、揚子地塊は中朝地塊に衝突し、ともにローレンシア大陸の一部になり、後にパンゲア超大陸の一部になった。揚子地塊の南側では海洋プレートの沈み込みが継続し、ペルム紀～白亜紀の付加体が形成された。1億年前にクラ・プレートと太平洋プレート間の海嶺が東アジアに沈み込み、三波川帯の低温高压変成岩が絞り出されるとともに、内陸に花崗岩バソリスが形成された。古第三紀にも太平洋プレートのしずみこみと付加体の成長が継続した。一方、東アジアの直下に小規模なホットブリュームが生じ、2500～2000万年前には活発化し、大陸地殻の一部は伸張して日本海・千島海盆・渤海などの縁海を造った。このときに白亜紀の弧ー海溝系産物の配列が大きく変更され、白亜紀前期の海溝付近でできた三波川変成帯と、本来100～200km大陸側でできた領家花崗岩・変成岩が中央構造線で接した。ユーラシア・太平洋・フィリピン海プレートの三重会合点通過後には、フィリピン海プレートが島弧分裂で拡大しながら西南日本の下に沈み込み、やがてフィリピン海プレート東縁に到達した海洋島弧である伊豆ー小笠原弧が衝突するようになった。一方、東北日本の下にはブルーム起源の突起物に富んだ太平洋プレートが沈み込み、既存の付加体を侵食した。	河本	狩野村松, 河本	静岡	
84	地質	広域	南部フォッサマグナ	花崗岩	学術誌	Ito, H., Sorkhabi, R. B., Tagami, T. and Nishimura, S.	1989	Tectonic history of granitic bodies in the South Fossa Magna region, central Japan: new evidence from fission-track analysis of zircon	Tectonophysics, 166, 331-344.	未確認	狩野	狩野	静岡	
85	地質	広域	天竜川, 豊川, 渥美半島 (静岡・愛知)	礫	紀要	伊藤通玄	1966	天竜川・豊川および渥美半島の礫に関する研究	静岡地学, 6, 15-17	未確認	村松	村松	なし	
86	地質	広域	西南日本東部	古地磁気	学会誌	Itoh, Y.	1988	Differential rotation of the eastern part of southwest Japan inferred from Paleomagnetism of Cretaceous and Neogene rocks	Journal of Geophysical research, 93, 3401-3411	未確認	村松	村松	なし	
87	地質	南ア一部	富士見・茅野 (長野・山梨)	糸静線活断層系, 発掘	紀要	糸静線活断層系発掘調査研究グループ	1988	糸静線活断層系中部, 若宮, 大沢断層の性格と第四紀後期における活動ー富士見, 茅野における発掘調査	地震研究所彙報, 63, 349-408.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
88	地質	南ア全域	赤石山地 (長野・静岡・山梨)	中生界	研究報告	岩井四郎・ 亀井節夫・ 立木省治・ 松島信幸・ 吉田幸文	1958	赤石山地の中生界	日本の後期中生界 の研究連絡誌, 7, 79-89.	未確認	村松	村松	静岡	
89	地質	広域	西南日本	みかぶ帯	学会誌	岩崎正夫	1969	三波川帯と秩父帯との境界にある変成岩類—いわゆる”みかぶ帯”の岩石	地質学論集, 4, 41-50.	みかぶ緑色岩は噴出岩と貫入岩に分けられる。貫入岩は変はんれい岩、輝緑岩、超塩基性岩、超苦鉄質岩からなり、変はんれい岩は粗粒でぶどう石を伴い、輝緑岩は細粒で緑簾石をとまう。噴出岩は玄武岩質熔岩と火砕岩からなる。みかぶ緑色岩体は向斜上に背斜構造をもって載る。原岩はMgOとFeOに富む。	狩野	狩野	静岡	
90	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	貝化石	学会誌	Iwasaki, Y., Ono, S.	1977	A molluscan assemblage of the Setogawa Group	Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., 106, 106-121.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
91	地形	広域	日本アルプス	最終氷期の重力地形、山岳永久凍土	学会誌	岩田修二	2003	日本アルプスにおける最終氷期の重力地形・氷河最拡大期・山岳永久凍土	第四紀研究, 42, 181-193.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
92	地形	広域	南部フォッサマグナ	南部フォッサマグナの地形	学会誌	貝塚爽平	1984	南部フォッサマグナに関する地形とその成立過程	第四紀研究, 23, 55-70.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
93	地形	広域	日本列島	日本の山地地形	書籍	貝塚爽平・ 鎮西清高・ 小崎尚・五 百沢智也・ 松田時彦・ 藤田和夫	1986	日本の自然2日本の山(特に1.5, 4.1, 4.2, 7.2節を参照), 259p.	岩波書店	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
94	地質	南ア一部	赤石山地(山梨)	未確認	学会予稿	亀井節夫	1960	赤石山地の四万十帯とフォッサマグナ帯	地団研総会検討会 資料, 14, 10	未確認	狩野	狩野	静岡	
95	地形	南ア一部	仙丈ヶ岳・藪沢(長野)	氷河地形	学会誌	神沢公男・ 平川一臣	2000	南アルプス仙丈ヶ岳・藪沢の最終氷期の氷河作用と堆積段丘	地理学評論 Ser. A, 73, 2, 124-136	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
96	地形	南ア一部	仙丈ヶ岳・藪沢(長野)	氷河地形	学会誌	神沢公男・ 平川一臣	2000	式正英 [『南アルプス仙丈ヶ岳・藪沢の最終氷期の氷河作用と堆積段丘』の問題点を既往の研究から考察する]への反論	地理学評論 Ser. A, 73, 11, 820-823	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
97	地質	南ア一部	安倍川上流(静岡)	地質調査	紀要	兼高靖之	1959	静岡県安倍郡大日峠東方の地質	地学しずはた, 19, 37-41.	未確認	村松	狩野 村松	なし	
98	地質	南ア一部	安倍川上流(静岡)	地質調査	紀要	兼高靖之・ 鈴木隆夫・ 鈴木忠夫・ 中野二志夫・ 中山豊	1958	安倍川上流地域地質調査	地学しずはた, 15, 11-16.	未確認	村松	狩野 村松	なし	
99	地質	南ア一部	赤石山地北部(長野)	放散虫	紀要	金本高明・ 大塚 勉	2000	赤石山地北部の秩父帯から産出したジュラ紀中世放散虫化石群集	信州大学理学部紀 要, 35, 69-78.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
100	地質	南ア一部	長野県諏訪湖南方	イライト結晶度	紀要	金本高明・ 大塚 勉	2000	イライト結晶度からみた長野県諏訪湖南方における三波川帯・秩父帯・四万十帯の弱変成作用	信州大学理学部紀 要, 35, 11-29.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
101	地質	南ア一部	戸台(長野)	戸台層, 花崗岩礫, 後背地	学会誌	加納 博	1961	赤石山地戸台層の含花崗質岩礫岩とその問題点 - 含花崗質岩礫岩の研究(その9)	地質学雑誌, 67, 362.	戸台層の礫岩の後背地には浅成~半深成酸性岩が多く, カリ長石が多い花崗岩は領家新时期花崗岩類に似ている。また後背地は大規模な流紋岩・斑岩・花崗岩複合地域であったと考えられる。	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
102	地質	南ア一部	大井川源流部(静岡)	大井川源流	報告書	狩野謙一	1981	大井川源流部原生自然環境保全地域の地質	大井川源流部原生自然環境保全地域調査報告書, 日本自然保護協会, 43-54.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
103	地質	南ア一部	光明層群-赤石山地最南部(静岡)	四万十帯, 白亜紀	紀要	狩野謙一	1984	光明層群-赤石山地最南部の四万十帯白亜系	静岡大学地球科学研報, 10, 55-85.	未確認	狩野村松	狩野村松	静岡	
104	地質	南ア一部	浜松市天竜二俣(静岡)	二俣西断層, 左横ずれ, 前期中新世	学会誌	狩野謙一	1988	赤石裂線の中新世以降における左横ずれ運動	地質学雑誌, 94, 629-632.	二俣川の天竜川合流点付近で発見した二俣西断層は, 西傾斜で秩父帯と二俣層群の境界をなす逆断層成分をもつ左横ずれ断層で, 前期中新世とされる二俣層群堆積後も活動した。	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
105	地質	広域	不明	未確認	学術誌	狩野謙一	1997	イライト結晶度からみた付加体泥質岩の続成~弱変成度	月刊地球, 19, 173-178.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
106	地質	広域	光明断層(静岡)	赤石構造帯	紀要	狩野謙一	1998	光明断層	カタログ: 日本の断層と断層岩, 日本大学文学部自然科学研究所「研究紀要」, 101	高角左横ずれ断層。赤石構造帯の形成は前期中新世に始まり, 中期中新世前期以後に左横ずれ変位があった。	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
107	地質	広域	四万十帯	ウィルソンサイクル, 付加体, 四万十帯, デュープレックス, 断層, 褶曲, メランジュ組織, 続成作用・弱変成作用	学会誌	狩野謙一	1998	付加体の構造地質学-四万十帯を中心とした研究の現状と課題-	地質学論集, 50, 107-130	日本列島に露出する付加体は, ウィルソン・サイクルの終末となる大陸同士の大規模な衝突による変形を受けておらず, 付加体の研究に最適な場所である。とりわけ西南日本の四万十帯は, 秩父帯, 美濃-丹波帯などのジュラ紀付加体とともに, 世界で最も詳しく調査された付加体である。いままでデュープレックス・out-of-sequence thrust・back thrust, 付加体中の褶曲, メランジュ組織, 続成作用・弱変成作用が解析されてきた。今後は3次元の変形や物質循環を明らかにしなければならない。	村松河本	狩野村松河本	なし	
108	地質	南ア全域	稜線部(長野・静岡・山梨)	ルートマップ, 登山道, 岩石, 地形	書籍	狩野謙一, 2001	2001	赤石山地(南アルプス)のできるまで	村松 武・四方圭一郎・下平 勉・編, 「南アルプスの山旅 地形・地質観察ガイド」, 飯田市美術博物館, 109-117.	登山道沿いの地質のルートマップと解説	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
109	地質		未区分	未確認	冊子	狩野謙一	2001	付加体の地質構造の見方	深田研ライブラリー, 39, 29p.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
110	地質	広域	西南日本	伊豆弧, 衝突, 構造改変	紀要	狩野謙一	2002	伊豆弧衝突にともなう西南日本弧の地殻構造改変	地震研研究所彙報, 77, 231-248.	未確認	狩野	狩野	静岡	
111	地質	広域	中部地方	未確認	書籍	狩野謙一	2006	断層・構造線: 傷だらけの中部地方	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 112-131.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
112	地質	広域	西南日本	秩父帯、四万十帯、付加体、整然相、メランジュ相、前弧海盆、逆くの字型屈曲、傾動隆起	書籍	狩野謙一	2006	秩父帯と四万十帯—外帯の付加体の形成と改変および上昇・削剝	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 250-253	秩父帯は三河地域南部、赤石裂線と光明断層に挟まれた赤石構造帯北部、赤石山地北西部に分布する。主体は三宝山帯(秩父帯南帯)である。赤石山地北部の地層の走向は南北で東方傾斜し、陸側に傾斜した覆瓦構造を持つとされる一般構造から大きく変化している。三波川変成帯との境界付近には走向方向の断層で挟まれた粗粒の堆積岩を主体とし白亜紀前期の浅海生化石を産する伊平層・水窪層・戸台層が1km以下の幅で分布し、秩父帯中帯(黒瀬川帯)に対比できる。四万十帯は、赤石構造帯の南部や光明断層と笹山断層の間の四万十主帯と、笹山断層と糸魚川—静岡構造線の間の瀬戸川帯に分けられる。主体の赤石層群・白根層群・寸又川層群・犬居層群は白亜紀—古第三紀初期の四万十帯北帯にあたり、古第三紀—新生代新第三紀中新世前期の三倉層群は南帯にあたる。白根層群・犬居層群・三倉層群の一部がメランジュ相を呈しており、沈み込み帯で形成され陸側に付加した構造性メランジュと考えられている。赤石山地の最南部では四万十帯の地層は中新世以降に三笠層群や掛川層群などの前弧海盆堆積物で覆われている。本来は海側フェルゲンツを持つ付加体としての秩父帯・四万十帯の基本構造は大きく北方に回転変位するとともに陸側へ傾斜した「逆くの字型めくれあがり屈曲」を呈するとともに、変成度は秩父帯・四万十のユニット境界を切って北方ほど増加している。赤石山地北部で顕著な変成・塑性変形は作用は中新世前期以降に生じ、13Ma頃に低温の脆性変形領域に移行した。北部の部分的に急激な隆起の開始は鮮新世後期の曙礫岩層に記録されている。西方では2Ma以降に山地から流出した大量の砂礫は伊那層の巨大扇状地を形成した。1Ma頃には天竜川をヒンジ線として西方への傾動を伴う隆起を起こした。南方に大量の礫からなる小笠層群が現れるのは0.95Ma以降である。	河本	狩野村松河本	なし	
113	地質	南ア一部	四万十帯 犬居層群 (静岡)	未確認	書籍	狩野謙一	2006	犬居層群のテクトニックメランジュ—白亜紀最末期—古第三紀初頭の太平洋プレートの左斜め沈み込みによる付加ユニット	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 264-265	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
114	地質	南ア一部	四万十帯 三倉層群 (静岡)	未確認	書籍	狩野謙一	2006	三倉層群の整然砂岩泥岩互層—南方からの古流向を示す四万十南帯を特徴付けるタービダイト	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 266-267	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
115	地質	南ア一部	四万十帯 瀬戸川層群 (静岡)	未確認	書籍	狩野謙一	2006	瀬戸川層群整然相の海洋プレート層序—付加された海底火山近傍の海洋性堆積物	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 268-269	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
116	地質	南ア一部	南部 フォッサ マグナ (山梨)	未確認	書籍	狩野謙一	2006	富士川層群 累層の粗粒タービダイト—衝突地塊に挟まれたトラフ充填堆積物	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 380-381	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
117	地質	南ア一部	赤石裂線 (静岡)	未確認	書籍	狩野謙一	2006	左横ずれ変位を示す赤石裂線—外帯の地帯構造を再配置させた赤石構造体中の断層露頭	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 438-439	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
118	地質	南ア一部	糸静線 (山梨)	未確認	書籍	狩野謙一	2006	西山温泉付近の糸魚川—静岡構造線—瀬戸川プレート—の塑性変形が示す初期左横ずれ運動	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 442-443	未確認	河本	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
119	地形	南ア一部	安倍川上流(静岡)	未確認	書籍	狩野謙一	2006	大谷崩一解体していく赤石山地(南アルプス)	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 500-501	未確認	河本	狩野村松 河本	なし	
120	地質	南ア一部	糸静線(山梨)	未確認	書籍	狩野謙一・河本和朗	2006	糸魚川ー静岡構造線新倉露頭ー西南日本と南部フォッサマグナの境界断層の代表露頭	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 444-445	未確認	河本	狩野村松 河本	なし	
121	地質	南ア一部	甲斐駒ヶ岳・鳳凰山(山梨)	甲斐駒・鳳凰花崗岩体, 桃の木層, 接触変成, 糸魚川ー静岡構造線	書籍	狩野謙一・村松武	2006	甲斐駒・鳳凰花崗岩一屈曲した赤石山地基盤岩に貫入する外帯花崗岩	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 360-361	甲斐駒・鳳凰花崗岩体の主体は自形斑状カリ長石を含み変輝緑岩質捕獲岩を含む鳳凰型粗粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩で, 西部では甲斐駒型の粗粒優白質黒雲母花崗岩がとりまき, 東側は糸ー静線に切られる。周囲の四万十帯と南部の桃の木層に接触変成を与えているが, 桃の木層はそれ以後に接触熱変成以後に糸ー静線による大きな水平変位を受けていない。	河本	狩野村松 河本	なし	
122	地質	広域	西南日本	未確認	学会誌	Kano, K., Kosaka, K., Murata, A. and Yanai, S.	1990	Intra-arc deformations with vertical rotation axes: the case of the pre-Middle Miocene terranes of Southwest Japan	Tectonophysics, 176, 333-354.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
123	地質	広域	西南日本	未確認	学会誌	狩野謙一・小坂和夫・村田明広・柳井修一	1990	先新第三系中に発達する鉛直に近い回転軸を持つ様々な形態の(屈曲)ー中期中新世における西南日本の時計回り回転と関連してー	構造地質, 35, 11-21	未確認	村松	狩野村松 河本	なし	
124	地質	南ア全域	赤石山地(長野・静岡・山梨)	未確認	学会誌	Kano, K. and Matsushima, N.	1988	The Shimanto Belt in the Akaishi Mountains, eastern part of Southwest Japan	Modern Geol., 12, 97-126.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
125	地質	南ア一部	赤石山地南部(静岡)	未確認	巡検資料	狩野謙一・村松武	2003	赤石山地南部の四万十帯	日本地質学会第110年学術大会見学旅行案内書, 67-81.	未確認	狩野	狩野村松 河本	静岡	
126	地質	南ア一部	赤石山地中・南部(静岡)	未確認	研究報告	狩野謙一・村松武	1982	赤石山地中・南部の四万十帯白亜系	総合研究A 「四万十帯褶曲帯の形成過程」研究成果報告書, 3, 26-33.	未確認	狩野	狩野	静岡	
127	地質	南ア一部	四万十帯寸又川層群(静岡)	未確認	書籍	狩野謙一・村松武	2006	寸又川層群の砂岩泥岩互層ー付加された深海底扇状地~海溝充填堆積物	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 262-263	未確認	河本	狩野村松 河本	なし	
128	地質	南ア一部	四万十帯(静岡)	未確認	紀要	狩野謙一・村松武・廣田豊	1986	四万十帯層群の変形様式ー赤石山地南部の上部白亜系に見られる例ー	静岡大学地球科学研報, 12, 89-114.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
129	地質	南ア一部	赤石山地 (静岡)	未確認	学会誌	Kano, K., Nakaji, M. and Takeuchi, S.	1991	Asymmetrical melange fabrics as possible indicators of the convergent direction of plates: a case study from the Shimanto Belt of the Akaishi Mountains, central Japan.	Tectonophysics, 185, 375-388.♂	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
130	地質	広域	四万十帯	未確認	紀要	狩野謙一・ 竹内真司・ 中路正弥	1991	メランジュ中の非対称変 形組織 - 四万十におけ る例 -	静岡大学地球科学 研報, 17, 63-85.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
131	地質	南ア一部	赤石構造 帯(静岡・長 野)	未確認	学会誌	狩野謙一・ 田中秀実・ 吉田智治・ 松井信治	1993	赤石構造帯の形成過程 - 中新世における西南日本 弧東部の地殻改変と関連 して -	地質学論集, 42, 203-223.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
132	地質	南ア一部	四万十帯 (静岡)	未確認	学会予 稿	狩野謙一・ 田邊祐高	1994	イライト結晶度による付 加帯の続成〜弱変成度の 検討: 四万十帯での例	日本地質学会第 101年総会・討論 会講演要旨, 93- 94.	未確認	狩野	狩野 河本	静岡	
133	地質	南ア一部	山梨県早 川地域	未確認	修士論 文	唐沢 譲	1991	山梨県早川地域における 瀬戸川層群スレート帯の 構造解析	静岡大学理学部卒 業論文, 139p.	未確認	狩野	狩野	静岡	
134	地質	南ア一部	糸魚川- 静岡構造 線南部 (山梨)	未確認	修士論 文	唐沢 譲	1993	糸魚川-静岡構造線南部 の運動と瀬戸川スレート の変形-中期中新世にお ける赤石山地の地殻変動 -	静岡大学理学部修 士論文, 122p.	未確認	狩野	狩野	静岡	
135	地質	南ア一部	赤石山地 東部(山 梨)	未確認	学会誌	唐沢 譲・ 狩野謙一	1992	赤石山地東部の四万十 帯、瀬戸川層群中のス レート帯の形成とその変 形過程	地質学雑誌, 98, 761-777.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
136	地形	南ア一部	仙丈ヶ 岳、藪沢 圏谷(長 野)	未確認	学会誌	刈谷愛彦・ 小松陽介・ 青山雅史	2002	仙丈ヶ岳、藪沢圏谷にお ける礫の風化皮膜厚から みた完新世岩石水河流動 の可能性	地学雑誌 111, 594-600.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
137	地質	南ア一部	安倍川上 流(静岡)	未確認	紀要	笠原芳雄・ 神間貞吉・ 橋本行雄	1957	安倍川上流大谷川流域の 地質	地学しずはた, 12, 9-13.	未確認	村松	狩野 村松	なし	
138	地質	南ア一部	木曾駒東 方(長野)	未確認	研究報 告	片田 正人	1967	木曾駒東方の領家帯最高 変成部の形成について	あかいし, 9, 4- 5. 赤石山地地質 研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
139	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	加藤国雄・ 妻木 敏	1981	清水市黒川周辺地域の静 岡層群	静岡地学, 44, 1- 9	未確認	村松	狩野 村松	なし	
140	地質	南ア一部	島田市相 賀(静岡)	未確認	紀要	Kato, S., Morishita, A.	1984	Oga Formation and Fossil Kewia	Bulletin of the Mizunami Fossil Museum, 11, 49- 54.	未確認	狩野	狩野	静岡	
141	地質	南ア一部	大井川層 群(静岡)	未確認	紀要	加藤 進・ 平松 力・ 井上洋子	1997	大井川層群の石灰質ナン ノ化石と有孔虫化石のSr 同位体年代.	瑞浪市化石博物館 研究報告, 25, 89-95	未確認	村松	狩野 村松	なし	
142	地質	東海沖	瀬戸川帯、相 良層群、掛川 層群	未確認	学会誌	加藤 進・ 井上洋子・ 矢口良一	1989	基礎試錐「御前崎沖」の 層序	地質学雑誌, 95, 851-864	未確認	河本	狩野 村松 河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
143	地質	南ア一部	大井川層群(静岡)	未確認	紀要	加藤 進・井上洋子・鵜飼光男	1992	大井川層群の有孔虫化石	瑞浪市化石博物館研究報告, 19, 379-391.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
144	地質	南ア一部	三倉層群(静岡)	未確認	紀要	加藤 進・柴田 博・井上洋子	1991	大井川下流域の三倉層群の化石	瑞浪市化石博物館研究報告, 18, 53-65.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
145	地物	広域	東海地方	未確認	学会誌	加藤照之	1984	東海地方の地殻上下変動	第四紀研究, 23, 111-116.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
146	地形	南ア全域	赤石山地(長野・静岡・山梨)	未確認	学会誌	Kawabata, D., Oguchi, T. and Katsube, K.	2001	Effects of geology on slope angles in the southern Japanese Alps - A GIS approach -	Transactions, Japaneses Geomorphologica Union, 22, 827-836.	未確認	狩野	狩野	静岡	
147	地質	南ア一部	遠山川(長野)	未確認	学会誌	川端清司	1984	赤石山地遠山川地域の四十万帯より産出した白亜紀放射虫化石とその意義	地球科学, 38, 215-219.	未確認	狩野	狩野村松 河本	静岡	
148	地質	南ア一部	赤石山地(長野・山梨)	未確認	研究報告	河内 洋佑	1965	Fracture cleavage, transposition structure および panpery schist--変形作用の発展--	あかいし, 7, 5-8. 赤石山地地質研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
149	地質	一般	一般	未確認	研究報告	河内洋佑	1967	シアについて	あかいし, 9, 5-11. 赤石山地地質研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
150	地質	一般	未区分	未確認	研究報告	河内洋佑	1973	構造線という言葉	あかいし, 11, 1-4. 赤石山地地質研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
151	地質	南ア一部	赤石中軸帯(山梨)	未確認	学会誌	河内洋佑・菅家延征	1966	コンセントリック褶曲する石英脈から推定した赤石中軸帯の短縮量	地質学雑誌, 74, 9-20.	未確認	狩野	狩野村松 河本	静岡	
152	地質	南ア一部	大鹿村(長野)	未確認	学会誌	河内洋佑・渡辺暉夫	1972	長野県大鹿地方の三波川帯及び秩父帯中の残留単斜輝石	岩鉱, 67, 110.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
153	地質	広域	西南日本	未確認	学会誌	Kawachi, Y., Watanabe, T., Landis C. A.	1982	Origin of mafic volcanogenic schists and related rocks in the Sambagawa belt, Japan	Jour. Geol. Soc. Japan, 88, 797-817	未確認	村松	狩野村松	なし	
154	地質	南ア一部	市野瀬地域(長野)	地質図 市野瀬	図幅	河内洋佑・湯浅真人・片田正人	1983	市野瀬地域の地質。地域地質研究報告(5万分の1図幅)	地質調査所	地質図 市野瀬	狩野	狩野村松 河本	静岡	
155	地質	南ア一部	大鹿村高森山林道(長野)	マイロナイト	紀要	河本和朗	2005	長野県大鹿村高森山林道沿いの異なる原岩から形成されたマイロナイトの特徴	伊那谷自然史論集, 6, 49-70	断層深部で結晶塑性変形を受けて形成されるマイロナイトは、トータル岩、花崗閃緑岩、変成岩という原岩のちがいに、異なるみかけを呈する。	河本	狩野村松 河本	なし	
156	地質	南ア一部	大鹿村(長野)	未確認	書籍	河本和朗	2006	中央構造線北川露頭-西南日本内帯と外対の地質境界断層	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 430-431	未確認	河本	狩野村松 河本	なし	
157	地質	南ア一部	大鹿村(長野)	未確認	書籍	河本和朗	2006	高森山林道の鹿塩マイロナイト帯-上部地殻の異なる深度で形成された断層岩類	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 432-433	未確認	河本	狩野村松 河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
158	地形	南ア一部	安倍川上流(静岡)	未確認	報告書	建設省静岡河川工事事務所	1987	安倍川砂防史	建設省	未確認	狩野	狩野	静岡	
159	地形	広域	西南日本	未確認	学会誌	Kiminami, K., Miyashita, S., Kawabata, K.	1994	Ridge collision and in situ greenstones in accretionary complexes: An example from the Late Cretaceous Ryukyu Islands and southwest Japan margin	The Island Arc, 3, 103-111	未確認	村松	狩野, 村松	静岡	
160	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	Kimura, T.	1959	A sharp bent of the Median tectonic line and its relation to the Akaishi tectonic line. -Tectonic significances yielded by lateral faults.	Jap. Jour. Geol. Geogr., 30, 215-232.	未確認	狩野	狩野, 村松	静岡	
161	地質	南ア全域	西南日本東部	未確認	学会誌	Kimura, T.	1961	The lateral faulting and geologic structure of the eastern part of Southwest Japan.	Japanese Journal of Geol. Geogr., 31, 317-330.	未確認	狩野	狩野	静岡	
162	地質	南ア一部	赤石裂線(静岡)	未確認	学会誌	Kimura, T.	1961	The Akaishi tectonic line in the eastern part of Southwest Japan.	Jap. Jour. Geol. Geogr., 32, 119-136.	未確認	狩野	狩野, 村松	静岡	
163	地質	南ア一部	三倉層群(静岡)	未確認	学会誌	Kimura, T.	1966	Thickness distribution of sandstone beds and cyclic sedimentations in the turbidite sequences at two localities in Japan.	Bulletin of the Earthquake Research Institute, 44, 561-607	未確認	狩野	狩野, 村松	静岡	
164	地質	南ア一部	大井川流域南部(静岡)	未確認	記念論文	木村敏雄	1967	大井川流域南部の四万十層群の地質構造-小構造による構造解析の例-	佐々保雄教授還暦記念論文集, 21-38.	未確認	狩野	狩野, 村松	静岡	
165	地質	南ア一部	南アルプス・スーパー林道(長野)	未確認	紀要	木下房男	1978	南アルプス・スーパー林道に露出する岩石	下伊那紀, 1, 77-80.	地質 ルートマップあり スーパー林道 北沢峠 戸台層 戸台構造線 緑色岩	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
166	地質	南ア一部	三峰川上流(長野)	未確認	紀要	木下房男	1979	三峰川上流の地質	下伊那自然研究紀要, 2, 131-143.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
167	地質	南ア一部	三峰川・小瀬戸峡・大鹿村・黒川沢(長野)	未確認	紀要	木下房男	1980	赤石山地の御荷鉢緑色岩類について - 三峰川・小瀬戸峡および大鹿村・黒川沢での観察 -	下伊那紀, 3, 157-176.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
168	地質	南ア一部	大鹿村黒川(長野)	未確認	紀要	木下房男	1981	赤石山地の御荷鉢緑色岩類 - 大鹿村黒川での観察 その2 -	下伊那紀, 4, 73-80.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
169	地質	南ア一部	長谷村浦(長野)	未確認	紀要	木下房男	1982	上伊那郡長谷村浦地区の紅レン片岩の新産地	下伊那紀, 5, 73-75.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県 リストアップ	備考
170	地質	南ア一部	大鹿村地蔵峠(長野)	未確認	学会誌	木下房男	1982	長野県大鹿村地蔵峠の中央構造線の新露頭	地質学雑誌, 88, 413-415.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
171	地質	南ア一部	大鹿村黒川(長野)	未確認	紀要	木下房男	1983	長野県大鹿村黒川に分布するハンレイ岩体(特に輝石および角閃石について)	下伊那紀, 6, 119-126.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
172	地質	南ア一部	三波川変成帯(長野)	未確認	学会誌	木下房男	1983	赤石山地の三波川帯の塩基性岩--とくに御荷銻緑色岩について--信州の地質構造発達史をめぐして-その2(第三紀)・(中古生界)・(岩石・構造)	地学団体研究会-信州の地質構造発達史, 104-106	未確認	狩野	狩野	静岡	
173	地質	南ア一部	大鹿村黒川(長野)	未確認	紀要	木下房男	1984	長野県大鹿村黒川のはんれい岩体。-単斜輝石の化学分析から言えること-	下伊那紀, 7, 115-118.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
174	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	木下亀城	1940	静岡県朝比奈鉱山の縞状格魯謨鉄鉱	地学雑誌, 52, 612, 50-59.		村松	狩野村松河本	なし	
175	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	紀要	北村健治	1966	古白亜紀の化石「三角貝」を訪ねて。その1、その2、その3。	伊那路, 10巻, 50-54, 186-191, 321-327.	未確認	狩野	狩野	静岡	
176	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	紀要	北村健治	1980	赤石山地のアンモナイト	伊那, 29(11), 3-4.	未確認	狩野	狩野	静岡	
177	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	紀要	北村健治	1981	戸台層産頭足類(綱)化石とその地質時代	明星学苑高校研究報告, 56年, 1-18.	未確認	狩野	狩野	静岡	
178	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	研究報告	北村健治	1983	赤石山地秩父帯白亜系戸台層	信州の地質構造発達史をめぐして, 2, 44-47.	未確認	狩野	狩野	静岡	
179	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	紀要	北村健治・松川正樹・小島郁生・松本達郎	1979	赤石山地白亜系戸台層の時代	国立科学博物館専報, 12, 55-64.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
180	地質	南ア一部	水窪(静岡)	未確認	紀要	北村健治・松島信幸	1984	赤石山地水窪層産の三角貝化石の再検討	下伊那教育会, 自然研究紀要, 6, 135-143.♂	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
181	地質	南ア一部	瀬戸川(静岡)	未確認	記念論文集	北里洋	1980	瀬戸川層群からの深海性底生有孔虫化石群集。平朝彦・田代正之編。四万十帯の地質学と古生物学	甲藤次郎教授還暦記念論文集, 林野弘済会高知支部, 179-214.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
182	地形	南ア一部	三峰川・小渋川(長野)	未確認	研究報告	北沢秋司	1970	三峯川及び小渋川の流出砂礫について。	第90回日林論, 413-415.	未確認	狩野	狩野	静岡	
183	地形	南ア一部	大鹿村小塩沢(長野)	未確認	学会誌	北沢秋司	1981	長野県下伊那郡大鹿村小塩沢地すべりについて	地すべり, 17, 4, 1-9.	未確認	狩野	狩野	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
184	地質	広域	日本列島	未確認	学会誌	小林靖広・ 喬木秀雄・ 加藤 潔・ 山後公二・ 柴田 賢	2000	日本の古生代花崗岩類の 岩石化学的性質とその対 比	地質学論集, 56, 65-88	未確認	狩野	狩野	静岡	
185	地質	広域	日本列島	未確認	学会誌	小崎尚	1988	第四紀後半の日本の山地 の地形形成環境	第四紀研究, 26, 255-263.	未確認	狩野	狩野	静岡	
186	地形	南ア一部	大井川源 流部(静岡)	未確認	報告書	小泉武栄・ 柳町 治・ 山川信之	1981	大井川源流部原生自然環 境保全地域の地形と土壌	大井川源流部原生 自然環境保全地域 調査報告書, 財団 法人日本自然保護 協会, 43-54.	未確認	狩野	狩野	静岡	
187	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	学会誌	小松俊文・ 北村健治	2002	長野県長谷村「戸代の化 石」保存会	化石, 72, 48-50	未確認	村松	狩野 村松	なし	
188	地質	南ア一部	甲斐駒一 鳳凰(山梨)	未確認	研究報告	小坂和夫・ 滝沢 茂	1992	マイロナイトの形成過程 における花崗岩の組織変 化 糸魚川-静岡線に沿う 甲斐駒花崗岩を例として	月刊地球, 14, 209-220.	未確認	狩野	狩野	静岡	
189	地質	南ア一部	和田(長野)	未確認	学会誌	小坂共栄・ 増田信吾・ 柴 正博	1991	赤石山地西縁部の和田層 から産出した前期中新世 の浮遊性有孔虫化石	地球科学, 45, 475-479.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
190	地質	南ア一部	山梨県早 川	未確認	研究報告	小山 彰	1984	山梨県早川沿いの糸魚川 -静岡構造線-特に断層 帯の形成について-	地質学雑誌, 90, 1-16.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
191	地質	南ア一部	下葛木衝 上断層(山梨)	未確認	研究報告	小山 彰	1988	下葛木衝上断層-糸魚川- 静岡構造線の屈曲部-	地質学雑誌, 94, 257-277.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
192	地質	南ア一部	楯形山 (山梨)	未確認	研究報告	Koyama, A.	1991	Collision of the Kushigatayama Block with the Honshu Arc during the Middle Miocene.	Modern Geology, 15, 331-345.	未確認	狩野	狩野	静岡	
193	地質	南ア一部	巨摩山 地・富士 見山東麓 (山梨)	未確認	学会誌	久保田勲・ 浅川一郎・ 平川一臣・ 今泉俊文	1989	巨摩山地・富士見山東麓 の活断層	活断層研究, 7, 43-48.	未確認	狩野	狩野	静岡	
194	地質	南ア一部	諏訪湖南 西(長野)	未確認	研究報告	窪田安打	1999	長野県諏訪湖南西方にお ける塩嶺累層の火山層序 と地質構造-島弧会合部 における後期鮮新世-前 期更新世の火山活動史-	地質学雑誌, 105, 25-44.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
195	地形	南部 フォッサ マグナ	甲府盆地 (山梨)	未確認	学会誌	隈元 崇・ 池田安隆	1993	南部フォッサマグナ, 甲 府盆地の低角逆断層の地 下構造とネットスリップ	地震, 46, 245- 258.	未確認	狩野	狩野	静岡	
196	地質	広域	赤石山地	未確認	研究報告	公文富士夫	1989	四万十累帯白亜系の砂岩 組成の特徴	総研連絡紙, 変動 帯の砂岩, 1, 50- 54.♂	未確認	狩野	狩野	静岡	
197	地質	南ア全域	赤石山地 (長野・ 静岡)	未確認	研究報告	公文富士 夫・川端清 司	1986	赤石山地の四万十累帯白 亜系の砂岩組成	碎屑性堆積物の研 究, 4, 17-32.♂	未確認	狩野	狩野	静岡	
198	地物	南部 フォッサ マグナ	甲府盆地 (山梨)	未確認	学会誌	國友孝洋・ 志知龍一	1996	重力異常から見た甲府盆 地の境界断層	地震, 48, 439- 450.	未確認	狩野	狩野	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
199	地質	南ア一部	糸静線 (山梨)	未確認	書籍	林 愛明	2006	活断層としての糸魚川-静岡構造線, 国界橋露頭-現在も左横ずれ運動をしている糸魚川-静岡構造線	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 440-441	未確認	河本	狩野村松 河本	なし	
200	地質	南ア一部	富士川断層帯(静岡)	未確認	書籍	林 愛明	2006	富士川河口断層帯芝草断層-完新世における活動性	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 4460-447	未確認	河本	狩野村松 河本	なし	
201	地形	南ア一部	安倍川上流(静岡)	未確認	学会誌	町田 洋	1959	安倍川上流部の堆積段丘-荒廃山地にみられる急速な地形変化の一例-	地理学評論, 32, 520-531.	未確認	狩野	狩野	静岡	
202	地形	広域	中部地方	未確認	書籍	町田 洋・松田時彦・海津正倫・小泉武栄・編	2006	日本の地形5 中部	東京大学出版会, 東京, 385p.	未確認	狩野	狩野村松 河本	静岡	
203	地質	南ア一部	入笠山地域(長野)	未確認	紀要	Maeda, S. et al.	1967	Two Species of Trigoniids from the Todai Formation in the Nyugasayama district, Central Japan	Ann. Rep. Foreign Students Coll. Chiba Univ., 2, 89-93.	未確認	狩野	狩野	静岡	
204	地質	南ア一部	伊那市長谷塩平地域(長野)	未確認	紀要	前田四郎	1969	赤石山地西麓塩平地域の戸台層の地質構造に関する事実と考察	千葉大留学生部研究報告, 4, 37-40.	未確認	狩野	狩野	静岡	
205	地質	南ア一部	入笠山地域(長野)	未確認	研究報告	前田四郎・川辺鉄哉	1967	赤石山地入笠山地域の戸台層の地質構造	早坂一郎先生記念文集, 307-316.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
206	地質	南ア一部	赤石山地南部(静岡)	未確認	紀要	前田四郎・川辺鉄哉	1970	赤石山地南部上部白亜紀水窪層産植物化石について	千葉大留学生部研究報告, 5, 9-11.	未確認	狩野	狩野	静岡	
207	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	紀要	Maeda, S., Kitamura, K.	1964	Lower Cretaceous Trigoniids from the Todai Formation, central Japan	J. Coll. Arts Sci., Chiba Univ., 4, 47-57.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
208	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	紀要	前田四郎・北村健治	1965	赤石山地西部戸台層の層序と構造	千葉大文理紀要, 4, 323-332.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
209	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	紀要	MAEDA S.・KITAMURA T.	1964	Lower Cretaceous Trigoniids from the Todai Formation, Central Japan	Journal of the College of Arts and Sciences, Chiba University, 4, 47-65	未確認	村松	狩野村松	なし	
210	地質	南ア一部	大鹿村入沢井(長野)	未確認	学会誌	牧本 博	1978	長野県下伊那地方の入沢井超苦鉄質複合岩体の岩石学	地質学雑誌, 84, 317-329.	未確認	狩野	狩野村松 河本	静岡	
211	地質	南ア一部	高遠地域(長野)	未確認	図幅	牧本 宏・高木秀雄・宮地良典・中野 俊・加藤碩一・吉岡敏和	1996	高遠地域の地質, 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)	地質調査所, 114p.	地質図	狩野	狩野村松 河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
212	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	牧野剛士・道林克禎	1997	中部地方中央構造線沿いに露出するマイロナイトの全岩主成分元素組成	静岡大学地球科学研究報告, 24, 1-13	未確認	村松	狩野, 村松, 河本	なし	
213	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	槇山次郎	1934	遠江二俣町付近第三紀層及び地質構造概説	地球, 21, 399-412.	未確認	狩野	狩野	静岡	
214	地質	南ア一部	赤石山地南方(静岡)	未確認	研究報告	槇山次郎	1937	三倉層及大井川層の層位学及古生物学	服部報恩会研究抄録, 3集, 287-290.	未確認	狩野	狩野	静岡	
215	地質	南ア一部	水窪地域(静岡)	未確認	紀要	増田俊明・長瀬雅之・山本啓司	1986	静岡県北西部水窪地域の中央構造線付近のS-Cマイロナイト	静岡大学地球科学研報, 12, 75-87.	未確認	狩野	狩野	静岡	
216	地質	南ア一部	水窪地域(静岡)	未確認	紀要	増田俊明・山本啓司・道林克禎・伴 雅子	1990	静岡県北西部水窪地域での中央構造線の位置の再検討	静岡大学地球科学研報, 16, 49-65.	未確認	狩野	狩野, 河本	静岡	
217	地形	南ア全域	南アルプス(静岡)	未確認	報告書	増沢武弘・編著	2007	南アルプスの自然	静岡県環境森林部自然保護室, 368p.	未確認	狩野	狩野, 村松	静岡	
218	地質	南ア一部	南部フォッサマグナ(山梨・静岡)	未確認	学会誌	松田時彦	1960	富士川谷新第三系の地質	地質学雑誌, 67, 79-96.	未確認	村松	狩野, 村松, 河本	なし	
219	地質	広域	南部フォッサマグナ	未確認	学会誌	松田時彦	1984	南部フォッサマグナの弯曲構造と伊豆の衝突	第四紀研究, 23, 151-154	未確認	村松	狩野, 村松	なし	
220	地質	広域	南部フォッサマグナ	未確認	書籍	松田時彦	1984	南部フォッサマグナ - その湾曲構造発達史	藤田和男・編, 「アジアの変動帯 - ヒマラヤと日本海溝の間 -」, 海文堂, 東京, 127-146.	未確認	狩野	狩野	静岡	
221	地質	南ア一部	赤石山地東部(山梨)	未確認	紀要	松田時彦・栗谷川幸子	1965	赤石山地東部の変成作用	地震研究所 報, 43, 209-235.	未確認	狩野	狩野	静岡	
222	地震	南ア一部	未区分	未確認	紀要	松田時彦・柴野陸郎	1965	昭和40年4月20日静岡・清水付近地震の被害地調査報告 - とくに地震学的地塊について	地震研究所彙報, 43, 625-639	未確認	村松	狩野, 村松	なし	
223	地質	広域?	赤石山地	未確認	学会誌	松田達生・小泉雅一・杉山雄一・坂 幸恭	1998	イライト結晶度測定における碎屑性雲母粒子の影響	地質学雑誌, 104, 718-721.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
224	地質	南ア一部	四万十帯(静岡)	未確認	紀要	Matsumoto, E.	1964	The Asagai-Poronaian molluscs from Shizuoka Prefecture, central Japan.	Mem. Coll. Sci., Kyoto Univ., Ser. B, vol. 31, p. 95-112.	未確認	狩野	狩野	静岡	
225	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	紀要	Matsumoto, E.	1966	Oligocene molluscs from the Setogawa Group in central Japan.	Bull. Nat. Sci. Mus., ser. C, 14, 661-669.	未確認	狩野	狩野	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
226	地質	南ア一部	大井川下流(静岡)	未確認	紀要	Matsumoto, E.	1966	Geology of the Palaeogene and Lower Neogene Formations in the lower course of River Ooigawa, Shizuoka prefecture, Central Japan.	Memoir of the College of Science, University of Kyoto, Ser. B., XXXIII, 2, Geology and Mineralogy, 115-133.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
227	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Matsumoto, E.	1971	Oligocene Molluscs from the Setogawa Group in Central Japan	Bull. Nat. Sci. Mus., 14, 661-669	未確認	村松	?	なし	
228	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	紀要	Matsumoto, E., Hirata, M.	1972	Akebiconcha uchimuraensis (Kuroda) from the Oligocene formations of the Shimanto Terrain	Bull. Nat. Sci. Mus., ser. C, 15, 753-760.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
229	地質	広域	未区分	未確認	学会誌	松本達郎・小島郁生・田代正之・太田喜久・田村実・松川正樹・田中均	1982	本邦白亜系における海成・非海成層の対比	化石, 31, 1-26	未確認	村松	狩野村松	なし	
230	地質	南ア一部	四万十帯(静岡)	未確認	紀要	Matsumoto, T., Okada, H. and Sakurai, S.	1978	Record of a Cretaceous ammonite from the Akaishi Mountains, Central Japan.	Proc. Japan Acad., 54, Ser. B, 321-334.	未確認	狩野	狩野	静岡	
231	地形	南ア一部	赤石山脈主稜線(長野・静岡・山梨)	未確認	学会誌	松岡憲知	1985	赤石山脈主稜線部における線状凹地の分布と岩石物性	地理学評論, 58, 411-427.	未確認	狩野	狩野河本	静岡	
232	地形	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	松岡憲知	1991	赤石山脈の高山環境における地温の通年観測	地形, 12, 41-49	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
233	地形	南ア一部	日本アルプス主稜線	未確認	学会誌	松岡憲知・上本進二, 1984: 日本アルプス主稜線部の組織地形, 地理学評論, 57, 263-281.	1984	日本アルプス主稜線部の組織地形	地理学評論, 57, 263-281.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
234	地質	南ア一部	赤石山地北中部(長野・静岡・山梨)	未確認	研究報告	松島信幸	1956	赤石山地北中部の地質特に構造と中生界について	後期中生界連, 4, 7-9.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
235	地質	南ア一部	赤石山地 北中部 (長野・ 静岡・山 梨)	未確認	研究報 告	松島信幸・ 岩井四郎・ 亀井節夫・ 窪田定雄	1956	赤石山地北・中部の中生 界	後期中生界研連, 3, 48-51.	未確認	村松	狩野 村松 河本	静岡	
236	地質	南ア一部	三峰川上 流(長野)	未確認	研究報 告	松島信幸	1956	三峰川上流の地質調査報 告	上伊那資料, 3, 3-9.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
237	地質	南ア一部	遠山川流 域(長野)	未確認	図幅	松島信幸	1970	天竜川水系遠山川流域地 質図5万分の1及び同説 明書	長野県企画部	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
238	地質	南ア一部	下伊那 (長野)	地質図	下伊 那	松島信幸	1972	10万分の1下伊那地質図	下伊那史編纂会.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
239	地質	南ア一部	赤石山地 (長野・ 静岡)	未確認	書籍	松島信幸	1973	赤石山地の中央構造線	杉山隆二編「中央 構造線」, 東海 大學出版会, 9- 27.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
240	地質	南ア一部	遠山地方 (長野)	未確認	研究報 告	松島信幸	1976	赤石山地・遠山地方にお ける赤石裂線と秩父帯の 問題	中央構造線の形成 過程に関する総合 研究, 連絡誌, 1.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
241	地質	南ア一部	赤石山地 (長野)	未確認	研究報 告	松島信幸	1977	赤石山地の中央構造線現 地討論会報告	MTL・中央構造線, 2, 97-102.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
242	地質	南ア一部	赤石山地 (長野・ 静岡・山 梨)	未確認	紀要	松島信幸	1978	南アルプスの地質構造 - 赤石山地四十帯の地質 構造 -	下伊那自然研究紀 要, 1, 119-134.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
243	地質	南ア一部	赤石山地 ~伊那谷 (長野)	未確認	研究報 告	松島信幸ほか	1978	赤石山地から伊那谷にか けて広域的にみた中央構 造線の運動像	MTL・中央構造線, 3, 103-110.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
244	地質	南ア一部	遠山川 (長野)	未確認	紀要	松島信幸	1979	遠山川で観察した諸構造 のいくつかについて - 1978年・四十帯白根層 群地質調査の覚書 -	下伊那紀, 2, 179-202.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
245	地質	南ア一部	未区分	未確認	研究報 告	松島信幸	1980	和田層と水窪層との問題	中生代造構作用の 研究・総合研究A 「中生代造構作 用」構造総研連絡 誌, 2, 49-55	未確認	村松	狩野 村松 河本	なし	
246	地質	南ア一部	和田層 (長野)	未確認	紀要	松島信幸	1980	和田層の問題	下伊那教育会, 自 然研究紀要, 3, 211-218.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
247	地質	南ア一部	光岳~易 老岳~遠 山川(長 野)	未確認	紀要	松島信幸	1982	赤石山地四十帯中軸部 のメランジュ帯 - 光岳 ~易老岳~遠山川での観 察 -	下伊那教育会, 自 然研究紀要, 5, 99-110.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
248	地質	南ア一部	赤石山地 (長野・ 静岡)	未確認	研究報 告	松島信幸	1983	赤石山地における中生代 変動と後和田層変動	信州の地質構造発 達史をめぐって, 2, 48-51.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
249	地質	南ア一部	和田(長 野)	未確認	紀要	松島信幸	1983	ポスト和田変動について -赤石・関東両山地の対 曲はいつできあがったか -	下伊那紀, 6, 133-138.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
250	地質	南ア一部	和田(長野)	未確認	紀要	松島信幸	1990	赤石山地の和田層と赤石裂線・中央構造線・赤石山地の構造問題	飯田市美術博物館研究紀要, 1, 29-49.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
251	地質	南ア一部	赤石山地(長野)	未確認	紀要	松島信幸	1994	赤石山地の中央構造線に対する新しい見方	飯田市美術博物館研究紀要, 4, 111-120.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
252	地質	南ア一部	伊那谷(長野)	未確認	紀要	松島信幸	1995	伊那谷の造地形史-伊那谷の活断層と第四紀地質-	飯田市美術博物館調査報告書, 3, 145p.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
253	地質	南ア全域	赤石山地(長野・静岡・山梨)	未確認	紀要	松島信幸	1997	赤石山地形成論-ポスト和田変動と中央構造線付近のまくれ上がりについて-	飯田市美術博物館研究紀要, 7, 145-162.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
254	地質	南ア一部	三峰川沿い(長野)	未確認	紀要	松島 信幸	2001	南アルプス北部, 三峰川沿いの更新世後半(海洋酸素同位体ステージ6以降)の造地形史	飯田市美術博物館研究紀要, 11, 79-96	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
255	地質	南ア全域	南アルプス(長野・静岡・山梨)	未確認	書籍	松島 信幸	2001	赤石山地--五十余念の回想--	南アルプスの山旅--地形・地質観察ガイド--, 94-102. 飯田市美術博物館	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
256	地質	伊那谷	未区分	未確認	書籍	松島 信幸	2006	伊那谷断層系 念通寺断層-断層がつくる伊那谷の段丘	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 452-453	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
257	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	研究報告	松島信幸・亀井節夫・岩井四郎・吉田幸文・立木省吾	1957	赤石山地の戸台層について	地質学雑誌, 63, 416.	未確認	河本	狩野村松河本	静岡	
258	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	研究報告	松島信幸・吉田幸文・岩井四郎・立木省治・亀井節夫	1957	戸台層の層序と構造(赤石山地の後期中生界1)	日本の後期中生界の研究, 5, 52-54.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
259	地質	南ア一部	遠山地方(長野)	未確認	研究報告	松島信幸・坂本正夫	1976	赤石山地遠山地方における赤石裂線と秩父帯の問題	中央構造線総研連絡誌, 1, 84-92.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
260	地質	南ア一部	水窪層, 和田層(静岡・長野)	未確認	紀要	松島信幸・北村健治	1981	水窪層と和田層の問題(その5)-とくに前期白亜紀貝化石の産出報告-	下伊那教育会自然研究紀要, 4, 99-117.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
261	地質	南ア一部	水窪(静岡)	未確認	研究報告	松島信幸・宮田隆夫・竹内靖夫・北村健治	1981	赤石山地水窪層の検討	中生代造構作用の研究, 3, 69-74.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
262	地質	南ア一部	伊那谷, 中央構造線(長野)	未確認	冊子	松島信幸・岡田篤正	1993	伊那谷構造盆地の活断層と南アルプスの中央構造線	断層研究資料センター・伊那谷自然友の会・大鹿村中央構造線博物館, 149p.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
263	地形	南ア一部		未確認	学会誌	松島義章	1984	完新世段丘からみた相模湾・駿河湾沿岸地域のネオテクトニクス	第四紀研究, 23, 165-174	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
264	地物	南ア一部	中央構造線・赤石構造線(長野・静岡)	未確認	紀要	Matsu'ura, R. S., Yoshii, T., Morita, T., Miyamachi, H., Sasaki, Y., Ikami, A. and Ishida, M.	1991	Crustal structure of a seismic-refraction profile across the Median and Akaishi Tectonic Lines, Central Japan.	Bulletin of the Earthquake Research Institute, University of Tokyo, 66, 497-516.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
265	地質	南ア一部	中央構造線(長野・静岡)	未確認	学会誌	Michibayashi, K.	1996	Intergranular tensile microfractures within a mylonitized Ryoike granite: evidence for post-mylonitic deformation at the ductile-to-brittle transtition.	Journal of Geological Society of Japan, 102, 190-198.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
266	地質	南ア一部	中央構造線(静岡・長野)	未確認	学会誌	Michibayashi, K.	1993	Shearing during progressive retrogression in granitoids: abrupt grain size reduction of quartz at the plastic-brittle transtion for feldspar.	Jour. Struct. Geol., 12, 1421-1432.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
267	地質	南ア一部	中央構造線(静岡)	未確認	書籍	道林克禎	2006	中央構造線沿い錦橋露頭の鹿塩マイロナイト-深成岩体の剪断変形	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 434-435	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
268	地質	南ア一部	中央構造線(長野・静岡)	未確認	学会誌	Michibayashi, K., Makino, T., Yoshida, S.	1997	"Xenolith windows": intensely deformed mylonites entrained in the Tenryukyo granite. The Ryoike belt, Central Honsyu, Japan	Jour. Geol. Soc. Japan, 103, 1053-1064	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
269	地質	南ア一部	中央構造線(静岡)	未確認	学会誌	道林克禎・室岡佳織・安井郁子	1999	静岡県水窪町で掘削されたマイロナイト柱状コアの変形構造解析: 中央構造線沿いの領家帯の地下構造と岩相境界への塑性剪断歪の局所化	地質学雑誌, 105, 200-207	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
270	地質	北部 フォッサ マグナ	塩嶺火山岩(長野)	未確認	学会誌	三輪哲生・星博幸	2002	長野県にみられる後期新生代火山岩類(塩嶺層)の古地磁気	地質学雑誌, 108, 28-36.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
271	地質	三河高原	本宮山(愛知)	広域変成作用	書籍	三宅明・鈴木和博	2006	本宮山地域紅柱石帯の紅柱石片岩-領家広域変成作用	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 232-233	領家広域変成作用のピーク時に、高変成度地域の泥質岩中に粗粒なモナズ石が形成された。広域変成作用による片理形成期に成長したものと考えられる紅柱石斑晶の周囲では、白雲母と黒雲母の配列により構成される片理が湾曲し、斑晶の内部の黒雲母は回転している。	河本	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
272	地質	三河高原	本宮山(愛知)	接触変成作用、複変成、ポストキネマティック斑状変晶	書籍	三宅明・鈴木和博	2006	本宮山地域の接触変成帯の泥質変成岩-新期花崗岩類による接触変成作用	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 234-235	新城トータル岩の接触変成作用を受けていると考えられる泥質岩は、紅柱石帯の泥質岩より粗粒で片理が弱い。片理形成後に接触変成により成長したポストキネマティック紅柱石斑晶では、その周囲でもおもしろに黒雲母の配列で形成された片理は湾曲せず、斑晶の回転も見られない。	河本	狩野村松河本	なし	
273	地質	三河高原	富山村(愛知)	複変成作用、フィプロライト、堇青石	書籍	三宅明・鈴木和博	2006	富山村周辺の領家変成岩-繰り返し花崗岩類の貫入を受けた領家変成帯	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 236-237	繊維状珪線石(フィプロライト)を含む広域変成岩は、富山村地域では92Maまでに上昇し、より低圧の接触変成作用時に成長した堇青石に包有されている。高度変成岩形成後の85Ma以降に花崗岩類の小規模岩体や岩脈の貫入を受けている。	河本	狩野村松河本	なし	
274	地震	広域	糸魚川-静岡構造線	未確認	研究報告	宮腰勝義・上田圭一・幡谷竜太・阿部信太郎・三浦大助・濱田崇臣・青柳恭平・井上大栄	2004	地震規模評価のための活断層調査法・活動性評価法	電力中央研究所報告、総合報告、U46, 189p.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
275	地質	広域	日本列島	未確認	学術誌	宮本隆実、原 郁夫、山根 誠	2000	黒瀬川-古領家-南部北上陸塊の構造的枠組みの復元	地質学論集, 56, 13-22	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
276	地質	広域	地球(沈み込み帯)	対の変成帯、中央構造線	学術誌	Miyashiro, A.	1961	Evolution of Metamorphic Belts	Journal of Petrology, 2, 3, 277-311	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
277	地質	広域	地球(沈み込み帯)	対の変成帯、中央構造線	学術誌	Miyashiro, A.	1973	Paired and unpaired metamorphic belts	tectonophysics, 17, 241-254	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
278	地質	南ア一部	水窪・和田(長野・静岡)	未確認	研究報告	宮田隆夫	1983	水窪層・和田層(赤石山地、断層接合域)	信州の地質構造発達史をめざして, 2, 125-127.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
279	地質	広域	未区分	未確認	学会誌	宮田隆夫・天野一男	1991	日本列島の横ずれ堆積盆資料	構造地質, 36, 111-118	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
280	地質	北部フォッサマグナ	横河川・砥川(長野)	未確認	紀要	三好荘一郎	1991	諏訪湖周辺の変成岩-横河川変成岩・下諏訪変成岩・三波川変成岩-	島根大地質研報, vol. 10, 11-24.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
281	地質	南ア一部	静岡県	未確認	図幅	望月勝海編	1956	静岡県の地質及び20万分の1 静岡県地質図	静岡県, 57p.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
282	地形	南ア一部	大谷崩~山伏(静岡・山梨)	未確認	学会誌	目代邦康・千木良雅弘	2004	赤石山脈南部、大谷崩から山伏にかけての山体重力変形地形	地理学評論, 77, 55-76.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
283	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Momose K., Kobayashi, K., Yamada, T.	1959	Palaeomagnetic and Geologic Researches for the Volcanic Rocks around Lake Suwa. - Palaeomagnetic Researches for the Pliocene Volcanic Rocks in Central Japan (2) -	Bull. Earthq. Res. Inst., 37, 433-481.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
284	地質	南部 フォッサ マグナ	丹沢高松 (神奈 川)	未確認	研究報 告	盛谷 智之	1964	丹沢高松マンガ ン鉱床に ついて	あかいし, 5, 3-6. 赤石山地地質研 究 グループ	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
285	地形	広域	中部山岳 地域	未確認	書籍	森山昭雄	1990	中部山岳地域に おける山地形 成の時代性ー山 はいつ高くなっ たか?	米倉伸之・岡田 篤 正・森山昭雄編 「変動地形とテ クトニクス」古 今書院, 東京, 87-109.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
286	地形	広域	日本アル プス	未確認	?	Moriyama, A.	?	When were mount ains uplifted? - the uplift age of mountains in central Japan	21-42♂	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
287	地形	南ア一部	伊那谷南 部(長 野)	未確認	紀要	森山昭雄・ 光野克彦	1989	伊那谷南部, 伊 那層の堆積構 造からみた木 曾・赤石両山 脈の隆起時期	地理学評論, 62, 691-707.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
288	地質	広域	続成~埋 没変成	未確認	紀要	村江達士・ 倉橋稔幸・ 相原安津男	1993	古植物材の続 成~埋没変成 過程における 顕微鏡光学的 ・有機地球科 学的変化	九州大学理学部 研究報告(地球 惑 星), 18, 25-35.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
289	地質	南ア一部	赤石山地 中部(静 岡)	四万十帯白 亜系、大構 造、層序、 スレート劈 開	卒業論 文	村松 武, 1982MS: 赤 石山地中部, 四万十帯の 地質構造. 静大理学部 卒論, 90p.	1982	赤石山地中部, 四万十帯の 地質構造	静大理学部卒論, 90p.	光岳から千頭にかけての大井川流域を調査地域とし、構造方向に直交する畑薙ダムー井川間、寸又川沿い、南赤石幹線林道ぞいの3本のルートに沿って地質構造を調査した。その結果、露頭スケールからマップスケールまでの断層をとまなう褶曲が発達し、地層が繰り返していると推定された。また、泥岩の薄片を顕微鏡で観察した結果、劈開の強度は層準とは関係なく北東に向かって強くなるのが明らかになった。他に層序および敷地点から放射虫化石を報告し、ウーライトの変形を利用した短縮量を見積もった。	狩野・ 村松	狩野 村松 河本	静岡	
290	地質	南ア一部	赤石山地 南部(静 岡)	四万十帯白 亜系、放射 虫化石群集 、K-T境界 、帯状構造	学会誌	村松 武	1986	赤石山地南部 の四万十帯 (北帯)から 発見された 白亜系~古 第三系最下 部?の放射 虫化石	地質学雑誌, 92, 311-313.	赤石山地南部四万十帯北帯から約500点の岩石を採集し、フッ酸処理した結果、48地点から保存良好な放射虫化石が産出した。これらは白亜紀後期(Campanian)から古第三紀最初期?(Paleocene)にかけての4つの群集(Ak-1~Ak-4)に区別された。この中でAk-4群集は、白亜紀-第三紀境界付近を特徴づける群集で、はじめて見つかった群集である。これらの群集から、調査地域は北西から南東へ、順次若くなる帯状構造をしていることが分かった。	狩野・ 村松	狩野 村松 河本	静岡	
291	地質	南ア一部	赤石山地 南部(静 岡)	四万十帯白 亜系、層序 区分、岩相 解析、古流 向解析、	紀要	村松 武	1990	赤石山地南部 の上部白亜 系四万十帯 層群の岩相 ・古流向解 析	飯田市美術博物 館 研究紀要, 1, 1- 28.	赤石山地南部四万十帯白亜系から産出した放射虫化石をもとに地層を区分。白根層群梶谷累層(Campanian)、寸又川層群逆河内川累層(主としてCampanian)、同蕎麦粒山累層(upper Campanian-Maastrichtian)、犬居層群大間累層(upper Campanian-Maastrichtian)、同沢間累層(upper Maastrichtian-Paleocene?)。あわせて各層ごとの岩相の特徴と古流向解析を行った。その結果、梶谷累層は陸側からのオリストストローム、逆河内川累層は	狩野・ 村松	狩野 村松 河本	静岡	
292	地質	南ア一部	寸又川層 群葵沢メ ランジュ (静岡)	四万十帯白 亜系、寸又 川層群、泥 ダイヤピ ルメラン ジュ、葵沢 メランジュ	紀要	村松 武	1991	赤石山地南部 四万十帯、 寸又川層群 の泥ダイヤ ピルメラン ジュ	飯田市美術博物 館 研究紀要, 2, 9- 28.♂	赤石山地南部四万十帯白亜系の寸又川層群逆河内川累層中の小規模メランジュ岩体(葵沢メランジュ)の岩相と構造を記載した。その結果、このメランジュは断層沿いに地下から上昇してきた泥ダイヤピルメランジュと推定された。	狩野・ 村松	狩野 村松 河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
293	地質	南ア一部	遠山川地域(長野)	四万十帯白亜系、赤石層群、白根層群、放散虫化石、	紀要	村松 武 132.	1995	赤石山地南部、遠山川地域の放散虫化石-微化石データベース構築に向けてI-	飯田市美術博物館研究紀要, 5, 113-132.	赤石山地南部遠山川流域の50地点から保存良好な放散虫化石が産出し、これらは6つの群集に分けられた。三畳紀のTriassocampe群集、ジュラ紀のTricolocapsa群集は秩父帯から、白亜紀後期のHoloCryptocanium barbui群集、Dictyomitra formosa群集、Theocampe salillum群集、Amphipyndax tylotus群集は四万十帯からである。放散虫化石に基づく、四万十帯赤石層群はlate Albian-early Turonian、白根層群はlate Albian-early Maastrichtianに形成した。白根層群は南東方へ若くなる5つのユニットに区分され、各ユニット内部では北西上位の系列が認められた。	狩野・村松	狩野・村松 河本	静岡	
294	地質	南ア一部	寸又川層群葵沢メランジュ(静岡)	寸又川層群、葵沢メランジュ、放散虫化石	紀要	村松 武	1996	赤石山地南部、寸又川層群葵沢メランジュの放散虫化石-微化石データベース構築に向けて I-	飯田市美術博物館研究紀要, 6, 125-134.	赤石山地南部寸又川層群中には含まれた葵沢メランジュから白亜紀のSethocapsa uterculus群集、Theocampe salillum群集、Amphipyndax tylotus群集(Ak-1群集およびAk-2群集)が見つかった。これらから葵沢メランジュは、白亜紀前期のチャートブロックを含み、時代の異なる泥質岩が集合したメランジュであることが分かった。	狩野・村松	狩野・村松 河本	静岡	
295	地質	南ア一部	赤石山地中部(長野)	秩父帯、四万十帯赤石層群、白根層群、放散虫化石	紀要	村松 武	1997	赤石山地中部、しらびそ峠-大沢岳ルートから産出した放散虫化石-微化石データベース構築に向けてIII-	飯田市美術博物館研究紀要, 7, 137-144.	赤石山地中部のシラビソ峠-大沢岳ルートの7地点から同定可能な放散虫化石が産出した。秩父帯チャートから三畳紀、四万十帯赤石層群および白根層群から白亜紀後期のHoloCryptocanium barbui群集、Dictyomitra formosa群集、Theocampe salillum群集が産出した。	狩野・村松	狩野・村松 河本	静岡	
296	地質	南ア一部	赤石山地中部(静岡)	四万十帯、白根層群、寸又川層群、放散虫化石、スレート劈開、屈曲	紀要	村松 武	1998	赤石山地中部、さわら島周辺の四万十帯白亜系の地質と放散虫化石-微化石データベース構築に向けてIV-	飯田市美術博物館研究紀要, 8, 129-142.	大井川から赤石山地中部の主稜線にかけての赤石岳登山道、聖岳登山道、茶臼岳登山道の3ルート进行调查した。その結果、14地点から同定可能な放散虫化石が見つかり、それらは白亜紀後期HoloCryptocanium barbui群集、Theocampe salillum群集、Amphipyndax tylotus群集に分けられた。また、地層の走向が北部へと半時計回りに20°屈曲する一方、劈開は変化しないことを示し、劈開が屈曲の時期もしくは以後に形成されたと推定した。	狩野・村松	狩野・村松 河本	静岡	
297	地質	南ア一部	梶谷川流域(長野)	秩父帯、四万十帯、白根層群、放散虫化石、対比	紀要	村松 武	1999	赤石山地南部、梶谷川流域から産した放散虫化石-微化石データベース構築に向けてV-	飯田市美術博物館研究紀要, 9, 207-218.	赤石山地西部、梶谷川流域の秩父帯の4地点から、および同流域の四万十帯白根層群の14地点から放散虫化石を見つけだし、それらをTriassocampe deweveri群集、Tricolocapsa conexa群集、Pseudodictyomitra primitiva群集、Sethocapsa uterculus群集、Acaeoniotyle umblicata群集、HoloCryptocanium barbui群集、Theocampe salillum群集、Amphipyndax tylotus群集の8つの群集に分けた。放散虫化石から調査地域の秩父帯は、秩父帯南帯の斗賀野ユニットと三宝山ユニットに対比された。	狩野・村松	狩野・村松 河本	静岡	
298	地形	南ア一部	地藏ヶ岳(山梨)	岩塔、節理、人為風化	冊子	村松 武	2001	南アルプスの不思議な形(3) 地藏ヶ岳の地藏仏岩(オペリスク)--節理と岩塔--	伊那谷の自然, 97, 12-12. 伊那谷自然友の会	地藏ヶ岳の地藏仏岩が高さ18mの花崗岩の巨大な岩塔であり、節理の間隔が広がったためにできたことを解説。また岩塔周囲の風化と侵食が人為的攪乱で広がったことや、地藏仏岩への初登頂者がウェストンであることなどを紹介。	狩野・村松	狩野・村松 河本	静岡	
299	地形	南ア一部	南アルプス藪沢(長野)	カール、モレーン、融氷河川堆積物	冊子	村松 武	2001	南アルプスの不思議な形(2) カールとモレーン--氷河期の遺物--	伊那谷の自然, 96, 12-12. 伊那谷自然友の会	藪沢カール・モレーンの紹介と、融氷河川堆積物とされる膨大な礫層(後氷期の山崩れ堆積物という説もあり)の紹介。	狩野・村松	狩野・村松 河本	静岡	
300	地質	南ア一部	赤石構造帯北部(長野・静岡)	赤石構造帯、秩父帯、放散虫化石	紀要	村松 武	2001	赤石構造帯北部の秩父帯の地質と放散虫化石-微化石データベース構築に向けてVI-	飯田市美術博物館研究紀要, 11, 65-78.	赤石構造帯最北部の秩父帯を横断する遠山川、梶谷川、ヒョー越の3ルートを調査した結果、14ヶ所から放散虫化石が産出した。これらを検討したところ、従来の秩父帯分布域では、遠山川ルート産の群集がペルム紀中期~ジュラ紀中期、梶谷川ルート産が三畳紀~ジュラ紀末期、ヒョー越ルート産が白亜紀後期であることが分かり、南部では秩父帯が欠如していることが分かった。	狩野・村松	狩野・村松 河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県 リストアップ	備考
301	地質	南ア全域	赤石山地 (長野・静岡)	秩父帯、四万十帯、放散虫化石、地層区分	書籍	村松 武	2001	赤石山地の放散虫化石と地質	村松 武・四方圭一郎・下平 勉・編、「南アルプスの山旅-地形・地質観察ガイド-」、飯田市美術博物館、103-108.	赤石山地から産出した放散虫化石と、それに基づいた大構造および地層区分についてのレビュー。	狩野・村松	狩野村松河本	静岡	
302	地質	南ア一部	池口川流域 (長野)	四万十帯白根層群、放散虫化石、帯状構造	紀要	村松 武	2002	赤石山地南西部、池口川流域の四万十帯の地質と放散虫化石-微化石データベース構築に向けてVII-	伊那谷自然史論集、3、69-77.	赤石山地南西部池口川流域の白根層群から時代決定に有効な35地点の放散虫化石群集が見つかった。これらに基づくと、白根層群の形成時代は、前期白亜紀の後期から後期白亜紀であり、北西から南東へ時代が若くなる帯状構造をしていることが分かった。これは北東方の遠山川流域の結果と矛盾しない。	狩野・村松	狩野村松河本	静岡	
303	地形	南ア一部	大井川上流、赤崩 (静岡)	線状凹地、憤砂	紀要	村松 武	2003	大井川上流、赤崩上方の線状凹地で観察された小規模噴砂	伊那谷自然史論集、4、31-35.	大井川上流左岸の赤崩直上の線状凹地で観察された小規模な憤砂の記載。2001年4月3日の静岡県中部の地震で発生したと推定。	狩野・村松	狩野村松河本	静岡	
304	地質	南ア一部	赤石構造帯北部 (長野・静岡)	赤石構造帯、和田層、放散虫化石	紀要	村松 武	2005	赤石構造帯北部の和田層およびその相当層から産出した前期中新世放散虫化石-微化石データベース構築に向けてVIII-	飯田市美術博物館研究紀要、11、65-78.	赤石構造帯最北部に分布する下部中新統和田層と、より南方に分布し従来白亜紀とされてきた泥質岩層から前期中新世の放散虫化石を報告。岩相・地層分布から最北部の和田層は、南方の和田層相当層から光明断層に沿って8~10km移動した異地性岩体と推定。	狩野・村松	狩野村松河本	静岡	
305	地質	南ア一部	赤石構造帯 (静岡)	赤石構造帯、ジュラ紀付加体、ユニット区分、対比	書籍	村松 武	2006	水窪町の秩父帯南帯横断一両側を断層で切られ孤立したジュラ紀付加体	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4、中部地方]、朝倉書店、256-257	赤石山地南西部水窪河内川に沿うジュラ紀付加体を、岩相および放散虫化石から中根山・布滝・明神滝の3つのユニットに区分し、それぞれを秩父帯南帯の大平山・斗賀野・三宝山ユニットに対比した。	河本・村松	狩野村松河本	なし	
306	地質	南ア一部	赤石山地北部 (長野)	ジュラ紀付加体、対比、大構造	書籍	村松 武	2006	長谷村戸台の幕岩石灰岩体-東からの強い力を受けてまくれ上がった石灰岩体	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4、中部地方]、朝倉書店、258-259	赤石山地北部戸台川沿いのジュラ紀付加体を3つに区分し、入笠-釜無川に分布するユニットに対比。本来西傾斜だった構造が、東から強い力を受けて東傾斜に回転していることを紹介。	河本	狩野村松河本	なし	
307	地質	南ア一部	赤石山地南部 (長野)	白亜紀付加体、ユニット区分、帯状構造	書籍	村松 武	2006	遠山川の白根帯-海側へ若くなるメランジュユニット	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4、中部地方]、朝倉書店、260-261	赤石山地南部遠山川沿いの四万十帯メランジュユニットの一つ白根帯を、岩相と放散虫化石から4つのユニットに区分し、南東方へ若くなることを紹介。	河本	狩野村松河本	なし	
308	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	武藤鉄司	1986	沿岸地域における制約扇状地の性質-天竜川下流地方を例として-	堆積学研究会報、24、13-18	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
309	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	武藤鉄司	1987	天竜川下流地方、三方が原・磐田原台地の地質-現在の解析扇状地からの解釈-	地質学雑誌、93、259-274	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
310	地質	広域	長野県	未確認	図幅	長野県地学会	1957	長野県20万分の1地質図および同説明書	内外地図株式会社	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
311	地質	南ア一部	大崩海岸地域 (静岡)	未確認	研究報告	長沢敬之助・石岡孝吉・湯佐泰久	1972	大崩海岸地域の岩石と変質、静岡・大崩海岸の山崩れ災害	研究報告論文集、35-46.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
312	地質	広域	日本列島	未確認		永広正之	2000	南部北上帯-早池峰構造帯と黒瀬川帯・“古領家帯”	地質学論集、56、53-64	未確認	河本	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
313	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	書籍	Naka, J.	1985	Broken seamount fragments in the Setogawa subduction complex.	Nasu et al. (ed.), "Formation of active ocean margins", TERRAPUB, Tokyo, 747-773.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
314	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	学会誌	Naka, J.	1988	Volcanostratigraphic sequence of greenstones in the Setogawa Terrane, central Japan.	Geology, vol. 12, p. 243-282.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
315	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	学術誌	仲 二郎	1985	瀬戸川帯の海山起源緑色岩類	月刊地球, 7, 663-667.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
316	地質	南ア一部	高草山(静岡)	未確認	紀要	中川昌治・長沢敬之助	1982	静岡県高草地域に産する沸石などの二次鉱物	静岡大学地学研報, 7, 51-59.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
317	地質	南ア一部	八重河内(長野)	未確認	学術誌	中村新太郎	1924	長野県下伊那郡八重河内	地球, 2, 273-274.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
318	地質	南ア一部	水窪・和田(長野・静岡)	未確認	紀要	中世古幸次郎・松島信幸・小島郁生・松川正樹	1979	赤石山地の水窪層・和田層に関する新事実	国立科学博物館専報, 12, 65-72.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
319	地質	南ア一部	天竜川地域(長野)	未確認	学会誌	Nakayama, J.	1953	Stratigraphy and geological structure of the Sambagawa crystalline schist in the northern part of the Tenryu river district (in Japanese).	Jour. Geol. Soc. Japan, vol. 59, pp. 497-509.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
320	地質	南ア一部	天竜川地域(長野)	未確認	紀要	Nakayama, J.	1954	The relation of the lineation to the geological structure in the Sambagawa metamorphic zone of the Tenryu river basin	Mem. C. S. Kyoto Univ., vol. 21, pp. 273-286.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
321	地質	南ア一部	安倍川上流(静岡)	未確認	紀要	中山 豊	1959	静岡県安倍郡大岳付近の地質	地学しずはた, 19, 28-32.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
322	地質	広域	未区分	未確認	学会誌	中山 勇	1960	三波川帯の造構造運動と岩石構造	地団研専報, 10, 40p.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
323	地質	広域	未区分	赤石スフェノイド, 内帯, 中帯, 外帯	書籍	Naumann, E. (山下昇訳)	1985	日本群島の構造と起源について	ベルリン, R. フレートレンダー・ウント・ゾーン社	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
324	地質	広域	未区分	未確認	書籍	Naumann, E.	1887	Die Japanische Inselwelt	Mitth. D. geogr. Gesellschaft in Wien, 31, 12-138.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
325	地質	広域	未区分	フォッサマグナ、中央構造線	書籍	Naumann, E. (山下昇訳)	1887	日本群島、その地理学的-地質学的概要	Mitth. D. geogr. Gesellschaft in Wien, 30, 129-138, 201-212	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
326	地質	広域	未区分	フォッサマグナ、七島弧	書籍	Naumann, E. (山下昇訳)	1893	フォッサマグナ	ベーターマン地理学報告集, 108, 16-36	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
327	地質	広域	南部フォッサマグナ	未確認	書籍	新妻信明	2006	南部フォッサマグナー伊豆弧の衝突テクトニクス	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 375-376	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
328	地質	南部フォッサマグナ	南部フォッサマグナ	未確認	書籍	新妻信明	2006	御坂山地の海底火山と深海堆積物-隆起する深海底	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 376-379	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
329	地質	南ア一部	南部フォッサマグナ(山梨)	未確認	書籍	新妻信明	2006	遅沢砂岩の貝化石と礫礫岩-隆起帯の浅海堆積物と堰き止められた礫岩	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 384-387	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
330	地質	南ア一部	未区分	未確認	書籍	新妻信明	2006	有度丘陵-中部山岳隆起とプレート沈み込み境界の狭間で	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 420-421	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
331	地質	広域	長野県	未確認	紀要	Nishina, Y., Matsushima, N., Akahane, S. and Kosaka, T.	1985	Active faults of Nagano Prefecture - distribution of active faults and their geological data -.	Rept. Fac. Sci., Shinshu Univ., 20, 171-198.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
332	地質	南ア一部	未区分	未確認	書籍	丹羽耕輔・塚田和弘	2006	浜名湖西岸のジュラ紀メランジュ-沈み込み帯における遠洋性堆積物と陸源堆積物の混合	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 254-255	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
333	地質	南ア一部	未区分	未確認	書籍	延原尊美	2006	東海地方太平洋沿岸域の新第三系・第四系-隆起する前の前弧域のテクトニクス	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 412-413	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
334	地質	南ア一部	未区分	未確認	書籍	延原尊美	2006	女神相の異地性石灰岩体(男神岩体)-中新世中期初頭の熱帯-亜熱帯石灰礁	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 412-413	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
335	地質	南ア一部	未区分	未確認	書籍	延原尊美	2006	小笠原群岩井寺層-赤石山地の隆起と海底チャネルの形成	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 418-419	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
336	地質	南ア一部	大井川、井川演習林(静岡)	未確認	紀要	野田浩司・久田健一郎・菊池芳文・唐田幸彦	1994	井川演習林内から産出した生痕化石と Inoceramus sp. との共産	筑波大学農林技術センター演習林報告, 10, 107-115.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
337	地震	広域	東海地域	未確認	学会誌	野口伸一	1996	東海地域のフィリピン海スラブ形状と収束テクトニクス	地震, 49, 295-325.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
338	地質	南ア一部	久根(静岡)	未確認	図幅	Notomi, S.	1922	The geological map of Kune, 1:12,000.	Geol. Survey Japan.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
339	地質	南ア一部	南部フォッサマグナ(山梨)	未確認	学会誌	西宮克彦・植田良夫	1976	山梨県の新第三系について	地質学論集, 13, 349-366	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
340	地質	広域	志摩半島	未確認	研究報告	Obata, I., Saka, Y., Matsukawa, M., Kase, T., Tanaka K.	1979	Correlation of the Cretaceous Formations in the Shima Peninsula	Memoirs of the National Science Museum, Natural History of the Southern Part of the Japanese Alps and the Kii Peninsula, Including the Tokai District (1), 12, 73-82	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
341	地質	南ア一部	糸静線(静岡)	未確認	紀要	小川賢之輔	1977	竜爪山穂積神社北方の糸魚川-静岡線の露頭	静岡地学, 35, 1-3	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
342	地質	広域	未区分	未確認	学会誌	小川琢治	1899	日本群島地質構造論	地学雑誌, 11, 537-570.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
343	地物	南ア一部	未区分	未確認	紀要	小川康雄・高倉伸一	1989	富士川上流域における糸魚川-静岡構造線の比抵抗構造概査	地質調査所月報, 40, 277-284	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
344	地質	南ア一部	赤石山地最北部(山梨・長野)	未確認	紀要	小川勇二郎	1978	赤石山地最北部の四万十層群の地質構造	日大文理自然科学研究所紀要・応用地学, 13, 33-40.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
345	地質	広域	中部地方	未確認	学会誌	Ogawa, Y.	1982	Tectonics of some forearc fold belts in and around the arc-arc crossing area in central Japan. In: Leggett, J.K. (ed.), Trench-Forearc Geology: Sedimentation and Tectonics on Modern and Ancient Active Plate Margins.	Geological Society of London, Special Publication, 10, 138-159.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
346	地質	広域	西南日本	未確認	学術誌	Ogawa, Y	1985	Variety of subduction and accretion processes in Cretaceous to Recent plate boundaries around Southwest and Central Japan.	Tectonophysics, 112, 493-518.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
347	地質	広域	中部地方	未確認	紀要	Ogawa, Y. et al.	1978	Two types accretionary fold belts in Central Japan.	Dep. of Earth Sci., Nihon Univ., 26, 321-336.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
348	地質	広域	不明	未確認	学会誌	小川勇二郎・谷口英嗣	1989	微量元素組成と産状からみた本邦の付加体及び構造帯中の玄武岩類の起源とエンプレイスメントのプロセス	地学雑誌, vol. 98, p. 118-132.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
349	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	学会誌	Ohashi, F.	1980	An alkali olivine basalt and its related rocks from the Setogawa Group, Shizuoka Prefecture.	Jour. Geol. Soc. Japan, Vol. 86, p. 799-815.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
350	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	学会誌	大橋不三男・白木敬一	1981	瀬戸川オフィオライトの高マグネシア・高シリカ火山岩	岩石鉱物鉱床学会誌, vol. 76, p. 69-79.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
351	地形	広域	日本列島	未確認	紀要	Ohmori, H.	1978	Relief structure of the Japanese mountains and their stages in geomorphic development.	Bulletin of the Department of Geography, University of Tokyo, 10, 31-85.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
352	地形	広域	日本列島	未確認	学術誌	Ohmori, H.	1983	Characteristics of the erosion rate in the Japanese mountains from the viewpoint of climatic geomorphology.	Zeishr. Geomorph. N.F. Suppl., Bd. 46, 1-14.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
353	地形	広域	中部山岳地域	未確認	紀要	Ohmori, H.	1987	Mean Quaternary uplift rates in the central Japanese mountains estimated by means of geomorphological analysis.	Bull. Dept. Geogr. Univ. Tokyo, 19, 29-36.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
354	地形	広域	不明	未確認	学会誌	大森博雄・須貝俊彦	1994	地すべり土塊の形態的特徴とその地形学上の意義	地形, 15, 1-16.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
355	地形	広域	日本列島	未確認	学術誌	大森博雄	2001	日本島山地における隆起と侵食のダイナミックス	月刊地球/号外, 32, 14-21.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
356	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Ohtomo, Y.	1993	Origin of the Median Tectonic Line	Jour. Sci. Hiroshima Univ., Ser. C, 9, 611-669	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
357	地質	広域	未区分	未確認	学会誌	大友幸子	1996	領家帯南縁のナップ構造	構造地質, 41, 45-59	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
358	地質	広域	未区分	未確認	記念論文	大友幸子	1996	初生中央構造線の研究史	テクトニクスと変成作用(原郁夫先生退官記念論文集), 191-201	未確認	村松	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
359	地質	南ア一部	高遠～鳳来町(長野・静岡・愛知)	中央構造線、マイロナイト、カタクレーサイト	研究報告	大友幸子	1998	中央構造線〔中部地方〕、小坂和夫・大友幸子・高木秀雄・豊島剛志・田中秀実・越谷信・嶋本利彦(編)、カタログ:日本の断層と断層岩	日本大学文学部自然科学研究所「研究紀要」, 93-100.	中央構造線の傾斜は、高遠～上村で垂直、水窪～佐久間でほぼ垂直、東栄町～鳳来町の三波川帯にせり出した地域では中角北傾斜、新城～豊橋では中-高角北傾斜。マイロナイト帯の幅は中央構造線沿いに形成している鉛直褶曲により変化する。初生時には弾性変形領域で高角、深部延性領域で低角になる断面が提案されている。	狩野河本	狩野村松河本	静岡	
360	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	岡本正也・井上喜嗣・黒田吉益	1981	長野県大河原付近のかんらん岩より自然鉄の発見	地質学雑誌, 87, 597-599	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
361	地形	南ア全域	赤石山地(長野・静岡・山梨)	未確認	学会誌	岡山俊雄	1928	赤石山地の切峰面	地理学評論, 4, 739-763.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
362	地形	南ア一部	地蔵・鳳凰山(山梨)	未確認	学会誌	岡山俊雄	1929	甲斐國地蔵・鳳凰山下の逆断層	地理学評論, 5, 949-960.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
363	地形	広域	中央日本山地	未確認	学会誌	岡山俊雄	1930	中央日本山地の切峰面及び区分	地理評, 6, 479-499.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
364	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	Ono, A.	1974	Gatuzoyama gneisses along the Median tectonic line, Takato area, Central Japan	Jour. Japan. Assoc. Min. Petr. Econ. Geol., 69, 137-146	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
365	地質	南ア一部	中部地方北部	未確認	学会誌	小野 晃	1977	中部地方北部の中央構造線付近の変成岩について	地質学雑誌, 83, 207-212.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
366	地質	南ア一部	高遠一鹿塩地方(長野)	未確認	学会誌	小野 晃	1977	領家変成帯、高遠一鹿塩地方の地質	地質学雑誌, 87, 249-257.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
367	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	小野 晃	1988	中央構造線近傍の変成岩類の熱構造と重複変成作用—長野県市野瀬での研究—	構造地質, 33, 33-38	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
368	地質	南ア一部	瀬戸川帯(静岡・山梨)	未確認	紀要	Ono, S.	1972	Slaty cleavages in the Paleogene Setogawa Group in Central Japan.	Jour. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Sec. II, 18, 431-454.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
369	地形	広域	日本アルプス	未確認	学会誌	小野有五	1975	日本アルプスのカール地形	地理学評論, 48, 155-157.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
370	地形	広域	東アジア	未確認	学会誌	小野有五	1988	最終氷期における東アジアの雪線高度と古気候	第四紀研究, 26, 271-280.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
371	地質	南ア一部	安倍川上流(静岡)	未確認	紀要	大石守方	1959	静岡県安倍郡大川村日向付近の地質	地学しずはた, 19, 22-27.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
372	地質	南ア一部	赤石山地南部(長野)	未確認	学会誌	大久保雅弘・松島信幸	1959	赤石山地の厚歯二枚貝(1新種)	地球科学, 42, 1-4.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
373	地質	南ア一部	赤石山地南部(長野)	未確認	学会誌	大久保雅弘・松島信幸・安井宣昭	1958	赤石山地より六射珊瑚の発見	地質学雑誌, 64, 346.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
374	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	大森昌衛	1960	フォッサ・マグナの地質的意義	地球科学, 50, 75-82.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
375	地形	南ア一部	仙丈ヶ岳(長野)	未確認	紀要	大沢 太郎	2002	南アルプス仙丈ヶ岳平右衛門谷流域の地形分類	伊那谷自然史論集, 3, 1-4. 飯田市美術博物館	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
376	地形	南ア一部	仙丈ヶ岳(長野)	未確認	紀要	大沢太郎	2001	南アルプス仙丈ヶ岳平右衛門谷流域の林冠欠如部の変遷	伊那谷自然史論集, 2, 15-22. 飯田市美術博物館	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
377	地質	南ア一部	高草山(静岡)	未確認	記念論文集	遅沢壮一	1986	高草山およびその西方の瀬戸川帯	北村信教授記念地質学論文集, 337-350. ♀	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
378	地質	広域	未区分	未確認	学会誌	遅沢壮一	1986	本邦におけるチャート・石灰岩・玄武岩複合岩体の起源	地質学雑誌, 92, 709-722	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
379	地質	南ア一部	瀬戸川層群・三笠層群(静岡)	未確認	学会誌	Osozawa, S., 1988: Accretionary process of the Tertiary Setogawa and Mikasa Groups, Southwest Japan. Jour. Geology, 96, 199-208.	1988	Accretionary process of the Tertiary Setogawa and Mikasa Groups, Southwest Japan.	Jour. Geology, 96, 199-208.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
380	地質	南ア一部	竜爪層群(静岡)	未確認	記念論文集	Osozawa, S.	1991	Accreted intra-oceanic island arc, the Lower Miocene Ryuso Group, central Japan.	Essays in Geology, Prof. H. Nakagawa Commemorative Vol., 247-254.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
381	地質	南ア一部	竜爪層群(静岡)	未確認	学会誌	Osozawa, S., Sakai, T. and Naito, T.	1990	Miocene subduction of an active mid-ocean ridge and origin of the Setogawa ophiolite, central Japan.	Japan. Jour. Geology, 98, 763-771.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
382	地質	南ア一部	山梨県南西部富士見山	未確認	学会誌	大塚弥之助, 1938: 山梨県南西部富士見山断層崖の地質学的考察. 地理学評論, 12, 969-984.	1938	山梨県南西部富士見山断層崖の地質学的考察	地理学評論, 12, 969-984.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
383	地質	南ア一部	鳳凰山・地蔵ヶ岳(山梨)	未確認	紀要	大塚弥之助	1941	山梨県鳳凰山・地蔵ヶ岳付近の地質	地震研彙報, 19, 115-143.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
384	地質	南部 フォッサ マグナ	甲府地域(山梨)	地質図, 甲府	図幅	尾崎正紀・牧本博・三村弘二・酒井彰・久保和也・加藤碩一・駒沢正夫・広島俊男・須藤定久	2001	甲府地域の地質, 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)	地質調査所,	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
385	地物	広域	中部日本	未確認	学術誌	鷺谷 威・井上政明	2003	測地測量データで見る中部日本の地殻変動	月刊地球, 25, 918-928.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
386	地質	南ア一部	瀬戸川・三笠層群(静岡)	未確認	学会誌	斉藤和男・遅沢壮一・石川賢一	1992	瀬戸川・三笠層群火成岩礫の40Ar-39Ar・K-Ar年代	岩鉱, 87, 255-264.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
387	地質	南ア一部	赤石-関東山地	未確認	紀要	斎藤林次	1997	赤石山地(隣接関東山地)の先カンブリア界と赤石-関東山地の黒瀬川構造帯	S.G技報, 29, 39-43	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
388	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	斎藤正次・木野義人	1953	静岡県大井川畑薙水力発電地域地質調査報告	地質調査所月報, 4, 7, 483-490.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
389	地質	三河高原	三河大野(愛知)	未確認	図幅	Saito, M.	1952	Geological map of Japan and its explanatory text: Mikawa-Ono sheet, 1:50,000.	Geol. Survey Japan.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
390	地質	南ア一部	秋葉山(静岡)	未確認	図幅	斉藤正次・磯見 博	1954	5万分の1地質図幅「秋葉山」および同説明書	地質調査所, 34p. ♂	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
391	地質	南ア一部	赤石山地(長野・静岡)	未確認	研究報告	斉藤正次ほか	1956	赤石山地における四万十帯と秩父帯との境について	後期中生界研連, 4, 49-51.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
392	地質	南ア一部	島田・掛川市付近(静岡)	未確認	紀要	斉藤常正	1960	静岡県島田・掛川市付近の第三系とその浮遊性有孔虫化石群	東北大理地質古生物邦文報告, no. 51, 45p.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
393	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Saito, Y., Tiba, T., Matsubara, S.	1979	Ultramafic Complex and its Mechanical Sedimentary Derivatives in the Tonmaku-yama Area, North of Hamana-Ko, Central Japan	国立科博専報, 12, 29-40	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
394	地形	広域	日本列島	未確認	書籍	坂口 豊・高橋 裕・大森博雄	1985	日本の川	岩波書店, 248p. (特に1, 2, 4, 6章を参照)	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
395	地質	南ア一部	遠山地方・北又沢上流(長野)	未確認	紀要	坂本正夫	1974	遠山地方・北又沢上流における秩父帯の研究	下伊那教育, 102号.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
396	地質	南ア一部	赤石山地 (長野)	未確認	学会誌	坂本正夫	1976	長野県下伊那地方の秩父帯中にコノドントの発見	地質学雑誌, 82, 533-544.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
397	地質	南ア一部	遠山地方 (長野)	未確認	紀要	坂本正夫	1977	赤石山地遠山地域におけるコノドントの研究とその意義(概略)	長野県地学会報, 58, 12-13	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
398	地質	南ア一部	赤石山地 (長野)	未確認	研究報告	坂本正夫	1977	赤石山地の中央構造線に沿う変位地形	総合研究 A 「中央構造線」 研究連絡誌 (M. T. L.), 2, 103-110.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
399	地質	南ア一部	遠山地方 (長野)	未確認	紀要	坂本正夫	1978	下伊那の秩父帯の地質-遠山地方-	下伊那自然研究紀要, 1, 85-108.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
400	地質	南ア一部	赤石山地 (長野)	未確認	研究報告	坂本正夫	1979	下伊那の三宝山帯	三宝山帯の地質構造解析, 2, 157-178.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
401	地質	南ア一部	遠山地方 (長野)	未確認	研究報告	坂本正夫	1980	赤石山地遠山地方の秩父帯の地質	西南日本の本州地向斜領域における中生代造構作用の比較運動像解析に関する総合研究, 連絡誌, 2.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
402	地質	南ア一部	赤石裂線地域(静岡)	未確認	紀要	坂本正夫	1980	赤石裂線地域の秩父帯の地質	下伊那自然研究紀要, 3, 187-210.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
403	地質	南ア一部	遠山赤石裂線地域(長野・静岡)	未確認	研究報告	坂本正夫	1981	遠山赤石裂線地域の秩父帯の地質	西南日本の本州地向斜領域における中生代造構作用の比較運動像解析に関する総合研究, 連絡誌, 3.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
404	地質	南ア一部	釜無山・水窪川(長野・静岡・山梨)	未確認	紀要	坂本正夫	1981	赤石山地の秩父帯の地質-釜無山・水窪川を中心に-	下伊那自然研究紀要, 4, 85-98.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
405	地質	南ア一部	赤石山地 (長野)	未確認	紀要	坂本正夫	1982	赤石山地の中央構造線の右横ずれ変位地形の発見とその意義	下伊那紀, 5, 87-97.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
406	地質	南ア一部	遠山地方 (長野)	未確認	研究報告	坂本正夫	1983	赤石山地遠山地方の秩父帯の地質, 信州の地質構造発達史をめざして-その2(第三紀)・(中古生界)・(岩石・構造)-	地学団体研究会--信州の地質構造発達史, 41-43	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
407	地質	南ア一部	天竜川上流地域 (長野)	未確認	図幅解説書	坂本正夫	1984	秩父帯, 建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所監修 天竜川上流地域地質解説書, 101-124	中部建設協会.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
408	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	学会誌	坂本隆之・小川勇二郎・中田節也	1993	瀬戸川付加体中の緑色岩の起源とそのテクトニクス上の意義	地質学雑誌, 99, 9-28.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
409	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	紀要	鮫島輝彦	1957	瀬戸川累層群中の超塩基性岩(1)	地学しずはた, 12, 17-20.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
410	地質	南ア一部	中部地方古第三系	未確認	紀要	Sameshima, T.	1960	Picrite basalt dikes in the Paleogene formation in central Japan.	Rep. Liberal arts & Sci. Fac., Shizuoka Univ., Sec. Nat. Sci., no. 3, p. 77-80.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
411	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	紀要	鮫島輝彦	1960	瀬戸川累層群中の超塩基性岩(2)	地学しずはた, 21, 15-16.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
412	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	紀要	鮫島輝彦	1961	瀬戸川累層群中の超塩基性岩(3)	地学しずはた, 24, 18-21.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
413	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	鮫島輝彦	1961	静岡市平山産 Lepidocyclina makiyamai	地学しずはた, 26, 15-16.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
414	地質	南ア一部	大崩海岸地域(静岡)	未確認	紀要	鮫島輝彦・伊藤通玄	1972	大崩海岸地域の地質-山崩れ災害の地質学的背景-	静岡大学地球科学研究報告, 3, 1-6.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
415	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Sameshima, T., Ono, S.	1994	Ferroaxinite and datolite from Mt. Nio, Shizuoka city, Central Japan	Geosci. Repts. Shizuoka Univ., 20, 1-4	未確認	村松	狩野村松河本	静岡	
416	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	佐藤伝蔵	1919	赤石山中のトリゴニヤ産地	地学雑誌, 31, 263.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
417	地質	南ア一部	瀬戸川層群(山梨)	未確認	紀要	Sato, K. and Sato, T.	1984	Kink bands in the Paleogene Amahatagawa Formation, Yamanashi Prefecture.	Ann. Rept., Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, 10, 111-112.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
418	地質	南ア一部	甲斐駒一鳳凰(山梨)	未確認	学会誌	佐藤興平・柴田賢・内海茂	1989	甲斐駒ヶ岳花崗岩質岩体のK-Ar年代と岩体冷却史-赤石山地の地質構造形成史における意義-	地質学雑誌, 95, 33-44.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
419	地物	南ア一部		未確認	紀要	里村幹夫・安間秀明	1986	糸魚川-静岡構造線南部地域の重力異常	静岡大学地球科学研究報告, 12, 55-74	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
420	地質	南ア一部	富士見周辺(長野)	未確認	学会誌	澤 祥	1985	中部フォッサマグナ西縁・富士見周辺の活断層	地理評, 58, 695-714.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
421	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Seki, Y.	1961	Geology and metamorphism of Sanbagawa crystalline schists in the Tenryu district, central Japan	Sci. Rep. Saitama Univ., ser. B, 4, 75-92.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
422	地質	南ア一部	渋川(静岡)	未確認	学会誌	Seki, Y., Aiba, M. and Kato, C.	1959	Metamorphic zoning of the Sambagawa Terrain in the Shibukawa district, Central Japan.	Jour. Geol. Soc. Japan, vol. 65, pp. 618-623.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
423	地質	南ア一部	未区分	未確認	書籍	柴 正博	2006	牧之原大地と古谷泥層－更新世中期～後期の海水準変動と赤石山地の隆起	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 422-423	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
424	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	柴 正博・駿河湾団体研究グループ	1986	静岡県清水市北部、興津川流域の地質	地球科学, 40, 147-165	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
425	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	柴 正博・鈴木好一・駿河湾団体研究グループ	1989	静岡層群の層所と構造	地球科学, 43, 140-156	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
426	地形	南ア一部	未区分	未確認	紀要	芝野照夫・土屋義人・富谷 雄・山本武司	1988	天竜川扇状地と遠州灘海岸の形成	京都大学防災研究所年報, 31, 775-791	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
427	地質	南ア一部	島田市相賀(静岡)	未確認	紀要	Shibata, H. and Kato, S.	1988	Miocene molluscs from the Oga Formation of Shimada City, Shizuoka Prefecture, Japan.	Bulletin of the Mizunami Fossil Museum, 15, 7-38.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
428	地質	南ア一部	早川・釜無川流域(山梨・長野)	未確認	学会誌	柴田秀賢・小林福造	1965	山梨県早川・釜無川流域の地質	地質学雑誌, 71, 66-75.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
429	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Shibata, H. Kato, S.	1991	Paleogene Molluscs from the Mikura Group, Shizuoka Prefecture, Japan	Bull. Mizunami Fossil Museum, 18, 67-77	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
430	地質	北部 フォッサマグナ	長野県和田村	未確認	紀要	柴田 賢・青木正博・河内晋平・山崎哲良・小林哲夫	1976	長野県和田村第三紀石英閃緑岩中のベグマタイトとK-Ar年代	地質調査所月報, 27, 509-516.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
431	地質	南ア一部	中央構造線分杭峠(長野)	未確認	学会誌	柴田 賢・高木秀雄	1988	中央構造線沿いの岩石および断層内物質の同位体年代－長野県分杭峠地域の例	地質学雑誌, 94, 35-50. ♂	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
432	地質	南ア一部	青崩峠地域(長野)	未確認	学会誌	柴田 賢・高木秀雄・稲崎富士内海 茂	1993	赤石山地、青崩峠地域の戸台構造帯の花崗岩類とその放射年代	地質学雑誌, 99, 135-144. ♂	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
433	地質	南ア一部	赤石山地南部(静岡)	未確認	修士論文	柴田佑治	1983	赤石山地南部光明層群中のオリストストローム	静大教育学部卒論, 39p.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
434	地質	南ア一部	長野県南部	未確認	学会誌	Shikama, T.	1951	Pleogene mollusca from South Nagano-Ken.	Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., No. 1, 13-16.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
435	地質	南ア一部	長野県南部	未確認	書籍	鹿間時夫	1951	南信の第三紀層。長野県の地学 I, 45-69.	長野県の地学 I, 45-69.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
436	地形	南ア一部	赤石山地北部(長野・山梨)	未確認	記念論文集	式 正英	1961	赤石山地北部の地形について	辻村太郎記念論文集, 224-238	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
437	地形	南ア一部	仙丈ヶ岳・藪沢(長野)	未確認	学会誌	式 正英	2000	「南アルプス仙丈ヶ岳・藪沢の最終氷期の氷河作用と堆積段丘」の問題点を既往の研究から考察する。	地理学評論 Ser. A, 73, 11, 817-819, 26	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
438	地質	南ア一部	赤石山地(長野)	未確認	学会誌	島津光夫	1956	長野県下伊那地方の超塩基性および塩基性岩類	岩鉱学会誌, 40, 6.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
439	地形	広域	甲府(山梨・長野・静岡)	未確認	図幅	清水文建・中田 高・平川一臣・今泉俊文	1991	60甲府. 新編日本の活断層-分布図と資料-	東京大学出版会, 200-204.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
440	地形	南ア一部	塩見岳周辺(長野・静岡)	未確認	紀要	清水 長正	1980	南アルプス塩見岳周辺の氷河地形	駒沢大学大学院地理学研究, 10, 47-55	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
441	地質	南ア一部	下伊那(長野)	未確認	書籍	下伊那教育会	1925	下伊那地質誌	古今書院.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
442	地質	南ア一部	大鹿地方(長野)	未確認	書籍	下伊那教育会	1938	下伊那の地誌 -大鹿地方-	山村書院.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
443	地質	南ア一部	下伊那(長野)	未確認	書籍	下伊那教育会地質委員会	2006	下伊那誌地質編	下伊那誌編纂会.	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
444	地質	広域	糸魚川-静岡構造線活断層系	未確認	図幅	下川浩一・水野清秀・井村隆介・奥村晃史・杉山雄一・山崎晴雄	1995	糸魚川-静岡構造線活断層系ストリップマップ. 構造図 11.	地質調査所.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
445	地質	南ア一部	掛川市北部(静岡)	未確認	学会誌	下川浩一・杉山雄一	1982	静岡県掛川市北部に分布する下部中新統三笠層群中の超塩基性-塩基性岩類の礫	地質学雑誌, vol. 88, p. 915-918.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
446	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	下川浩一・杉山雄一	1983	静岡県中部に分布する高草山層群の地質及び変成作用について	地調月報, 34, 435-440	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
447	地形	南ア全域	赤石山地(静岡・山梨)	未確認	紀要	Shindou, S. and Hisada, K.	1981	Bed rock creep in the Akaishi Mountains.	Annual Report of Institute of Geosciences, University of Tsukuba, 7, 60-62.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
448	地質	南部 フォッサ マグナ	南部 フォッサ マグナ	未確認	紀要	Soh, W.	1986	Reconstruction of Fujikawa Trough in Mio-Pliocene Age and its Geotectonic Implication	Memoirs of the faculty of the science Kyoto University Series of Geol. & Mineral., 52, 1-68	未確認	村松	狩野 村松 河本	なし	
449	地形	南ア全域	赤石山 地・三河 高原南部 (長野・ 静岡)	未確認	学会誌	須貝俊彦	1990	赤石山地・三河高原南部 の浸食小起伏面の性質と 起源	地理評, 63A, 793-813.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
450	地形	南ア一部	赤石山地 (長野・ 静岡・山 梨)	未確認	学会誌	須貝俊彦	1992	赤石山地高山域における 周水河作用による浸食小 起伏面の形成ープロセス ・レスポンス・モデル による量的検討ー	地理評, 65A, 168-179.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
451	地形	広域	未区分	未確認	紀要	Sugai, T. and Ohmori, H.	1999	A model of relief forming by tectonic uplift and valley incision of orogenesis.	Basin Research, 11, 43-57.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
452	地形	広域	未区分	未確認	学会誌	Sugai, T., Ohmori, H. and Hirano, M.	1994	Rock control on magnitute-frequence distribution of landslide.	Transactions, Japanese Geomorphological Union, 15, 233- 251.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
453	地質	南ア一部	伊那盆地 (長野)	未確認	学会誌	菅沼裕介・ 鈴木毅彦・ 山崎晴雄・ 菊池隆男	2003	長野県南部, 伊那層群の テフラとその対比	第四紀研究, 42, 321-334.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
454	地質	南ア一部	高遠(長 野)	中央構造線, マイロナイト	学術誌	杉 健一	1935	信州高遠付近の「鹿塩片 麻岩」に就いて	博物学雑誌, 33 巻, 54号, 1-5	未確認	河本	狩野 村松 河本	なし	
455	地質	南ア一部	高草山 (静岡)	未確認	学会誌	杉 健一	1938	静岡県高草山のdolerite におけるpurple augite のaegirinization.	地質学雑誌, 45, p 169.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
456	地質	南ア一部	静岡県中 部	未確認	学会誌	杉山雄一	1980	静岡県中部に分布する第 三系大井川層群の海底地 すべり堆積物と異地性角 礫岩塊	地質学雑誌, vol. 86, p. 673-685.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
457	地質	南ア一部	静岡地域	未確認	学会誌	杉山雄一	1981	静岡地域の地質構造発達 史-特に, 多重褶曲構造 と最近の地殻変動につい て-	構造地質研究会 誌, 26, 71-87.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
458	地質	南ア一部	大井川下 流域(静 岡)	未確認	学会予 稿	杉山雄一	1985	静岡県大井川下流域に分 布するオリストストローム	構造地質研究会・ 碎屑性堆積物研究 会合同シンポジウ ム・スランプ相の 形成とテクトニク スー未固結堆積物 の変形に関する諸 問題一, 49-60	未確認	村松	狩野 村松 河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
459	地質	広域	西南日本	未確認	紀要	杉山雄一	1989	島弧における帯状構造の屈曲とプレートの斜め沈み込み 第2部 - 西南日本外帯の屈曲構造とプレート間相対運動の変遷 -	地調月報, 40, 543-564	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
460	地質	広域	西南日本	未確認	紀要	杉山雄一	1989	島弧における帯状構造の屈曲とプレートの斜め沈み込み 第1部 - 西南日本外帯沖の屈曲構造とプレート境界地震 -	地調月報, 40, 533-541	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
461	地質	広域	静岡地域	未確認	紀要	杉山雄一	1992	西南日本前弧域の新生代テクトニクス - 静岡地域のデータを中心として -	地調月報, 43, 91-112.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
462	地質	南ア一部	赤石山地 (静岡・山梨)	未確認	紀要	杉山雄一	1995	赤石山地の瀬戸川帯北部の地質と瀬戸川付加体の形成過程	地調月報, 46, 177-214.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
463	地質	南ア一部		未確認	紀要	杉山雄一・寒川 旭・下川浩一・水野清秀	1987	静岡県御前崎地域の段丘堆積物(上部更新統)と更新世後期における地殻変動	地調月報, 38, 443-472	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
464	地質	南ア一部	静岡県中部	未確認	学会誌	杉山雄一・下川浩一	1981	静岡県中部に分布する古第三系瀬戸川層群の古地理学的研究	地質学雑誌, vol. 87, p. 439-456.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
465	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	杉山雄一・下川浩一	1982	静岡県庵原地域の地質構造と入山断層系	地調月報, 33, 293-320	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
466	地質	南ア一部	未区分	未確認	図幅	杉山雄一・下川浩一	1989	赤石山地四万十帯における前期中新世付加帯(瀬戸川帯)の形成過程	構造地質, No. 34, 173-188.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
467	地質	南ア一部	静岡地域	地質図 静岡	図幅	杉山雄一・寒川旭・下川浩一・水野清秀	1988	静岡地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅).	地質調査所, 82p.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
468	地質	南ア一部	御前崎(静岡)	地質図 御前崎	図幅	杉山雄一・下川浩一・坂本 亨・秦 光男	1982	御前崎地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)	地質調査所, 153p.	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
469	地質	南ア一部	清水地域(静岡)	地質図 清水	図幅	杉山雄一・下川浩一	1990	清水地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)	地質調査所, 103p.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
470	地質	南ア一部	四万十帯(静岡)	未確認	紀要	杉山祐規子・狩野謙一・M. Satish-Kumar	2004	赤石山地四万十帯, 上部白亜系犬居メランジュ形成時・形成後の温度圧力条件: 流体包有物による検討	静岡大学地球科学研究報告, 31, 5-12.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
471	地質	南ア一部	中央構造線(長野・静岡)	未確認	書籍	諏訪兼位	1973	中央構造線に沿う変成岩類. 杉山隆二編 「中央構造線」	東海大出版会, 221-238.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
472	地物	南ア一部		未確認	紀要	鈴木 洋・里村幹夫・益永雅博	1994	GPS/Leveling法による赤石山脈周辺のジオイド高の決定	静岡大学地球科学研究報告, 21, 29-36	未確認	村松	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
473	地形	南ア一部	赤石山地南部(静岡)	未確認	書籍	鈴木郁夫	1975	赤石山地南部の線状凹地	日本の氷期の諸問題 古今書院, 112-123.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
474	地質	南ア一部	伊那山脈・三河高原・木曾山脈(長野・愛知・岐阜)	花崗岩, 変成岩, 高地温勾配, 中央構造線	書籍	鈴木和博・三宅明	2006	領家変成帯-低圧高温型変成作用	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 230-231	領家変成帯は中央構造線の北側に40~60kmの幅に分布する花崗岩と高地温勾配変成相系列の変成岩からなる。Chime年代から広域変成作用およびミグマタイト化は100Ma, 95Maの神原トータル岩と92Maの天竜峡花崗閃緑岩は強い面構造を持つ。85Maの新城トータル岩は接触変成帯を生じており, 90~85Maの間に領家変成帯は上昇した。79Maの伊奈川花崗閃緑岩は濃飛流紋岩に貫入している。	河本	狩野村松河本	なし	
475	地質	三河高原	蒲郡市西浦半島(愛知)	玄武岩質シンプルトニック岩脈	書籍	鈴木和博・三宅明	2006	西浦の神原トータル岩とシンプルトニック岩脈-最古期の領家花崗岩と玄武岩質マグマ活動	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 238-239	領家変成帯には, 花崗岩の貫入と平行して, 苦鉄質マグマの活動が並存した。	河本	狩野村松河本	なし	
476	地質	三河高原	岡崎市(愛知)	領家新期花崗岩	書籍	鈴木和博・三宅明	2006	岡崎の武節花崗岩-末期の領家花崗岩類	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝倉書店, 240-241	武節花崗岩のモナズ石CHIME年代は77Ma, 500°C以下の閉止温度を示す白雲母のK-Ar年代は75Maである。これは広域変成作用から2000万年後で, 領家変成帯は上昇して力学的に平穏になっていた。	河本	狩野村松河本	なし	
477	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	鈴木忠夫	1959	静岡県安倍郡中河内川上流地域の地質	地学しずはた, 19, 33-36.	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
478	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	平 研介・和田秀樹	1999	瀬戸川帯静岡市二王山周辺域に産する斧石、ダト一石	静岡大学地球科学研究報告, 26, 39-49	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
479	地質	南ア一部	白州~葦崎付近(山梨)	未確認	学会誌	田力正好	2002	糸魚川-静岡構造線活断層系南部, 白州~葦崎付近の活構造と第四紀の活動史	活断層研究, 21, 33-49.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
480	地質	なし	未区分	未確認	紀要	高木秀雄	1982	マイロナイトの定義及び圧砕岩類の分類に関する問題点	早稲田大学教育学部学術研究(生物学・地学編), 31, 49-57	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
481	地質	南ア一部	上伊那地方(長野)	未確認	紀要	高木秀雄	1983	中央構造線沿いの圧砕岩類に認められるカタラスティックな重複変形-長野県上伊那地方の例-	早稲田大学教育学部学術研究(生物学・地学編), 32, 47-60.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
482	地質	南ア一部	高遠~市野瀬地域(長野)	未確認	学会誌	高木秀雄	1984	長野県高遠~市野瀬地域における中央構造線沿いの圧砕岩類	地質学雑誌, 90, 81-100.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
483	地質	広域	中部地方	未確認	学会誌	Takagi, H.	1986	Implications of mylonitic microstructures for the geotectonic evolution of the Median Tectonic Line, central Japan.	Jour. Struct. Geol., 9, 3-14.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
484	地質	広域	未区分	未確認	学会誌	高木秀雄	1988	中央構造線のマイロナイト微小構造とテクトニクス	構造地質, 33, 1-11	未確認	村松	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
485	地質	広域	一般	脆性 (brittle), 延性 (ductile), 破砕 (cataclastic), 塑性 (plastic)	学会誌	高木秀雄	1998	破砕-塑性遷移領域の断層岩類	地質学論集, 50, 59-72	脆性-延性遷移領域では、高圧のため岩石内部の微小破壊面は閉じて成長せず高温のため特定の構成鉱物の結晶内すべりや粒界拡散減少などによる塑性流動が卓越しはじめる。破砕流動 (cataclastic flow) は応力-歪曲線において脆性領域 (brittle regime) ではなく延性領域 (ductile regime) に含まれるが、断層岩の変形機構や断層の地殻断面を念頭において遷移を記述する場合には破砕-塑性遷移 (cataclastic-plastic transition) の破砕領域に含まれる。	河本	河本	なし	
486	地質	南ア一部	長谷・大鹿(長野)	未確認	学会誌	高木秀男・松島信幸・河本和朗	1993	長野県の中央構造線の露頭と中央構造線博物館	地質学雑誌, 99, 口絵, xxvii-xxviii (27-28).	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
487	地質	南ア一部	中部地方	未確認	学会誌	高木秀男・柴田賢・内海茂	1991	中部地方における中央構造線の断層ガウジとフェルサイト岩脈のK-Ar年代	地質学雑誌, 97, 377-384.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
488	地質	広域	日本列島、戸台層、兵越花崗岩	古領家、兵越、薄衣式礫岩、竹貫変成複合岩体。	記念論文	高木秀雄・柴田賢	1996	古領家帯の復元	テクトニクスと変成作用(原都夫先生退官記念論文集), 211-219	中央構造線で接する領家帯と三波川帯の間に、三波川変成作用の時期にすでに冷却していた地質体が存在していた。ペルム紀の金勝山-兵越-臼杵川花崗岩類は南部北上帯の薄衣式礫岩中の花崗岩礫に、白亜紀前期の寄居-大島-肥後変成複合岩体は阿武隈帯の竹貫変成複合岩体に対比される。	村松河本	狩野村松河本	なし	
489	地質	広域	日本列島、飯田市兵越花崗岩	黒瀬川帯、古領家、兵越花崗岩、薄衣礫岩	学会誌	高木秀雄・柴田賢	2000	古領家帯の構成要素と古領家-黒瀬川地帯の復元	地質学論集, 50, 1-12	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
490	地質	南ア一部	南部フォッサマグナ(山梨)	未確認	紀要	高木登・岡田博有	1987	南部フォッサマグナ、礫岩の堆積学的研究	静岡大学地球科学研究報告, 13, 11-24.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
491	地質	南ア一部	未区分	未確認	書籍	高橋正樹	2006	甲府深成岩体-最大規模の中新世花崗岩バソリス	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌4, 中部地方], 朝倉書店, 358-359	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
492	地質	広域	関東-赤石	未確認	学会誌	Takahashi, M. and Saito, K.	1997	Miocene intra-arc bending at an arc-arc collision zone, central Japan.	The Island Arc, 6, 168-182.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
493	地質	南ア一部	高草山地域(静岡)	未確認	学会誌	高草山団研	1979	静岡県高草山地域の層序と構造	地質学論集, 16, 157-167.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
494	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	学会誌	Takasawa, K.	1976	Anorthite in peridotite from the Setogawa Group, Shizuoka Prefecture, central Japan.	Earth Sci. (Chikyu Kagaku), 30, 163-169.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
495	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	学会誌	高沢耕一	1976	瀬戸川層群中の斑状組織をもつ超苦鉄質岩類について	地球科学, 30, 317-330.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
496	地質	南ア一部	瀬戸川層群(静岡)	未確認	学会誌	Takasawa, K., Kuroda, Y.	1974	A quartz-magnesite rock in the Setogawa zone, central Japan.	Jour. Geol. Soc. Japan, vol. 80, p. 425-427.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
497	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	高沢耕一・平野英雄	1979	高山ピクライトのherrigborn状磁鉄鉱について	地球科学, 33, 241-246	未確認	村松	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
498	地震	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	武尾 実・ 阿部勝征	1979	1935年7月11日静岡地震の発生機構	地震, 2, 32, 423-434	未確認	村松	狩野 村松 河本	なし	
499	地質	南ア一部	桃の木垂層(山梨)	未確認	学術誌	Takeshita, T.	1995	Dynamic analysis of deformed quartz grains from the folded Middle Miocene Momonoki Subgroup of central Japan: origin of healed microcrack	Tectonophysics, 245, 277-297.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
500	地質	南ア一部	鳳凰山東方(山梨)	未確認	学会誌	竹下 徹・ 伊勢 清	1994	山梨県鳳凰山東方の糸静岡線に沿う地域の構造地質学的研究(その1)	構造地質, 40, 117-129.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
501	地質	南ア一部	高草山(静岡)	未確認	紀要	竹内正辰	1967	静岡県焼津市高草山玄武岩中の方解石-束沸石網状脈について	静大教育研報, 18, 58-63.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
502	地質	広域	四万十帯	未確認	紀要	竹内真司・ 狩野謙一	1991	四万十帯メランジュの変形過程 - 地質学的データに基づく比較沈み込み学	静岡大学地球科学 研報, 17, 87- 129. ♀	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
503	地質	南ア一部	四万十帯(静岡)	未確認	修士論文	田邊祐高	1993	イライト結晶化度と地質構造の関連: 赤石山地四万十帯での例	静岡大学理学部修 論, 70p.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
504	地質	南ア一部	四万十帯(静岡)	未確認	学術誌	Tanabe, H., Kano, K.	1996	Illite crystallinity study of the Cretaceous Shimanto Belt in the Akaishi Mountains, eastern Southwest Japan.	The Island Arc, 5, 56-68.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
505	地質	南ア一部	四万十帯(静岡)	未確認	学会誌	田邊祐高・ 唐沢 譲・ 狩野謙一	1994	イライト結晶化度による付加帯の続成~弱変成度の検討: 赤石山地四万十帯での例	構造地質, 39, 260-262.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
506	地質	南ア一部	山梨県糸魚川-静岡構造線沿い	未確認	紀要	田中元之進	1963	山梨県における糸魚川-静岡構造線に沿う地帯の鉱床および温泉と深成岩との関係について(予報)	山梨大学芸研報, 14, 150-155.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
507	地質	なし	不明	未確認	学会誌	Tanaka, H.	1992	Cataclastic lineations.	Jour. Struct. Geol., 14, 1239- 1252.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
508	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	田中秀実	1992	脆性剪断帯の断層活動とそれにともなう地殻変換様式-赤石裂線および中央構造線の脆性剪断帯の例-	早稲田大学大学院 理工学研究彙報, 38, 35-36	未確認	村松	狩野 村松 河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
509	地質	南ア一部	赤石裂線 (静岡)	未確認	研究報告	田中秀実	1998	赤石裂線	小坂和夫・大友幸子・高木秀雄・豊島剛志・田中秀実・越谷 信・嶋本利彦(編), カタログ:日本の断層と断層岩, 日本大学文理学部自然科学研究所「研究紀要」, 101-102.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
510	地質	南ア一部	中部地方	未確認	学会誌	田中秀実・原 崇	1990	中央構造線の中新世初期以前の右横ずれ運動 - 断層破碎岩の検討から -	地質学雑誌, 96, 331-334.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
511	地質	南ア一部	赤石裂線 (静岡)	未確認	学会誌	田中秀実・坂 幸恭・安部武史・板谷徹丸	1992	赤石裂線の断層ガウジとそのK-Ar年代	地質学雑誌, 98, 39-48.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
512	地質	南ア一部	長谷・大鹿(長野)	未確認	学会誌	田中秀実・高木秀雄・井上 良	1996	中部地方中央構造線に伴う断層破碎岩類の変形・変質様式と断層活動史	構造地質, 41, 31-44.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
513	地質	南ア一部	赤石裂線 (静岡)	未確認	学会誌	Tanaka, H., Uehara, N. and Itaya, T.	1995	Timing of cataclastic deformation of the Akaishi Tectonic Line, central Japan.	Contrib. Min. Pet., 120, 150-158.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
514	地質	南ア一部	赤石山地 (長野)	未確認	記念論文集	Tashiro, M.	1988	Cenomanian bivalve fauna of the Akaishi Mountains, central Japan.	Saito Ho-on Kai Spec. Pub. (Prof. T. Kotaka Commemorative Vol.), 285-295.♂	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
515	地質	南ア一部	戸台(長野)	未確認	学会誌	田代正之・柳沢秀樹・北村健治	1986	赤石山地戸台地域からの領石フォーナの発見	地質学雑誌, 92, 757-759.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
516	地質	南ア一部	赤石層群 (長野)	未確認	書籍	立石雅昭・川端清司	1988	四万十帯赤石層群.	日本の地質「中部地方」編集委員会編, 日本の地質, 中部地方I, 共立出版, 東京, 46-48.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
517	地質	南ア一部	天竜川上流地域 (長野)	未確認	図幅	天竜川上流地域地質図調査・編集委員会	1984	5万分の1天竜川上流地域地質図及び同説明書	中部建設協会	長野県の天竜川上流地域と, その周辺の地質図(5万分の1)	狩野	狩野村松河本	静岡	
518	地質	南ア一部	赤石山地 (静岡・長野)	未確認	紀要	寺岡易司・鈴木盛久・林 武広・奥村公男	1996	赤石山地四万十帯の碎屑岩組成	広島大学学校教育学部紀要, 11, 18, 83-98.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
519	地物	南ア一部	東海地方	未確認	学会誌	Thatcher, W. and Matsuda, T.	1981	Quaternary and geodetically measured crustal movements in the Tokai district, central Honshu, Japan.	Jour. Geophys. Res., 86, B10, 9237-9247.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
520	地質	南ア一部	白州断層・下円井断層・市之瀬断層(山梨)	未確認	学会誌	遠田晋次・三浦大助・宮腰勝義・井上大栄	2000	糸魚川-静岡構造線活断層系南部の最近の断層活動-白州断層・下円井断層・市之瀬断層のトレンチ掘削調査-	地震, 52, 445-468.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
521	地質	南ア一部	静岡県	未確認	学会誌	徳岡隆夫	1964	静岡県下の瀬戸川層群・大井川層群についての概説	地質学雑誌, 70, 1-11.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
522	地質	広域	赤石山地・紀伊半島	未確認	研究報告	徳岡隆夫・公文富士夫	1979	赤石山地と紀伊半島の四万十帯--とくに砂岩の鉱物組成の考察--	徳岡 隆夫・公文富士夫 1979: 赤石山地と紀伊半島の四万十帯--とくに砂岩の鉱物組成の考察--	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
523	地質	南ア一部	赤石山地(静岡)	未確認	書籍	徳山 明	1972	赤石山地のしゅう曲	地学散歩(5)-静岡地学, 23, 1-3, 静岡県地学会	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
524	地質	南ア一部	竜爪山・大崩海岸(静岡)	未確認	紀要	徳山 明	1972	糸魚川-静岡線沿いの竜爪山帯と大崩海岸地域の地質概説	静岡大地学研究報告, vol. 3, no. 1, p. 7-11.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
525	地質	南ア一部	瀬戸川帯(静岡)	未確認	報告書	徳山 明	1974	古第三系(瀬戸川帯)	土隆一編 "静岡県の地質", 静岡県, 27-34.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
526	地質	南ア一部	奥大井地域(静岡)	未確認	報告書	徳山 明	1975	南アルプスの地質	南アルプス・奥大井地域学術調査報告書, 31-44, 静岡県自然保護協会	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
527	地質	南ア一部	奥大井地域(静岡)	未確認	報告書	徳山 明	1975	概論編 地質について	南アルプス・奥大井地域学術調査報告書, 37988, 静岡県自然保護協会	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
528	地質	南ア一部	大井川上流域(静岡)	未確認	紀要	徳山 明	1983	大井川上流域の四万十帯の変形様式と構造解析	兵庫教育大学研究紀要, 2, 223-246.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
529	地質	その他	フォッサマグナ(静岡・山梨)	未確認	学会誌	徳山 明・半田孝司	1978	フォッサマグナの基盤構造と現在の地殻変動	地学雑誌, 87, 57-63.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
530	地質	南ア一部	四万十帯(静岡)	未確認	学術誌	Toriumi, M. and Teruya, J.	1988	Tectono-metamorphism of the Shimanto Belt.	Modern Geol., 12, 303-324.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
531	地形	南ア一部	赤石山地(長野)	未確認	紀要	鳥山武雄	1961	赤石山地遠山川流域の砂防地質学的研究	信大教紀要, 12, 1-25.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
532	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	土 隆一	1968	開析扇状地から知られる地殻変動	第四紀研究, 7, 225-234	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
533	地質	広域	未区分	未確認	紀要	Tsuchi, R.	1970	Quaternary Tectonic Map of the Tokai Region. The Pacific Coast of Central Japan	Reports of Faculty Science. SHIZUOKA UNIVERSITY, 5, 103-114	未確認	村松	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
534	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	土 隆一	1984	南部フォッサマグナ・フィリピン海プレート北縁のネオテクトニクス	第四紀研究, 23, 53-54	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
535	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	土 隆一	1984	駿河湾周辺の新第三系・第四系の構造とネオテクトニクス	第四紀研究, 23, 155-164	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
536	地質	南ア一部	静岡県	未確認	図幅	土 隆一(編)	1986	土 隆一(編), 1986: 静岡県地質図 1: 200,000 (改訂版), 静岡県.	土 隆一(編), 1986: 静岡県地質図 1: 200,000 (改訂版), 静岡県.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
537	地質	南ア一部	静岡県	未確認	図幅	土 隆一・ 鮫島輝彦・ 岩橋 徹・ 徳山 明・ 伊藤通玄・ 黒田 直・ 藤吉 瞭・ 池谷仙之	1973	20万分の1静岡県地質図	静岡県.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
538	地形	南ア一部	天竜川流域(長野・静岡・愛知)	未確認	学会誌	辻村太郎	1919	天竜川流域の地形	地学雑誌, 31, ????	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
539	地形	南ア一部	甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳(山梨・長野)	未確認	学会誌	辻村太郎	1934	甲斐國駒ヶ嶽並びに仙丈ヶ嶽の地形學的觀察 2	地理学評論, 10, 285-300.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
540	地質	南ア一部	光明断層(静岡)	未確認	紀要	Tsuneishi, Y.	1975	Fault-forming process of the Komyo Fault in Central Japan.	Bulletin of the Earthquake Research Institute, 50, 415-442.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
541	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	恒石幸正	1984	“東海地震”に関連する特A級活断層	第四紀研究, 23, 145-150	未確認	村松	狩野村松河本	なし	
542	地質	南ア一部	国界橋深成岩類(山梨・長野)	未確認	学会誌	角田謙朗・ 清水正明・ 西戸裕嗣	1993	赤石山地北端部に位置する国界橋深成岩類の K-Ar年代	岩鉱, 88, 478-484.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
543	地質	南ア一部	大鹿村小渋川流域(長野)	未確認	紀要	筒井良二	1979	大鹿村小渋川流域の地質	下伊那紀, 2, 145-152.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
544	地質	南ア一部	大鹿村塩川・小河内沢(長野)	未確認	紀要	筒井良二	1980	大鹿村地域・秩父帯の地質 - 塩川・小河内沢調査資料 -	下伊那紀, 3, 177-185.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
545	地質	南ア一部	赤石山地(長野)	未確認	紀要	筒井良二	1981	中央構造線の露頭	伊那, 29, 11, 12-17.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
546	地質	南ア一部	大鹿村小 渋川・塩 川・小河 内沢(長野)	未確認	紀要	筒井良二	1981	大鹿村地域秩父帯の地質 - 小渋川・塩川・小河内 沢調査資料	下伊那紀, 4, 63- 71.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
547	地質	南ア一部	大鹿村小 河内沢・ 寺沢・塩 川(長野)	未確認	紀要	筒井良二	1982	大鹿村地域・秩父帯の地 質-小河内沢・寺沢・塩 川調査資料-	下伊那紀, 5, 79- 85.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
548	地質	南ア一部	大鹿村塩 川支流・ 寺沢支流 (長野)	未確認	紀要	筒井良二	1983	大鹿村地域秩父帯の地質 - 塩川支流・寺沢支流調 査資料-	下伊那紀, 6, 127-132.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
549	地質	南ア一部	大鹿村鳥 倉山林 道・所沢・ 寺沢 (長野)	未確認	紀要	筒井良二	1984	大鹿村地域秩父帯の地質 - 鳥倉山林道・所沢・寺 沢調査資料-	下伊那紀, 7, 109-114.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
550	地質	南ア一部	大鹿村初 ノ沢・ユ オレ沢・ 大薙渡 沢・上沢 (長野)	未確認	紀要	筒井良二	1985	大鹿村地域秩父帯中の背 斜構造の確認-初ノ 沢・ユオレ沢・大薙渡 沢・上沢の調査-	下伊那紀, 8, 59- 64.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
551	地質	南ア一部	塩見岳・ 赤石岳付 近(長野・ 静岡)	未確認	報告書	津屋 弘 達・村井 和子	1963	南アルプス・塩見岳・赤 石岳付近の地形と地質	日本自然保護協会 調査報告。南アル プス塩見岳、荒川 岳、赤石岳附近 の学術調査報告。 4, 49-55, 長野営 林局	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
552	地形	南ア全域	赤石山地 (長野・ 静岡・山 梨)	未確認	学会誌	上田信三	1936	山稜の高さと平面形から 見た赤石山地	地理学評論, 12, 504-526	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
553	地質	南ア一部	大鹿村入 沢井(長野)	みかぶ帯、塩 川岩体、かん らん岩、緑色 岩、MORB(中 央海嶺玄武 岩)、海山、 海台	学会誌	上杉次郎・ 荒井章司	1999	長野県みかぶ帯、塩川か んらん岩体、プレート内 マグマからの集積岩	地質学論集, 52, 229-242	塩川かんらん岩体は巨大な層状岩体の一部である。クロムスピネルの組成はMORBとは異なり海台を造ったプレート内マグマからの集積を示唆する。周囲の緑色岩も非MORB的である。みかぶ帯の緑色岩はMORB起源のものが卓越しているとされ、かんらん岩体の周囲のみ非MORB的なものが卓越しているのかもしれない。	村松 河本	狩野 村松 河本	なし	
554	地質	南ア一部	未区分	未確認	書籍	海野 進	2006	大崩海岸-浜当目のアル カリ玄武岩枕状溶岩	新妻信明ほか編 [日本地方地質誌 4, 中部地方], 朝 倉書店, 426-427	未確認	河本	狩野 村松 河本	なし	
555	地物	広域	日本列島	海嶺沈み込み	学会誌	Uyeda, S.	1974	Plate Tectonics and the Japanese Islands: A Synthesis	Geological Society of America Bulletin, v. 85, 1159-1170	未確認	河本	狩野 村松 河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
556	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Wada, H., Ohashi, F., Fujioka, K.	1994	Stable isotopic studies on the origin of magnesite deposits in the Setogawa Group, Shizuoka, Central Japan	Geosci. Repts. Shizuoka Univ., 20, 167-173	未確認	村松	狩野, 村松	なし	
557	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	脇水鉄五郎	1899	信州美和村産三角貝化石	地質学雑誌, 6, 83.	未確認	村松		なし	
558	地質	南ア一部	倉真・湯日地域 (静岡)	未確認	学会誌	渡部芳夫	1988	静岡県中央部倉真・湯日地域の地質-瀬戸川帯の南西延長として-	地質学雑誌, vol. 94, p. 207-219.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
559	地形	南ア一部	赤石山地南部 (静岡)	未確認	学会誌	渡辺 光	1930	赤石山系南部の地形と地形発達	地理学評論, 6, 727-750.	未確認	狩野	狩野	静岡	
560	地質	南ア一部	大鹿村鹿塩 (長野)	未確認	研究報告	渡辺 暉夫	1967	下伊那郡鹿塩地方の三波川帯	あかいし, 9, 12-14, 赤石山地地質研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
561	地質	南ア一部	大鹿地方 (長野)	未確認	学会誌	渡辺暉夫	1970	長野県下伊那大鹿地方の三波川帯・秩父帯の地質及び構造	地質学雑誌, 76, 373-388.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
562	地質	南ア一部	赤石山地 (長野)	未確認	研究報告	渡辺暉夫	1973	パンベリー石・アクチノ閃石を含む鉱物共生関係について	あかいし, 11, 11-12, 赤石山地地質研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
563	地質	南ア一部	大鹿村小渋川地域 (長野)	未確認	学会誌	Watanabe, T.	1974	Metamorphic zoning of the Sambagawa and Chichibu Belts in the Koshibu-gawa river area, Oshika district, central Japan, with special reference to pumpellyite-actinolite schist facies mineral assemblage.	J. Geol. Soc. Japan, 80, 525-538.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
564	地質	南ア一部	大鹿村 (長野)	未確認	学会誌	渡辺暉夫	1974	三波川・秩父帯中の小褶曲の形成機構についての一考察 -長野県大鹿地方の例-	地質学雑誌, 80, 225-238.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
565	地質	南ア一部	大鹿村 (長野)	未確認	紀要	Watanabe, T.	1977	Meramorphism of the Sambagawa and Chichibu Belts in the Oshika district, Nagano Prefecture, central Japan	J. Fac. Sci. Hokkaido Univ., ser. IV, 17, 629-694.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
566	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	渡辺暉夫・河内洋佑	1975	三波川帯の原岩・構造・変成作用の問題	地団研専報, 19, 81-87	未確認	村松	村松	なし	
567	地質	南ア一部	赤石山地 (長野)	未確認	研究報告	渡辺暉夫・河内洋佑	1977	長野県伊那地方の三波川帯変成作用	秀 敬編 三波川帯, 229-235, 広島大学出版研究会	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
568	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Watanabe, T., Kawachi, Y., Yuasa, M.	1978	Relict clinopyroxenes in the mikabu greenstones, Oshika and Kosetokyo districts. Nagano prefecture. Central Japan	Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. IV, 18, 509-520	未確認	村松	狩野村松	なし	
569	地質	南ア一部	赤石山地(長野)	未確認	研究報告	渡辺暉夫・牧本博・湯浅真人	1976	長野県伊那地方の御荷鉢緑色岩の超塩基性岩	緑色岩類, 3-10.	未確認	狩野	狩野河本	静岡	
570	地質	南ア一部	遠山地方(長野)	未確認	紀要	渡辺暉夫・坂本正夫・湯浅真人・片田正人	1978	長野県南部秩父帯遠山地方・三畳紀緑色岩中のケルスト閃石	地質調査所月報, 29, 395-399.	未確認	狩野	狩野	静岡	
571	地質	南ア一部	赤石山地(長野・山梨・静岡)	未確認	紀要	渡辺暉夫・関根倫雄	1970	赤石山地四万十帯変成作用研究の現状	あかいし, 10, 8-9. 赤石山地地質研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
572	地質	南ア一部	赤石山地・北海道	未確認	紀要	渡辺暉夫・柴草英彦	1968	赤石山地の三波川帯と神居古潭帯の変成岩について	Magma, 15, 10-13 火成作用研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
573	地質	南ア一部	赤石山地(長野)	未確認	学会誌	渡辺暉夫・菅家延征	1974	長野県伊那地方の三波川結晶片岩の重複変形	地質学雑誌, 80, 17-30.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
574	地質	南ア一部	三波川帯(長野)	未確認	学会誌	渡辺暉夫・河内洋佑	1977	長野県伊那地方の三波川変成作用	秀敬編, 三波川帯, 229-235, 広島大学出版研究会	三波川帯・秩父帯の変成分帯を4つに区分した。低変成度地域では流体相の存在が大きな役割を果たしている。南北性の断層により層厚が欠如している。	河本	狩野村松河本	静岡	
575	地質	南ア一部	赤石山地(長野)	未確認	学会誌		1979	Origin of the blueschists and lawsonite-bearing greenstones in the Mikabu greenstones, Ina district, central Japan	Journal of Geological Society of Japan, 85, 331-337.	未確認	狩野	狩野村松河本	静岡	
576	地質	南ア一部	赤石山地(長野)	未確認	研究報告	渡辺暉夫・湯浅真人	1983	赤石山地の青色片岩について	信州の地質構造発達史をめざして-その2(第三紀)・(中生界)・(岩石・構造)--地学団体研究会--信州の地質構造発達史, 110-110	未確認	狩野	狩野	静岡	
577	地質	南ア一部	赤石山地(長野)	未確認	紀要	渡辺暉夫・湯浅真人・後藤準次	1982	長野県伊那地方の御荷鉢緑色岩類中に産する雲母片岩のK-Ar年令	島根大地質研報, 1, 63-66.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
578	地質	南ア一部		未確認	紀要	Watanabe, Y. and Iijima, A.	1989	Miocene Takakusayama seamount of the Setogawa Terrain in Shizuoka, central Japan	Jour. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Sec. II, vol. 20, p. 425-441.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
579	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	Watanabe, Y. and Iijima, A.	1983	Evolution of the Tertiary Setogawa-Kobotoke-Mineoka forearc basin in central Japan with emphasis on the lower Miocene terrigenous turbidite fills	Jour. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Sec. II, vol. 22, p. 53-88.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
580	地質	南ア一部	未区分	未確認	学術誌	矢部長克	1918	糸魚川静岡地溝線	現代の科学, no. 6, p. 147-150.	未確認	狩野	狩野	静岡	
581	地形	広域	未区分	未確認	学会誌	八木浩司	1981	山地に見られる小崖地形の分布とその成因	地理学評論, 54, 272-280.	未確認	狩野	狩野河本	静岡	
582	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	八木信彦・竹谷陽二期・久田健一郎	1996	瀬戸川帯口坂本産出の放射虫化石	筑波大学農林技術センター演習林報告, 12, 107-115.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
583	地形	南ア一部	未区分	未確認	紀要	八木留美子・池田宏	1997	大井川中流の穿入蛇行河道の側方移動について	筑波大学水理実験センター報告, 22, 1-8.	未確認	村松	村松	なし	
584	地形	南ア一部	大鹿村(長野)	未確認	紀要	山田直利	1961	大鹿村の水害地をみる - 36.6. 梅雨前線豪雨におそわれた伊那谷 -	地質ニュース, 85, 8-11.	未確認	狩野	狩野	静岡	
585	地質	広域	赤石山地北部(山梨)	未確認	研究報告	山田哲雄	1965	西南日本外帯の花崗岩質岩石について(1) --本州および四国--	あかいし, 7, 9-14, 赤石山地地質研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
586	地質	南ア一部	赤石山地北部(長野・静岡・山梨)	未確認	学会誌	山田哲雄・河内洋佑・渡辺暉夫・横田勇治・菅家延征	1969	赤石山地の四万十帯, 特に赤石中軸帯-赤石山地北部の地質(その3) -	地質学論集, 4, 117-122.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
587	地質	南ア一部	赤石山地北部(長野・静岡・山梨)	未確認	学会誌	山田哲雄・渡辺暉夫・河内洋佑・湯浅真人・関根倫雄・松浦 要・小川邦夫・横田勇治・菅家延征・木下房男・出町 恵	1983	赤石山地北部の四万十帯	地球科学, 37, 329-348.	未確認	狩野	狩野村松	静岡	
588	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	山際敦史・長谷部徳子・田上高広	1997	赤石山地東部四万十帯のFT年代	フィッシュントラック ニュースレター, 10, 47-50.	未確認	狩野	狩野	静岡	
589	地質	広域	日本列島	黒瀬川帯, 中央構造線	学会誌	山北 聡・大藤 茂	2000	白亜紀左すべり断層系としての中央構造線-黒瀬川断層系による日本列島先白亜紀地質体の再配列過程の復元	地質学論集, 50, 23-38	白亜紀前期の黒瀬川断層帯-中央構造線の一部-棚倉構造線-バルチザンスク断層-シホテアリン中央断層の一部からなる左横ずれ断層系と, 白亜紀後期の中央構造線-畑川構造線(双葉断層)-シホテアリン中央断層からなる左横ずれ断層系を認定した。	河本	狩野村松, 河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
590	地物	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	Yamamoto, A., Nozaki, K., Fukao, Y., Furumoto, M., Shichi, R. and Ezaki, T.	1982	Gravity survey in the central ranges, Honshu, Japan	Journal of Physics of Earth, 30, 201-243.	未確認	狩野	狩野	静岡	
591	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	山本鋼志	1984	静岡県西部瀬戸川帯の酸性凝灰岩および珪質泥岩の地球科学的研究	地質学雑誌, 90, 479-496.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
592	地質	南ア一部	中央構造線(長野)	未確認	学会誌	Yamamoto, H.	1994	Kinematics of mylonitic rocks along the Median Tectonic Line, Akaishi Range, central Japan	Journal of Structural Geology, 16, 61-70.	未確認	狩野	狩野	静岡	
593	地質	南ア一部	水窪地域(静岡)	未確認	紀要	山本啓司・増田俊明	1990	静岡県北西部水窪地域の領家帯マイロナイトの水平剪断変形	静岡大学地球科学研報, 16, 25-47.	未確認	狩野	狩野, 河本	静岡	
594	地質	南ア一部	青崩峠(長野)	未確認	学会誌	山本啓司・松島信幸・河本和朗・大河内篤史	1997	赤石山地の中央構造線における東側上方変位の逆断層運動	地質学雑誌, 103, 912-915.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
595	地質	南ア一部	山梨県	未確認	図幅	山梨県地質図編纂委員会	1970	山梨県地質誌 10万分の1山梨県地質図説明書	240p., 山梨県	未確認	狩野	狩野	静岡	
596	地形	南ア一部	未区分	未確認	学術誌	山崎晴雄	1979	プレート境界部の活断層-駿河湾北岸内陸地域を例にして-	月刊地球, 1, 8, 570-576	未確認	村松	村松	なし	
597	地形	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	山崎晴雄	1984	活断層からみた南部フォッサマグナ地域のネオテクトニクス	第四紀研究, 23, 129-136	未確認	村松	村松	なし	
598	地物	広域	未区分	未確認	学会誌	山崎文人・大井田徹	1985	中部地方におけるフィリピン海プレート沈み込みの形状	地震, 38, 193-201	未確認	村松	村松	なし	
599	地形	南ア一部	諏訪湖南岸地域(長野)	未確認	紀要	安田 聡・橋本知昌・寒川 旭・斎藤英二・渡辺和明・宮崎純一	1989	空中写真を利用した活断層の変位の測定-諏訪湖南岸地域の活断層群-	地質調査所月報, 40, 469-478.	未確認	狩野	狩野	静岡	
600	地質	広域	未区分	未確認	学会誌	横田勇治	1973	西南日本外帯における地質構造の巨大折れ曲がり帯(Megakink)とそのテクトニックな意義	地質学雑誌, 92, 603-606	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	
601	地質	南ア一部	未区分	未確認	研究報告	柳井修一	1986	赤石の構造について	あかいし, 11, 5-6, 赤石山地地質研究グループ	未確認	村松		なし	
602	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	横田勇治・河内洋佑	1967	長野県市野瀬付近の三波川帯の構造-Ump・Bゾーン赤石山地の地質構造(その1)	地質学雑誌, 73, 109.	未確認	狩野	狩野, 村松, 河本	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
603	地形	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	横山俊治・ 柏木 司	1996	安倍川支流関の沢流域の 瀬戸川層群に発達する斜 面の傾動構造の運動像	応用地質, 37, 102-114	未確認	村松		なし	
604	地形	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	米倉伸之	1984	駿河トラフ・相模トラフ 周辺の変動地形	第四紀研究, 23, 83-90	未確認	村松	村松	なし	
605	地質	南ア一部	未区分	未確認	研究報 告	吉田鎮男	1977	静岡県水窪ダム周辺の地 質と光明断層-断層解析 の方法-	静岡県地学会資 料, 22, 15p.	未確認	狩野	狩野	静岡	
606	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	吉田鎮男	1977	赤石連峰を作る地層	静岡地学, 36, 1- 3	未確認	村松	村松	なし	
607	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	吉田鎮男	1977	コノドント化石の静岡県 下初産出	静岡地学, 35, 18-19	未確認	村松	村松	なし	
608	地質	南ア一部	未区分	未確認	紀要	吉田史郎	1992	赤石山地南端、大平層群 (中新統)の浮遊性有孔 虫化石	瑞浪市化石博物館 研究報告, 19, 373-378.	未確認	狩野	狩野 村松	静岡	
609	地質	南ア全域	未区分	未確認	紀要	吉田武雄・ 大塚純二	1991	南アルプスの地形と地質	静岡地学, 64, 1- 8	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
610	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	吉原一城・ 小松俊文	2006	静岡県北部に露出する白 亜系水窪層の地質と軟体 動物化石	地学雑誌, 115, 626-637.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
611	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	吉村一郎・ 立見辰雄	1938	静岡県水窪町の白亜紀層 に就いて	地質学雑誌, 45, 577.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
612	地質	南ア一部	諏訪(長 野)	中央構造線、 杖突峠、横河 川断層、別所 期、横ずれ隔 離	学会誌	吉野博厚	1976	諏訪湖北方および南方の 中央構造線 -特に中新世 以後の活動について -	地質学論集, 13, 61-72.	未確認	狩野 河本	狩野	静岡	
613	地質	南ア一部	未区分	未確認		湯浅 真人	1973	甲斐駒花崗岩の接触変成 作用 (1)	あかいし, 11, 7- 9, 赤石山地地質 研究グループ	未確認	狩野	狩野	静岡	
614	地質	南ア一部	未区分	未確認	学会誌	Yuasa, M.	1976	Contact metamorphic aureole around the Kaikoma-Hoo granodiorite pluton in the northern part of Akaishi Mountains, central Japan	Jour. Japan. Assoc. Min. Pet. Econ. Geol., 71, 157-176.	未確認	狩野	狩野 村松 河本	静岡	
615	地質	南ア一部	未区分	未確認	研究報 告	湯浅真人・ 河内洋佑・ 渡辺暉夫	1983	赤石山地北部の三波川帯 および御荷鉢・秩父帯の 緑色片岩および緑色岩に ついて	信州の地質構造発 達史をめざして- その2(第三 紀)・(中生 界)・(岩石・構 造)--地学団体研 究会--信州の地 質構造発達史. 107-109.	未確認	狩野	狩野	静岡	
616	地質	南ア一部	伊那市非 持	非持トータル 岩	学会誌	柚原雅樹・ 原 文宏・ 加々美寛雄	2000	非持トータル岩のRb- Sr, Sm-Nd年代とその意義	地質学論集, 50, 241-253	非持トータル岩の活動年代は160Maかそれより古いと考えられる。	河本	河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
617	地質	南ア一部	未区分	未確認	記念論 文集	原 郁生	1996	領家南縁剪断帯のマイロナイトー形成条件についての一つの情報	テクトニクスと変成作用(原郁夫先生退官記念論文集), 202-210	未確認	河本	狩野 村松 河本	なし	
618	地質	南ア一部	高遠	中央構造線	学会誌	原 郁生・ 宮本隆実・ 池田圭一・ 次重克敏・ 柳良 督	2004	長野県高遠町板山地域の地古(予報)	構造地質, 48, 1-10	板山地区の調査では、低角の中央構造線を高角の中央構造線が切っている。	河本	狩野 村松 河本	なし	
619	地質	広域	日本列島	プレート沈み込み、コルディレラ型、造山輪廻、衝突型	雑誌	堀越 毅	1972	日本列島の造山帯とプレート	科学, 42, 665-673	造山運動は衝突型とコルディレラ型に分けられる。火山活動の場合は海嶺型と沈み込み帯の前線型・深成型に分けられる。日高造山は北海道東部からの衝突型である。舞鶴帯は秋吉造山の化石化した海溝、黒瀬川帯は佐川造山の海溝に海洋地殻上の地塊が掃き溜められたもの、四万十造山はコルディレラ型である。衝突型の丹沢変動を提起する。現在はミズホ造山である。コルディレラ型沈み込みによる造山輪廻を提起する。	河本	河本	なし	
620	地質	広域	日本列島	中央構造線	研究報告	市川浩一 ・藤田和 夫・須 鍵和 巳・阿 子島 功・岡 田篤 正・永 井浩 三・高 橋和 ・稲見 馬治 郎・宮 田隆 夫・篠 原正 男・河 口雄 三・政 岡邦 夫・寒 川旭 ・西脇 二一 ・吉田 勝・宇 井啓 高・松 島信 幸・坂 本正 夫・原 郁夫 ・佐藤 正 ・藤田 至則	1976	中央構造線の形成過程に関する総合研究-研究連絡誌-No.1 Tectonic Line of Southwest Japan	地質学論集, 18, 1-210	未確認	河本	河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
621	地質	広域	日本列島	中央構造線	研究報告	市川浩一 郎・千田 昇・高橋治 郎・須藤和 巳・阿子島 功・岡田篤 正・宮久三 千年・寒川 旭・宮田隆 夫・近畿西 部MTLグル ープ・領家研 究グル ープ・総研C グループ・吉 田勝・仲 井豊・宇 井啓高・松 島信幸・坂 本正夫・佐 藤正・猪 郷久義・増 田富士雄・ 滝沢茂・ 松田時彦・ 他	1977	中央構造線の形成過程に 関する総合研究－研究連 絡誌－No. 2 Tectonic Line of Southwest Japan	地質学論集, 18, 1-210	未確認	河本	河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
622	地質	広域	日本列島	中央構造線	研究報告	市川浩一 郎・寺岡易 司・高橋治 郎・永井浩 三・宮久三 千年・岡田 篤正・須鍵 和巳・阿子 島 功・伊 熊俊幸・寒 川 旭・近 畿西部MTLグ ループ・須 藤宗孝・篠 原正男・宮 田隆夫・藤 田和夫・正 岡邦夫・吉 田 勝・鈴 木正彦・総 研Cグルー プ・伊藤 誠・松島信 幸・坂本正 夫・宇井啓 高・林 唯 一・小野 晃・端山好 和・田辺芳 弘・小坂和 夫・藤田至	1978	中央構造線の形成過程に 関する総合研究－研究連 絡誌－No.3 Tectonic Line of Southwest Japan	地質学論集, 18, 1-210	未確認	河本	河本	なし	
623	地質	広域	日本列島	中央構造線	学会誌	Ichikawa, K., Hara, I., Hayama, Y., Hujita, K., Yamada, T., Shyoji, K., Sakurai, Y., Yokoyama, S., Hide, K., Miyata, T., Ui, H., Okada, A., Suyari, K., Akojima, I., Shiono, K., Sato, T.	1980	Median Tectonic Line of Southwest Japan	地質学論集, 18, 1-210	未確認	河本	河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
624	地質	広域	日本列島	ウィルソンサイクル, 付加体型造山運動	学会誌	磯崎行雄	1998	日本列島の起源と付加体型造山帯の成長-リフト帯での誕生から都城型造山運動へ-	地質学論集, 50, 107-130	日本の起源は6~7億年前に超大陸ロドニアから揚子地塊が離れたときのリフトに始まった。この大陸縁は5億年前に活動的大陸縁に転化した。4億年前に大陸弧-海溝系となり、以後は付加体のナップ群やカルクアルカリ岩系火成岩をつくった。間歇的な中央海嶺の沈みこみは低温高压型変成帯の上昇や、高温低圧型変成帯をともなう花崗岩バソリス帯の形成をもたらした。	河本	河本	なし	
625	地質	広域	日本列島, 飯田市兵越花崗岩	古生代花崗岩類	学会誌	小林靖広・高木秀雄・加藤 潔・山後公二	2000	日本の古生代花崗岩類の岩石化学的性質とその対比	地質学論集, 50, 65-88	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
626	地質	広域	日本列島	断層岩	研究報告	小坂和夫・大友幸子・高木秀雄・豊島剛志・田中秀美・越谷 信・島本利彦	1998	カタログ: 日本の断層と断層岩	日本大学文理学部自然科学研究所資料	断層と断層岩カタログ	河本	河本	なし	
627	地質	広域	日本列島	プレート古地理, プレート相対運動, 海嶺の沈み込み, 広域変成帯の上昇, 造山運動	雑誌	丸山茂徳・瀬野徹三	1985	日本列島周辺のプレート相対運動と造山運動	科学, 55, 32-41	アジア大陸はいくつかの古いクラトンが造山帯で貼り合わされており、ジュラ紀の初めにはほぼ合体を終えていた。日本列島付近には180~150Maにファラロンプレート、150~70Maにイザナギークラプレート、70Maからは太平洋プレートが来ていた。西南日本では30Maごろからフィリピン海プレートが接し始めた。プレート相対運動の変化と海嶺の沈み込みが、広域変成帯の上昇を含む火定常的な造山運動をもたらしてきた。	河本	河本	なし	
628	地質	広域	日本列島	黒瀬川帯, 古領家, 南部北上帯	学会誌	宮本隆実, 原 郁夫, 山根 誠	2000	黒瀬川-古領家-南部北上陸塊の構造的枠組みの復元	地質学論集, 50, 13-22	未確認	河本	狩野村松河本	なし	
629	地質	広域	日本列島	和達-ベニオフ帯, スラブの切断, マリアナ型, 縁海	雑誌	新妻信明	1985	変動している日本列島-新第三紀テクトニクスとプレートの沈み込み-	科学, 55, 53-61	沈み込んだ太平洋プレートは長さ1000kmの和達-ベニオフ帯をもち、10Maごろに切断されたと考えられる。それ以前には長く急傾斜のマリアナ型の和達-ベニオフ帯をもち、背弧海盆が形成された。17Maの台島期には湖沼堆積物、15Maの西黒沢期には浅海成、14~12Maの女川期には深海成の硬質頁岩が堆積した。千島弧の南下は15~12Maである。25Maから拡大した四国海盆には女川期まで玄武岩マグマの活動があり、西南日本がのし上げて地殻が融かされ、14Maに大規模な酸性火成活動が生じた。フィリピン海プレートの和達-ベニオフ面は600万年分に相当する。	河本	河本	なし	
630	地質	広域	日本列島, 飯田市兵越花崗岩	黒瀬川帯, 古領家, 兵越花崗岩, 南部北上帯, 早池峰構造帯	学会誌	永広昌之	2000	南部北上帯-早池峰構造帯と黒瀬川帯・“古領家帯”	地質学論集, 50, 53-64	南部北上帯-早池峰構造帯と黒瀬川帯はほぼ同一のテクトニックセッティングの近接した位置にあった。“古領家帯”を南部北上帯の延長と考えるのは困難である。	河本	狩野村松河本	なし	
631	地質	広域	西南日本	付加帯, 長門構造帯, 飛騨外縁帯, ナップ, ジュラ紀付加帯, 中央構造線	雑誌	小澤智生・平 朝彦・小林文夫	1985	西南日本の帯状地質構造はどのようにしてきたか	科学, 55, 4-13	日本の地史は揚子地塊の縁でのベルム紀後半の沈み込みで始まった。ジュラ紀の横ずれで中期地塊と「接するとともに長門構造帯や飛騨外縁帯の蛇紋岩メランジュが上昇した。ジュラ紀末に黒瀬川帯・南部北上帯の大陸地塊が衝突し、付加帯中に大衝上断層によるナップが形成された。続いてプレート運動が横ずれに変化し中央構造線の形成とジュラ紀付加帯の重複が生じた。新第三紀に日本海が拡大した。石英の動的再結晶では粒界移動と亜結晶回転が同時に起こっている。高温・低歪速度条件では亜結晶粒回転による核形成が支配的。組成変化をもたらす化学反応も関与する。変形の初期には浸透率の増大が剪断の局所化をもたらす。細粒物質では粒界すべりにより大きな塑性変形が得られる。	河本	河本	なし	
632	地質	広域	一般	マイロナイト, 結晶塑性変形, 動的再結晶	学会誌	清水以知子	1998	岩石における動的再結晶	地質学論集, 56, 1-12	石英の動的再結晶では粒界移動と亜結晶回転が同時に起こっている。高温・低歪速度条件では亜結晶粒回転による核形成が支配的。組成変化をもたらす化学反応も関与する。変形の初期には浸透率の増大が剪断の局所化をもたらす。細粒物質では粒界すべりにより大きな塑性変形が得られる。	河本	狩野村松河本	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
633	地質	広域	日本列島	飛騨外縁帯、南部北上帯、黒瀬川帯、棚倉構造線、中央構造線	学会誌	田沢純一	2000	飛騨外縁帯・南部北上帯・黒瀬川帯の古生界：対比と造構史	地質学論集, 50, 39-52	飛騨外縁帯・南部北上帯・黒瀬川帯の古生界は、層相と化石相が互いに類似する。3帯の構造は前期白亜紀の衝上運動と棚倉-中央構造線の1600kmの左横ずれ運動によって形成した。	河本	狩野村松、河本	なし	
634	地質	広域	西南日本	古地磁気、西南日本の回転、日本海の拡大	雑誌	鳥居雅之・林田明・乙藤洋一郎	1985	西南日本の回転と日本海の誕生	科学, 55, 47-52	西南日本は15Maの100万年間で47°回転した。日本海は発散境界であり西南日本東端の移動速度は60cm/年となり、現在の海嶺や縁海の拡大速度より1ヶタ大きい。西南日本に対する海洋プレートの収束ベクトルは、74~43Maには左横ずれ成分を持つ斜め沈み込みで、とくに53~43Maには45°以上斜交していた。43Ma以降は直交に近いものになった。	河本	河本	なし	
635	地質	広域	日本列島	太平洋底拡大のバルス、海嶺の沈み込み、対の変成作用、中央構造線、Fitch型横ずれ断層、日本海の拡大、フィリピン海の拡大	雑誌	上田誠也・都城秋穂	1973	プレート・テクトニクスと日本列島	科学, 43, 338-348	日本列島と北米を比較した。クラ-太平洋海嶺の沈み込みの30Ma前に三波川変成作用が起こり、沈み込みときに大規模火成作用が生じた。海嶺沈み込みによる張力で日本海が開いた。領家帯が三波川帯の押し上げたとする従来の中央構造線像は誤りであり、70~40MaにFitch型の大規模左横ずれ断層運動が生じた。太平洋プレートの40Maの方向変化がグリーンタフ変動を生じた。フィリピン海東縁と南縁の島弧は始新世に形成され、後に開裂したものである。	河本	河本	なし	
636	植物	南ア一部	仙丈ヶ岳	仙丈ヶ岳、流域、亜高山帯、植物群落、環境傾度	学術誌	大澤太郎	2000	南アルプス仙丈ヶ岳平右衛門谷流域の亜高山植生	伊那谷自然史論集, 1: 17-29, 2000		蛭間	蛭間		
637	植物	南ア一部	南部		雑誌	吉澤正道	1977	南アルプス南部におけるハイマツの分布とその生態	下伊那生物・陸水会誌, 17, 1977		蛭間	蛭間		
638	植物	広域			雑誌	伊藤文男	1985	伊那谷の生物・下伊那の天竜川流域の暖地植物と高山植物の宝庫南アルプス・蛇峠山と原始的なカワゲラのトワダカワゲラ・飯田市のシンボル風越山とベニマンサク・山林資源豊かな野底山と池の平の生息者モリアオガエル・花と紅葉が美しいハナノキ	下伊那生物会誌, 18, 1985		蛭間	蛭間		
639	植物	南ア一部	大鹿村	ニホンジカ・林業被害・大鹿村・植生変化	学術誌	小山泰弘・山内仁人・白石立	2004	長野県大鹿村におけるニホンジカによる森林植生の衰退	伊那谷自然史論集, 5: 49-54, 2004		蛭間	蛭間		
640	植物	南ア一部	大鹿村	絶滅危惧植物・トウヒ属・南限・保全	学術誌	勝木俊雄・逢沢峰昭・明石浩司・島田健一・島田和則	2005	長野県大鹿村におけるヤツガタケトウヒとヒメバラモミの現状-南限地の絶滅危惧植物-	伊那谷自然史論集, 6: 71-76, 2005		蛭間	蛭間		
641	植物	南ア一部	北部		雑誌	浅野一男	1970	赤石山脈北部の植生(予報)	下伊那生物会誌, 3, 1970		蛭間	蛭間		
642	植物	南ア一部	赤石岳		雑誌	吉澤正道	1975	赤石岳の植物	下伊那生物会誌, 8, 1975		蛭間	蛭間		

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
643	植物	南ア一部	聖岳		雑誌	古松隆明	1976	聖岳・伊那側を中心とした植物	下伊那生物・陸水 会誌 9: 1976		蛭間	蛭間		
644	植物	南ア一部			雑誌	古松隆明	1986	遠山谷の植物目録	下伊那生物会誌 19: 1986		蛭間	蛭間		
645	植物	南ア一部	戸台	土石流氾濫 源・微地形・ 礫径・カラマ ツ林・ドロノ キ林・戸台川	学術誌	明石浩司	2007	赤石山脈北西部、戸台川 上流域における土石流氾 濫原の微地形・堆積物と 森林植生	伊那谷自然史論 集 7: 33-78. 2007		蛭間	蛭間		
646	植物	南ア全域		森林植生	書籍	近田文弘 (編)	1979	南アルプスの森林植生			蛭間	蛭間		
647	植物	南ア全域		寒地植物	書籍	小泉秀夫・ 横内斎	1959	日本南アルプス寒地植物 誌(増補改訂版)			蛭間	蛭間		
648	植物	南ア全域			書籍	植松春雄	1967	南アルプスの植物			蛭間	蛭間		
649	植物	南ア全域			書籍	植田邦彦・ 藤井紀行	2000	高山植物のたどった道	工藤岳編著「高山 植物の自然史」 3-20pp, 北海道大 学図書刊行会、札幌		大塚			
650	植物	南ア全域		長野県、植物	書籍	清水建美編	1997	長野県植物誌			大塚	大塚		
651	植物	南ア全域		長野県、絶滅 危惧種、植物	書籍	長野県	2002	長野県版レッドデー タブック維管束植物編			大塚	大塚		
652	植物	南ア全域		南アルプス、 寒地植物	書籍	小泉秀雄	T 1 3	日本南アルプス寒地植物 誌		南アルプス特産の植物を列挙している	大塚	大塚		
653	植物	南ア一部	下伊那	下伊那	書籍	下伊那教育 会編	1973	下伊那の植物 中巻			大塚	大塚		
654	植物	南ア全域		長野県	書籍	長野県	1973	長野県の植生図			大塚	大塚		
655	植物	南ア全域		長野県、シダ 植物	書籍	大塚孝一	1987	長野県のシダ植物		ウロコノキシノブ、センジョウデンダ、トヨグチイノデ、ト ヨグチウラボシ等	大塚	大塚		
656	植物	南ア全域		長野県、植物	書籍	杉本順一	1966 完	長野県植物総目録	長野林友 連載ま とめ	植物目録	大塚	大塚		
657	植物	南ア一部	豊口山	イナデンダ	雑誌	杉本順一	1972	イナデンダ発見の思い出	日本シダの会会報 2: 7-8	新種、イナデンダ	大塚	大塚		
658	植物	南ア全域		ニホンカラマ ツ、天然分布	学術誌	浅田節夫	1973	ニホンカラマツの天然分 布域について	長野県植物研究会 6: 1-11	南アルプスを含むニホンカラマツ天然分布域の報告	大塚	大塚		
659	植物	南ア全域		ヤシャイノ デ、遠山川	学術誌	高橋秀男	1987	遠山川支流北又沢におけ るヤシャイノデの分布	長野県植物研究会 20: 125-128	ヤシャイノデの分布と個体数を明らかにした	大塚	大塚		
660	植物	南ア全域		青木川、植物 採集会	学術誌	伊藤文男	1988	青木川上流域の植物採集 会	長野県植物研究会 21: 63	大鹿村青木川上流域の植物採集会で観察した植物を列挙して ある	大塚	大塚		
661	植物	南ア全域		センジョウス ゲ・マンシュ ウクロカワス ゲ	学術誌	元島清人	1995	センジョウスゲ・マン シュウクロカワスゲの発 見	長野県植物研究会 28: 8	センジョウスゲ・マンシュウクロカワスゲの再発見	大塚	大塚		
662	植物	南ア全域		植物観察会	学術誌	井上健	1996	上村日影岩の植物観察会	長野県植物研究会 29: 56-57	上村日影岩の植物観察でのリスト	大塚	大塚		
663	植物	南ア全域		南アルプス、 高山植物、植 物目録	学術誌	横内文人	2003	日本南アルプスの高山植 物(1)	長野県植物研究会 36: 1-20	高山植物のリスト	大塚	大塚		
664	植物	南ア全域		南アルプス、 高山植物、植 物目録	学術誌	横内文人	2003	日本南アルプスの高山植 物(2)	長野県植物研究会 37: 51-72	高山植物のリスト	大塚	大塚		
665	植物	南ア全域		ウロコノキシ ノブ	学術誌	竹重聡	2003	ウロコノキシノブの自生 環境分布に応じた形状特 性	長野県植物研究会 36: 85-92	ウロコノキシノブの分布	大塚	大塚		

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
666	植物	南ア全域		センジョウデ ンダ、新産 地、大鹿村	学術誌	竹重聡・大 塚孝一・堤 久	2004	センジョウデ ンダ(オシ ダ科)の新産地	長野県植物研究会 37:39-43	大鹿村での新産地	大塚	大塚		
667	植物	南ア全域		エゾイチヤク ソウ、新産 地、伊那市	学術誌	上野勝典・ 上野由貴枝		新産地報告(4)	長野県植物研究会 40:233-236	エゾイチヤクソウの新産地	大塚	大塚		
668	植物	南ア全域		シダフロラ、 南アルプス	学術誌	中村武久	2007	北アルプスと南アルプ スのシダフロラ	長野県植物研究会 40:141-148	シダフロラの比較	大塚	大塚		
669	植物	南ア全域		シダフロラ、 南アルプス	雑誌	中村武久	1962	南アルプスのシダ植物		シダリスト	大塚	大塚		
670	植物	南ア全域		シダフロラ、 豊口山	雑誌	行方沼東	1954	南アルプス豊口山西南 面の羊歯	植物趣味15: 25-27	シダリスト	大塚	大塚		
671	植物	南ア全域		シダフロラ、 白岩岳	雑誌	前田睦夫	1960	信州白岩岳のシダ	日本シダの会会報 47:300	シダリスト	大塚	大塚		
672	植物	南ア全域		シダ	雑誌	志村義雄・ 杉野孝男	1968	信州遠山川の森林軌道 ぞいのシダ採集記	植物採集ニュース 3:70	シダリスト	大塚	大塚		
673	植物	南ア全域		植物	雑誌	植松春雄		南アルプス産植物目録 (1)~(23)	北陸の植物17-24 巻	植物リスト	大塚	大塚		
674	植物	南ア全域		植物	雑誌	植松春雄		日本産南アルプス維管 束フロラの解析的研究 (1)~(6)	北陸の植物24~26 巻		大塚	大塚		
675	植物	南ア全域		石灰岩地の植 物	学術誌	清水建美	1963	日本と台湾における石 灰岩地帯の植物群に関 する研究I	信州大学繊維学部 紀要A no11:1-105	石灰岩地植物のフロラ	大塚	大塚		
676	植物	南ア全域		石灰岩地の植 物、トダイハ ハコの記載	学術誌	清水建美	1963	日本と台湾における石 灰岩地帯の植物群に関 する研究II	信州大学繊維学部 紀要A no12:1-88	石灰岩地植物のフロラ	大塚	大塚		
677	植物	南ア一部	戸台	シライワシャ ジン	学術誌	山崎敬	1952	シライワシャジン	植物研究雑誌 27:199	新種記載	大塚	大塚		
678	植物	南ア一部	戸台と豊 口山	ヘラハタザオ (トダイハタ ザオ)とマン シュウクロカ ワスゲ	学術誌	清水建美	1992	ヘラハタザオとマンシュ ウクロカワスゲ	植物研究雑誌 67:313-314	満鮮要素、石灰岩地	大塚	大塚		
679	植物	南ア一部	豊口山	トヨグチイ ノデ	雑誌	倉田悟	1956	シダ類ノート9	北陸の植物5:77- 80	新種記載	大塚	大塚		
680	植物	南ア一部	豊口山	トヨグチウ ラボシ	雑誌	倉田悟	1956	シダ類ノート8	北陸の植物5:16- 18	新変種記載	大塚	大塚		
681	植物	南ア一部	豊口山	イナデンダ	雑誌	田川基二	1934	Occasional note on Asiatic pteridophytes	植物分類・地理 3:90	新種記載	大塚	大塚		
682	植物	南ア一部	仙丈岳	センジョウ デ ンダ	雑誌	田川基二	1956	Occasional note on Asiatic pteridophytes 6	植物分類・地理 16:71-78	新変種記載	大塚	大塚		
683	植物	南ア一部	遠山谷	ヤシャイ ノ デ	雑誌	倉田悟	1956	シダ類ノート:ヤシャ イノデ	北陸の植物5:3		大塚	大塚		
684	植物	南ア一部	大鹿	ウロコノキ シノブ日本 発記録	雑誌	倉田悟	1965	日本産ノキシノブ属	横須賀市立博物館 研究報告11:20-41	新産地報告	大塚	大塚		
685	植物	南ア一部	北遠地方	高山植物群 落	雑誌	杉本順一	1975	南アルプスの高山植物 群落の南限が見つかる	植物採集ニュース 81:86	高山植物群落の南限	大塚	大塚		
686	植物	南ア一部	戸台	キタノミヤ マシダの新 産地	雑誌	倉田悟	1973	キタノミヤマシダのこ となど	日本シダの会会報 2(14):1-2	新産地報告	大塚	大塚		

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分 類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
687	昆虫	南ア一部	戸台から 仙丈ヶ岳	垂直分布, ゴ ミムシ, 仙 丈ヶ岳	雑誌	Suttiprapan P., S. Yamamoto and H. Nakamura	2006	Species composition and the vertical niche breadth of ground beetles (Carabidae, Brachinidae) in the Southern Japan Alps	Jpn. J. Environ. Entomol. Zool. 17: 143- 152. 2006.	南アルプス仙丈ヶ岳でのゴミムシの垂直分布とニッチ解析, 採集記録あり	中村			
688	昆虫	広域		長野県, レッ ドリフト	書籍	長野県生物 多様性研究 会	2004	長野県版レッドデー タブック 動物編			中村			
689	昆虫	南ア全域		ナガゴミムシ	雑誌	MORITA, S	1998	A New Pterostichus (Coleoptera, Carabidae) from the Southern Japanese Alps	Elytra 26 (2): 297-302.	ナガゴミムシの新種記載	中村			
690	昆虫	南ア一部	仙丈	オサムシ類	雑誌	Martin, S. J	1992	Seasonal and altitudinal distribution of ground beetles (Coleoptera) in the Southern Alps of Japan	Jpn. J. Ent., 60(1) :26-38.	仙丈ヶ岳の地表性甲虫類の垂直分布	中村	中村		
691	昆虫	南ア一部	仙丈	地表性歩行昆 虫	雑誌	Martin, S. J	1987	Studies on the fauna and species diversity of the ground beetles with special reference to environmental indicator in the Southern Alps of Japan	Msc. Thesis, Shinshu Univ. Japan.	南アルプスの地表性甲虫類 (信州大学農学部修士論文)	中村	中村		
692	昆虫	南ア一部	仙丈	シテムシ	雑誌	Martin, S. J	1989	Altitudinal distribution of burying beetles (Coleoptera, Silphidae) in the Southern Alps of Japan	Jpn. J. Ent., 57: 876-879.	仙丈ヶ岳のシテムシ類の垂直分布	中村			
693	昆虫	南ア一部	仙丈・北 岳	チョウ類群集	学術誌	有本実・中 村	2007	南アルプス北岳と仙丈ヶ 岳周辺のチョウ類群集の 定量的調査	日本環境動物昆 虫学会誌 18(1): 1-15.	南アルプス北岳と仙丈ヶ岳周辺のチョウ類群集をトランセク トと定点調査で定量的に調査	中村			
694	昆虫	南ア一部	仙丈・北 岳	チョウ類群集	修論・ 卒論	有本実	2004	南アルプスにおけるチョ ウ類群集を用いた環境評 価に関する研究	信州大学農学研 究科修士論文	南アルプスのチョウ類群集をトランセクトと定点調査で定 量的に調査する手法とそれを基にした環境評価手法	中村			
695	昆虫	南ア一部	仙丈・塩 見	地表性歩行昆 虫	修論・ 卒論	山本昌子	2002	南アルプスにおける地表 性昆虫の垂直分布	信州大学農学部 卒業論文		中村			
696	昆虫	南ア全域		ベニヒカゲ	雑誌	高橋真弓	1963	赤石山脈におけるベニヒ カゲ属 <i>Erebia</i> の分布	蝶と蛾 14: 60- 69.		中村			
697	昆虫	南ア全域		チョウ相	報告書	高橋真弓	1975	南アルプスの蝶相とその 成り立ち	南アルプス・奥大 井学術調査報告書 (静岡県自然保護 協会): 10-20.		中村			
698	昆虫	南ア全域		ツジヒゲナガ コバネカミキ リ	雑誌	池田清彦	2001	本州中部産ヒゲナガコバ ネカミキリ族の新属新種	月刊むし(364): 2-4. むし社	新種記載: ツジヒゲナガコバネカミキリ	中村			
699	昆虫	南ア全域		ゴミムシ	雑誌	Habu, A.	1978	Fauna Japonica, Carabidae: Platynini	Keigaku Pub. Co., Tokyo. VII+447 pp., 36pls.	ヒラタゴミムシ類の記載, 希少種ヒラノアカヒラタゴミムシ	中村			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
700	昆虫	広域		オサムシ図鑑	書籍	上野俊一・ 黒澤良彦・ 佐藤正孝 (編)	1985	原色日本昆虫図鑑(Ⅱ)	保育社, 大阪. Xxiv+64pls.+305p	オサムシ科図鑑, 希少種ヒラノアカヒラタゴミムシ	中村			
701	昆虫	南ア一部	長谷	ゴミムシ	雑誌	MORITA, S	2001	A New Trichotichnus (Coleoptera, Carabidae) from the Southern Japanese Alps	Elytra 26(2): 477-480.	新種記載: ハセツヤゴモクムシ	中村			
702	昆虫	南ア全域		ゴミムシ	雑誌	MORITA, S	1997	The group of Trichotichnus leptopus (Coleoptera, Carabidae) of Japan	Elytra 25(2): 521-585.	リュウトウツヤゴモクムシ, アシグロツヤゴミムシ	中村			
703	昆虫	広域		チョウ図鑑	書籍	福田晴夫他	1984	原色日本蝶類生態図鑑 (Ⅲ)	保育社, 大阪. Xxii+373pp.	タカネキマダラセセリ	中村			
704	昆虫	広域		希少種のチョウ	雑誌	浜栄一・石 井実・柴谷 篤弘(編)	1989	日本産蝶類の衰亡と保護 第1集	日本鱗翅学会. X+15pls.+145pp.	タカネキマダラセセリ	中村			
705	昆虫	広域		チョウの図鑑	書籍	信州昆虫学 会(監修)	1999	長野県産チョウ類動態図 鑑	文一総合出版. 東京, 291pp.	タカネキマダラセセリ	中村			
706	昆虫	広域		チョウの図鑑	書籍	福田晴夫他	1982	原色日本蝶類生態図鑑 (Ⅰ)	保育社, 大阪. xxii+277pp.	クモマツマキチョウ	中村			
707	昆虫	南ア全域		オサムシ	雑誌	Ishikawa, R.	1992	Taxonomic studies on Leptocarabus (Adelocarabus) arboreus (Lewis) (Coleoptera, Carabidae)	TMU Bul. Nat. Hist. 1: 1-40, pls. 1-3.	サンブククロナガオサムシ	中村			
708	昆虫	南ア全域		オサムシ	雑誌	Ishikawa, R.	1986	Taxonomic studies on Leptocarabus hamandi (Coleoptera, Carabidae)	Trans. Shikoku Ent. Soc. 17(4): 221-238.	アカイシホソヒメクロオサムシ	中村			
709	昆虫	南ア全域		ゴミムシ	雑誌	Tanaka, K., Morita, S. & Suga, K.	1987	Studies on the genus Pterostichus from Japan(VIII). (Coleoptera, Carabidae)	Ent. Rev. Japan 42(2): 99-102, 3pls.	マシモトオオナガゴミムシ	中村			
710	昆虫	広域		蛾類, 高山 蛾, シャクガ 科	雑誌	神保一義	1987	日本産高山性シャクガ科 の国内分布について	Tinea, Supplement, 12: 220-225.	赤石山脈での山名での記録(データなし)	四方			
711	昆虫	広域		蛾類, 高山 蛾, ハマキガ 科	雑誌	A t s u s h i K a w a b e	1965	On the Japanese species of the genus Clepsia HB. (Lepidoptera, Tortri cidae)	Koncyu, 34: 459- 465.	高山性ハマキガを含むClepsia属のまとめ, 新種記載あり, 南 アルプスでのデータを含む	四方			コピー
712	昆虫	南ア一部	塩見岳	蛾類, 蝶類, 甲虫類	雑誌	村井吉敬 (蝶), 永 野忠 (蛾), 山 内弘一(甲 虫)	1964	南ア塩見岳の動植物調査 報告-1963年度合宿によ る-(うち, IV塩見岳周 辺の蝶, V塩見岳の蛾, VI塩見岳周辺の甲虫)	早稲田生物, 12, 早稲田大学生物同 好会.	塩見岳周辺での採集データ	四方			コピー
713	昆虫	南ア一部	甲斐駒ヶ 岳	蛾類, 高山 蛾, 甲斐駒ヶ 岳	雑誌	飯塚新真・ 池ノ上利幸	1987	南アルプス甲斐駒ヶ岳の 蛾	誘蛾灯, 108, 47- 49.	甲斐駒ヶ岳での蛾類の採集データ	四方			
714	昆虫	広域		蛾類, 高山 蛾, ハマキガ 科	雑誌	神保一義	1999	故川辺湛さんのコレク ションによる高山のハマ キガ類(ⅠⅠ)	蛾類通信, 204: 63-68.	南アルプスのデータ含む	四方			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分 類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
715	昆虫	広域		蛾類, 高山 蛾, ハマキガ 科	雑誌	川辺滙	1974	日本未記録のヒメハマキ ガ6種	蛾類通信, 80 : 334-336.	南アルプスのデータ含む	四方			
716	昆虫	広域		高山蛾	雑誌	神保一義	1972	南アルプス南部の蛾	早稲田生物17 : 72-85	?	四方			未見
717	昆虫	広域		高山蛾	書籍	神保一義	1984	高山蛾	築地書館		四方			
718	昆虫	南ア一部	仙丈・甲 斐駒	高山蛾	雑誌	高橋隆一	1969	仙丈, 甲斐駒, 南アルプ スの蛾	早稲田蛾報, 1 : 25-26.		四方			未見
719	昆虫	南ア一部	北岳	高山蛾	雑誌	石塚一義	1959	北岳の蛾	早稲田生物, 5 : 17-21		四方			未見
720	昆虫	南ア一部	北岳	高山蛾	雑誌	神保一義	1963	北岳の珍しい高山蛾につ いて	早稲田生物, 10 : 47-48.		四方			未見
721	昆虫	南ア全域		高山蛾	雑誌	神保一義	1965	南アルプスの蛾-高山蛾 と稀種について-	早稲田生物, 13 : 90-92		四方			未見
722	昆虫	南ア一部	仙丈ヶ岳	高山蛾	雑誌	永野忠	1965	仙丈岳の蛾	早稲田生物, 13 : 85-90.		四方			未見
723	昆虫	南ア一部	仙丈ヶ岳	高山蛾	雑誌	佐久間俊昭	1962	仙丈岳付近の蛾	早稲田生物, 8 : 41-51.		四方			未見
724	昆虫	南ア一部	北岳	高山蛾	雑誌	佐久間俊昭	1963	北岳周辺の蛾	早稲田生物, 10 : 36-46.		四方			未見
725	昆虫	南ア一部	仙丈ヶ岳	高山蛾	雑誌	小林陽一	1974	仙丈岳の蛾1970' の記録	早稲田生物, 4 : 8-9.		四方			未見
726	昆虫	南ア一部	仙丈ヶ岳	高山蛾	雑誌	宮下哲夫	1974	仙丈岳の蛾1968' の記録	早稲田生物, 4 : 10-15.		四方			未見
727	昆虫	南ア一部	入笠山周 辺	甲虫類, ハネ カクシ科	雑誌	降旗剛寛	2007	長野県ハネカクシ資料 若干 (IV)	まつむし96 : 43- 48.	南アルプスのデータ含む	四方			
728	昆虫	南ア一部	三峰川	甲虫類, ソウ ムシ科	雑誌	川瀬英夫	2007	キタノミゾウムシをコゴ メヤナギで採集	まつむし96 : 42.	三峰川での採集記録	四方			
729	昆虫	広域		蛾類, ヤガ科	雑誌	四方圭一郎	2006	分布拡大中? ツキワク チバ, オオトウウスグロ クチバの記録	まつむし95 : 37	鳥倉林道, 入笠山での採集記録	四方			
730	昆虫	南ア一部	鳥倉林道	甲虫類, ゲン ゴロウ科	雑誌	四方圭一 郎・長谷川 大・宇野彰	2006	1600mの山地帯でゲンゴ ロウを採集	まつむし95 : 38	鳥倉林道	四方			
731	昆虫	南ア一部	上村しら びそ高原	甲虫類, ハネ カクシ科	雑誌	降旗剛寛	2006	長野県ハネカクシ資料 若干 (III)	まつむし95 : 39- 43.	南アルプスのデータ含む	四方			
732	昆虫	南ア一部	大鹿村, 中川村	ハエ類, ニク バエ科	雑誌	古田治	2006	長野県大鹿村・中川村周 辺のニクバエ科の記録	まつむし95 : 44- 45.	南アルプスのデータ含む	四方			
733	昆虫	南ア一部	上村下栗	ゴキブリ類,	雑誌	降旗剛寛	2005	モリチャバネゴキブリを 採集	まつむし94 : 44.	下栗での採集記録	四方			
734	昆虫	南ア一部	茅野市杖 突峠	蛾類, シヤク ガ科	雑誌	雛倉正人	2005	タケウチエダシヤクを茅 野市杖突峠で採集	まつむし94 : 46.	杖突峠での採集記録	四方			
735	昆虫	南ア一部	大鹿村鹿 塩	蛾類, ヤガ科	雑誌	四方圭一郎	2004	大鹿村でナマリキシタバ を採集	まつむし93 : 15	大鹿村鹿塩での採集記録	四方			
736	昆虫	南ア一部	上村下栗	甲虫類, カミ キリムシ科	雑誌	白鳥一樹, 松井正通	2004	セダカコブヤハズカミキ リの上村からの記録	まつむし93 : 19.	下栗での採集記録	四方			
737	昆虫	南ア一部	鳥倉林道	甲虫類, カミ キリムシ科	雑誌	下山良平	2004	上翅の黒紋が消失したタ ニグチコブヤハズカミキ リについて		鳥倉林道での採集記録	四方			
738	昆虫	広域		甲虫類	雑誌	石川豊	2003	長野県産甲虫類の分布記 録 (1)	まつむし92 : 40- 45.	大鹿村, 上村などのデータ含む	四方			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分 類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
739	昆虫	広域		蛾類, ヤガ科	雑誌	四方圭一 郎・井原道 夫	2001	長野県中南部域を中心と した秋から春に出現する キリガ類(ヨトウガ亜 科・セダカモクメ亜科) の記録	まつむし91:1- 15.	南アルプスのデータ含む	四方			
740	昆虫	南ア一部	北沢峠	甲虫類, キノ コダマシ科	雑誌	石川豊	2001	ゴマダラキノコムシダマ シ長野県の記録(鞘翅 目, キノコムシダマシ 科)	まつむし91: 102.	北沢峠での採集記録	四方			
741	昆虫	南ア一部	大鹿村	甲虫類, デバ ヒラタムシ科	雑誌	宮澤豊・吉 沢尚広	2001	長野県で採集したデバヒ ラタムシ(鞘翅目, デバ ヒラタムシ科)	まつむし91: 103.	小渋湯での採集記録	四方			
742	昆虫	南ア一部	大鹿村	甲虫類, オサ ムシ科	雑誌	早川広文・ 浜正彦	2001	キノナガゴミムシ(その 1)(鞘翅目, オサムシ 科)		松除橋での採集記録	四方			
743	昆虫	南ア一部	上村, 南 信濃村	甲虫類, カミ キリムシ科	雑誌	四方圭一郎	2000	長野県南部におけるセダ カコフヤハズカミキリの 採集記録	まつむし90:51.	青崩峠, 程野御池	四方			
744	昆虫	南ア一部	長谷村	甲虫類, カミ キリムシ科	雑誌	四方圭一郎	2000	長野県内で記録が少ない と思われるカミキリムシ 類		長谷村戸台川でのタテジマカミキリの採集記録	四方			
745	昆虫	広域		甲虫類, ハン ミョウ科	雑誌	宮澤豊	2000	信州産甲虫類の分布資料 1	まつむし90:53- 55.	南アルプスのデータ含む	四方			
746	昆虫	南ア一部	長谷村戸 台	甲虫類, ハネ カクシ科	雑誌	穂積俊文	1999	長野県の甲虫類の記録 (4)	まつむし89:1-6	戸台のデータを含む	四方			
747	昆虫	広域		半翅類,	雑誌	井原道夫・ 降旗剛寛	1999	長野県同翅目・カメム シ目の記録断片	まつむし89:7- 11.	南アルプスのデータ含む	四方			
748	昆虫	南ア一部	長谷村戸 台	甲虫類, ハム シ科	雑誌	穂積俊文	1997	長野県の甲虫類の記録 (3)	まつむし88:1-10	戸台のデータを含む	四方			
749	昆虫	広域		甲虫類, オサ ムシ科	雑誌	早川広文	1996	長野県のゴミムシ 第1 報	まつむし87:1- 59.	南アルプスのデータ含む	四方			
750	昆虫	南ア一部	長谷村戸 台	甲虫類, ゾウ ムシ科	雑誌	穂積俊文	1995	長野県の甲虫類の記録 (2) <ゾウムシ上科>	まつむし86:15- 27.	戸台のデータを含む	四方			
751	昆虫	広域		甲虫類, ゾウ ムシ科	雑誌	降旗剛寛・ 降旗進一 郎・吉沢尚 広	1994	長野県のゾウムシ 第1 報	まつむし85:1- 38.	南アルプスのデータ含む	四方			
752	昆虫	広域		甲虫類, オサ ムシ科	雑誌	穂積俊文	1994	長野県の甲虫類の記録 (1) <オサムシ上科>	まつむし84:1- 11.	南アルプスのデータ含む	四方			
753	昆虫	広域		甲虫類, オサ ムシ科	雑誌	早川広文	1993	長野県のゴミムシ 第1 報	まつむし83:1- 23.	南アルプスのデータ含む	四方			
754	昆虫	広域		甲虫類, カミ キリムシ科	雑誌	早川広文・ 降旗剛寛	1993	長野県のカミキリムシ その後	まつむし83:27- 34.	南アルプスのデータ含む	四方			
755	昆虫	広域		甲虫類, タマ ムシ科	雑誌	降旗剛寛	1992	長野県のタマムシの記録	まつむし82:1- 4.	南アルプスのデータ含む	四方			
756	昆虫	広域		甲虫類, ハン ミョウ科	雑誌	嵯峨裕之	1991	飯伊地方におけるハン ミョウ類の記録	まつむし81:18	上村しらびその記録紹介	四方			
757	昆虫	広域		甲虫類, コメ ツキムシ科	雑誌	有本久之	1988	長野県のコメツキムシ	まつむし77:1- 35.	戸台のデータを含む	四方			
758	昆虫	広域		甲虫類オオキ ノコムシ科	雑誌	石川豊	1988	長野県産オオキノコムシ 科甲虫の採集記録	まつむし75:27- 31.	南アルプスのデータ含む	四方			
759	昆虫	南ア一部	入笠山	蝶類, タデハ チョウ科	雑誌	北條篤史	1988	入笠山のオオウラギン ヒョウモン	まつむし75:34	入笠山での採集記録	四方			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
760	昆虫	広域		甲虫類, ナガクチキムシ科	雑誌	石川豊・豊嶋亮司	1987	長野県のナガクチキムシ(I I)	まつむし74: 1-15.	南アルプスのデータ含む	四方			
761	昆虫	南ア一部	戸台	蝶類	雑誌	乙部宏	1987	灯火にきた蝶	まつむし74: 42-43.	戸台での記録	四方			
762	昆虫	南ア一部	長谷村小瀬戸	甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	松井幸一・降旗進一郎	1985	クロサワヘリグロハナカミキリを長谷村で採集	まつむし71: 38.	小瀬戸での採集記録	四方			
763	昆虫	南ア一部	北岳	蝶類, シジミチョウ科	雑誌	井原道夫	1985	北岳山頂のムモンアカシジミ	まつむし70: 16	北岳山頂での観察記録	四方			
764	昆虫	広域		半翅類	雑誌	降旗剛寛・井原道夫	1985	主として松本地方と下伊那地方の半翅目昆虫	まつむし70: 18-22.	上村しらびそのデータ含む	四方			
765	昆虫	広域		甲虫類, ハンミョウ科	雑誌	小林靖彦・降旗剛寛	1985	長野県のハンミョウ科の記録	まつむし70: 23-25.	南アルプスのデータ含む	四方			
766	昆虫	南ア一部	戸台	蝶類, セセリチョウ科	雑誌	白鳥一樹	1984	キバネセセリの観察報告一産卵と越冬前の幼虫の生態一	まつむし69: 23-30.	戸台での観察記録	四方			
767	昆虫	広域		甲虫類, クワガタムシ科	雑誌	平沢伴明・秋田勝己・石川豊	1984	長野県産のクワガタムシ科目録	まつむし69: 31-34.	南アルプスのデータ含む	四方			
768	昆虫	広域		甲虫類, コメツキムシ科	雑誌	宮沢豊・鈴木互	1984	長野県下伊那で採集したコメツキムシ	まつむし68: 13-16.	南アルプスのデータ含む	四方			
769	昆虫	広域		甲虫類, ヒゲナガゾウムシ科	雑誌	宮沢豊	1984	長野県下伊那で採集したヒゲナガゾウムシ	まつむし68: 17.	南アルプスのデータ含む	四方			
770	昆虫	広域		蝶類, セセリチョウ科	雑誌	白鳥一樹	1983	キバネセセリ幼虫の越冬観察報告	まつむし67: 1-4.	戸台での観察記録	四方			
771	昆虫	広域		甲虫類, コガネムシ科	雑誌	木内信	1982	長野県の食糞性コガネムシ類	まつむし66: 1-14.	南アルプスのデータ含む	四方			
772	昆虫	広域		甲虫類, ハネカクシ科	雑誌	降旗剛寛	1982	長野県のハネカクシ資料若干	まつむし66: 15-20.	入笠山での採集記録を含む	四方			
773	昆虫	広域		甲虫類, コガネムシ科	雑誌	平沢伴明	1981	長野県の食葉コガネの記録	まつむし64: 1-21.	南アルプスのデータ含む	四方			
774	昆虫	広域		甲虫類, ナガクチキムシ科	雑誌	石川豊	1980	長野県のナガクチキムシ	まつむし62: 1-6.	南アルプスのデータ含む	四方			
775	昆虫	広域		甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	小島治好・早川広文	1979	伊那谷で採集したカミキリムシ	まつむし60: 14-16.	南アルプスのデータ含む	四方			
776	昆虫	広域		半翅類	雑誌	降旗剛寛	1978	主として松本市付近の半翅目昆虫	まつむし57: 1-16.	南アルプスのデータ含む	四方			
777	昆虫	南ア一部		甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	白鳥一樹	1975	大鹿村でセダコブヤハズカミキリ採集	まつむし51: 18.	塩川小屋付近での採集記録	四方			
778	昆虫	広域		甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	白鳥一樹	1973	長野県上伊那郡のカミキリ報告(I I)	まつむし44: 1-15.	南アルプス(長谷村)のデータ含む	四方			
779	昆虫	広域		甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	白鳥一樹	1972	長野県上伊那郡のカミキリ報告(I)	まつむし43: 5-11.	南アルプス(長谷村)のデータ含む	四方			
780	昆虫	広域		蝶類	雑誌	北條篤史	1972	諏訪盆地周辺の蝶類分布調査	まつむし42: 31-35.	杖突峠, 入笠山のデータ含む	四方			
781	昆虫	広域		蝶類	雑誌	白鳥一樹	1971	上伊那地方に於ける蝶の報告	まつむし41: 5-8.	南アルプス(長谷村)のデータ含む	四方			
782	昆虫	南ア一部		甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	早川広文	1971	下伊那郡南信濃村・上村のカミキリ調査及び小比賀正敬博士より戴いた記録	まつむし41: 21-23.	南アルプスのデータ含む	四方			
783	昆虫	広域		蝶類	雑誌	清沢晴親・浜栄一・降旗剛寛	1971	長野県とその北部隣接地域のアサマシジミについて	まつむし40: 1-28.	長谷村戸台のデータ含む	四方			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
784	昆虫	広域		甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	白鳥一樹	1970	伊那谷東部の天牛採集報告	まつむし37: 5-9.	長谷村戸台のデータ含む	四方			
785	昆虫	広域		甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	白鳥一樹	1969	伊那市付近のカミキリムシ	まつむし34: 2-6.	長谷村のデータ含む	四方			
786	昆虫	南ア一部		甲虫類	雑誌	坂上正弘	1969	戸台の甲虫4種について	まつむし34: 14.	戸台での採集記録	四方			
787	昆虫	南ア一部			雑誌	白鳥一樹ほか	1969	戸台採集会報告	まつむし34: 25-33.	戸台での採集会の報告, 採集目録あり	四方			
788	昆虫	広域		甲虫類, コメツキムシ科	学術誌	大平仁夫	2002	長野県大鹿村と上村のコメツキムシ若干種について	伊那谷自然史論集3: 89-92.	南アルプスのデータ含む	四方			
789	昆虫	広域		直翅類,	学術誌	小林正明	2003	伊那谷でのヒメヒゲナガヒナバタの採集記録	伊那谷自然史論集4: 70	長谷村での記録	四方			
790	昆虫	広域		蝶類, シロチョウ科	学術誌	井原道夫	2008	クロカンバを食べるスジボソヤマキチョウ	伊那谷自然史論集9: 64.	長谷村での記録	四方			
791	昆虫	南ア一部		甲虫類	学術誌	多比良嘉晃	1995	南アルプスの山小屋で採集した甲虫類	自然研究年報1: 23-24	静岡市二軒小屋での採集記録	四方			
792	昆虫	南ア全域		蛾類, 高山蛾	図録	枝恵太郎	2000	南アルプスの高山蛾	特別展解説書「チョウとガの魅力」: 68-73.	南アルプスでの高山蛾分布のまとめ	四方			
793	昆虫	南ア一部		蝶類, ジャノメチョウ科	雑誌	白井和伸	2000	静岡県西部地方のウラジャノメについて	駿河の昆虫190: 5333-5334.	南アルプス南部でのウラジャノメの記録	四方			
794	昆虫	南ア一部		半翅目, セミ科	雑誌	白井和伸	2000	南アルプス稜線でツクツクボウシの声を聞く	駿河の昆虫190: 5334.	イザルガ岳での記録	四方			
795	昆虫	南ア一部		蝶類, ジャノメチョウ科	雑誌	天野市郎	2000	静岡県蕎麦粒山でウラジャノメを採集	駿河の昆虫190: 5347.	採集記録	四方			
796	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	高橋真弓	2000	梅ヶ島地蔵峠7月上旬の蝶類(サツマジジミなどの記録)	駿河の昆虫190: 5347.	採集記録	四方			
797	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	高橋真弓	2000	大井川上流におけるシジミチョウ類7種の採集記録	駿河の昆虫190: 5348.	採集記録	四方			
798	昆虫	南ア一部		甲虫, 水生甲虫	雑誌	平井克男	2000	安倍峠の水生甲虫の記録	駿河の昆虫190: 5352.	採集記録	四方			
799	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	高橋真弓	2000	大井川水源地方蝶類分布調査報告(第24報)	駿河の昆虫191: 5360-5361.		四方			
800	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	白井和伸	2000	天竜川支流遠山川の蝶(2000年の記録)	駿河の昆虫191: 5362-5363.		四方			
801	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	白井和伸	2000	水窪町のメスアカミドリシジミ2例	駿河の昆虫191: 5372.		四方			
802	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	諏訪哲夫	2000	中川根町大札山周辺7月上旬の蝶	駿河の昆虫191: 5373.		四方			
803	昆虫	南ア一部		甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	平井克男	2001	静岡市井川峠のフタコブルリハナカミキリ	駿河の昆虫193: 5426.		四方			
804	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2001	南アルプス蝶類調査記録(1992年)	駿河の昆虫194: 5431-5434.		四方			
805	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	山下健	2001	寸又川上流フジミドリなどの記録	駿河の昆虫194: 5441.		四方			
806	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	山下健	2001	南赤石林道における蝶類数種の記録	駿河の昆虫194: 5441.		四方			
807	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	山下健	2001	寸又川上流柴沢~光岳の蝶類数種の記録	駿河の昆虫194: 5442.		四方			
808	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2001	南アルプスの蝶(1993年)	駿河の昆虫195: 5449-5452.		四方			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
809	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	白井和伸	2001	龍山村でスギタニルリシジミを採集	駿河の昆虫195 : 5453.		四方			
810	昆虫	広域		蝶類	雑誌	北條篤史	2001	2001年静岡市周辺におけるスギタニルリシジミの分布調査	駿河の昆虫195 : 5455.		四方			
811	昆虫	広域		蝶類	雑誌	北條篤史	2001	2001年静岡市周辺におけるミスジチョウの分布調査	駿河の昆虫195 : 5456.		四方			
812	昆虫	広域		蝶類	雑誌	北條篤史	2001	2001年静岡市におけるオオミスジの分布調査	駿河の昆虫195 : 5457.		四方			
813	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	諏訪哲夫	2001	南アルプスの渓谷、奈良田にもナガサキアゲハが飛ぶ	駿河の昆虫195 : 5458.		四方			
814	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	諏訪哲夫	2001	中川根町など7月下旬の蝶	駿河の昆虫195 : 5459-5460.		四方			
815	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	諏訪哲夫・高橋真弓	2001	中川根町沓町河内でスギタニルリシジミ	駿河の昆虫195 : 5460.		四方			
816	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	北條篤史	2001	静岡市梅ヶ島新田でラミーカミキリを採集	駿河の昆虫195 : 5469.		四方			
817	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	平井克男	2001	中川根町水川でオオミスジを採集	駿河の昆虫195 : 5469.		四方			
818	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	諏訪哲夫・北條篤史	2002	大無間山のベニヒカゲ	駿河の昆虫197 : 5497-5498.		四方			
819	昆虫	広域		蝶類	雑誌	白井和伸	2002	天竜川中・下流域のコムラサキについて	駿河の昆虫197 : 5499-5509.		四方			
820	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	山下健	2002	中川根町でウスイロコノマチョウ	駿河の昆虫197 : 5520.		四方			
821	昆虫	南ア一部		蛾類	雑誌	山下健	2002	本川根町と中かワン町でウスバツバメガ	駿河の昆虫197 : 5521.		四方			
822	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	山下健	2002	寸又川支流大間川の4月の蝶	駿河の昆虫197 : 5521.		四方			
823	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	山下健	2002	本川根町寸又左岸林道の蝶	駿河の昆虫197 : 5521.		四方			以下本川根、中川根の低地と思われる記録は記載しない(数が多すぎるため)
824	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	白井和伸	2002	1994年度南アルプスの蝶類調査記録	駿河の昆虫199 : 5555-5558.		四方			
825	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2002	南アルプスの蝶類調査記録(1995年)	駿河の昆虫200 : 5581-5587.		四方			
826	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	高橋真弓	2002	2002年静岡市安倍川上流のオオミスジ	駿河の昆虫200 : 5598.		四方			
827	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	竹内克弥	2002	中川根町山犬段でウラキンシジミを採集	駿河の昆虫200 : 5604.		四方			
828	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2003	南アルプス蝶類調査記録(1996年)	駿河の昆虫201 : 5618-5620.		四方			
829	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2003	南アルプスの蝶類調査記録(1998年)	駿河の昆虫202 : 5641-5644.		四方			
830	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	増田尚道	2003	井川峠ミドリシジミ類の記録	駿河の昆虫202 : 5645.		四方			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
831	昆虫	南ア一部		蛾類	雑誌	杉本可能・ 枝恵太郎	2003	南アルプス二軒小屋の蛾類(1992年~1996年)	駿河の昆虫203 : 5651-5663.		四方			
832	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	北條篤史	2003	南アルプス策ヶ岳の蝶類分布調査	駿河の昆虫204 : 5679-5680.		四方			
833	昆虫	南ア一部		甲虫類	雑誌	平井克男	2003	安倍峠のムナミゾハナカミキリ	駿河の昆虫204 : 5699		四方			
834	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	白井和伸	2004	水窪町兵越峠周辺で採集した蝶数種の記録	駿河の昆虫205 : 5712-5713.		四方			
835	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	白井和伸	2004	水窪町で採卵したミドリシジミ類4種の記録	駿河の昆虫205 : 5727.		四方			
836	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	高橋真弓	2004	安倍川流域におけるミヤマシジミの衰亡と現存標本	駿河の昆虫206 : 5741-5746.		四方			
837	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	天野市郎	2004	静岡市畑薙湖付近3月の蝶類	駿河の昆虫206 : 5754		四方			
838	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	三薺啓理	2004	山梨県南部町でクモマツマキチョウを撮影	駿河の昆虫206 : 5755-5756.		四方			
839	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2004	南アルプスの蝶類調査記録(1999年)	駿河の昆虫207 : 5759-5766.		四方			
840	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	諏訪哲夫	2004	寸又峡の6月の蝶	駿河の昆虫207 : 5771.		四方			
841	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	小串誠	2004	静岡県榛原郡本川根町でミヤマカラスシジミを採集	駿河の昆虫208 : 5801.		四方			
842	昆虫	広域		蝶類	雑誌	白井和伸	2005	長野県南部におけるミドリシジミ類の採卵記録	駿河の昆虫209 : 5814-5818.	南アルプスでのデータを含む	四方			
843	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	西原幸雄	2005	中川根町のミヤマシジミの記録	駿河の昆虫209 : 5822.		四方			
844	昆虫	南ア全域		甲虫類	雑誌	平井克男	2005	シウムネマルドロムシの記録	駿河の昆虫209 : 5826.		四方			
845	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	天野市郎	2005	2004年秋季の静岡市安倍川筋のミヤマシジミ生息状況資料	駿河の昆虫210 : 5840-5841		四方			
846	昆虫	南ア一部		甲虫類	雑誌	平井克男	2005	2003年静岡のダルマガムシ科甲虫類の記録	駿河の昆虫210 : 5842.		四方			
847	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	天野市郎	2005	山梨県甘利山のヤマ・サトキマダラヒカゲ	駿河の昆虫210 : 5846		四方			
848	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2005	南アルプスの蝶類調査記録(2000年)	駿河の昆虫211 : 5851-5860.		四方			
849	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	中村計夫・ 池田勝義	2005	静岡市代田でクモマツマキチョウを採集	駿河の昆虫211 : 5860-5861.		四方			
850	昆虫	南ア一部		蛾類	雑誌	下山健	2005	寸又左岸林道でカバシヤクを採集	駿河の昆虫211 : 5869.		四方			
851	昆虫	南ア一部		蛾類	雑誌	下山健	2005	本川根町細尾でフジキオビを目撃	駿河の昆虫211 : 5869		四方			
852	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	下山健	2005	本川根町寸又左岸林道でオウラギンスジヒョウモンを採集	駿河の昆虫211 : 5870		四方			
853	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	下山健	2005	本川根町寸又左岸林道でウラキンシジミを採集	駿河の昆虫211 : 5871		四方			
854	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2005	南アルプスの蝶類調査記録(2001年)	駿河の昆虫212 : 5877-5879.		四方			
855	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	斉藤伸行	2005	2004年静岡市安倍川におけるミヤマシジミの記録	駿河の昆虫212 : 5881		四方			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
856	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2006	南アルプスの蝶類調査記録(2002年)	駿河の昆虫215 : 5971-5976.		四方			
857	昆虫	南ア一部		甲虫	雑誌	坪井俊久	2006	静岡県産コブスジコガネ属2種などの記録	駿河の昆虫215 : 5979.		四方			
858	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	宇式和輝	2006	大井川源流域・二軒小屋地域の蝶(I・2000年)	駿河の昆虫216 : 5983-5993.		四方			
859	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	永井彰	2006	山梨県、櫛形山産のミヤマシロチョウ	駿河の昆虫126 : 5994-5996.		四方			
860	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	宇式和輝	2006	安倍奥におけるフタスジチョウ二例	駿河の昆虫216 : 5997.		四方			
861	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	宇式和輝	2006	大日駐車場のオオミスジ	駿河の昆虫216 : 5998.		四方			
862	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	宇式和輝	2006	林道井川雨畑線8月上旬の蝶	駿河の昆虫216 : 5998.		四方			
863	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	宇式和輝	2006	大笹峠のクジャクチョウ	駿河の昆虫216 : 5999.		四方			
864	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	宇式和輝	2006	静岡市、川根本町境七ツ峰でウラジャノメ	駿河の昆虫216 : 5999.		四方			
865	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	天野市郎	2006	静岡県山地でのツマグロヒョウモンの大発生	駿河の昆虫216 : 6000.		四方			
866	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	諏訪哲夫	2006	静岡市山間部におけるコキマダラセセリの採集記録	駿河の昆虫216 : 6004.		四方			
867	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	諏訪哲夫	2006	静岡市大谷崩でフタスジチョウを採集	駿河の昆虫216 : 6004.		四方			
868	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	中西元男	2006	川根本町8月のチョウ	駿河の昆虫216 : 6006-6007.		四方			
869	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2006	南アルプスの蝶類調査記録(2003年)	駿河の昆虫217 : 6027-6030.		四方			
870	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	宇式和輝	2007	大井川源流域・二軒小屋地域の蝶(II・2003年)	駿河の昆虫218 : 6039-6051.		四方			
871	昆虫	南ア一部		甲虫類	雑誌	平井剛夫	2007	オオセンチコガネを静岡市井川峠・大日峠で採集	駿河の昆虫218 : 6056.		四方			
872	昆虫	南ア一部		甲虫類	雑誌	平井剛夫	2007	静岡市内のハナノミ類の2005年の記録	駿河の昆虫218 : 6057.		四方			
873	昆虫	南ア全域		甲虫類	雑誌	坪井俊久	2007	オオシラホシハナノミの採集例	駿河の昆虫218 : 6058.		四方			
874	昆虫	南ア一部		蛾類	雑誌	斉藤修・平井剛夫	2007	大井川流域の井川峠と川根町家山でのが類の採集記録(2006年)	駿河の昆虫218 : 6058-6059.		四方			
875	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	諏訪哲夫	2007	大井川上流林道東俣線7月下旬の蝶	駿河の昆虫218 : 6064.		四方			
876	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	宇式和輝	2007	大井川源流域・二軒小屋地域の蝶(III・2004年)	駿河の昆虫219 : 6067-6080.		四方			
877	昆虫	広域		蝶類	雑誌	諏訪哲夫・高橋真弓	2007	故小林國彦氏の蝶類標本(I)	駿河の昆虫219 : 6081-6097.	南アルプスのデータ含む	四方			
878	昆虫	南ア一部		蛾類	雑誌	小澤資朗	2007	畑雑のカバシャク	駿河の昆虫219 : 6098.		四方			
879	昆虫	広域		蝶類	雑誌	諏訪哲夫・高橋真弓	2007	故小林國彦氏の蝶類標本(II)	駿河の昆虫220 : 6101-6121.	南アルプスのデータ含む	四方			
880	昆虫	南ア全域		蝶類	雑誌	白井和伸	2008	南アルプスの蝶類調査記録(2004年)	駿河の昆虫221 : 6138-6143.		四方			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
881	昆虫	南ア一部		蝶類	雑誌	北條篤史	2008	静岡市林道勤行峰線のベニヒカゲ	駿河の昆虫221:6153.		四方			
882	昆虫	南ア一部		蛾類	雑誌	神部昭夫	2001	タカセモクメキリガを含む丸山林道(山梨県)春蛾メモ	神奈川虫報136:26.		四方			
883	昆虫	広域		蝶類	雑誌	芦田孝雄	2003	2002年の蝶, 採集の記録	神奈川虫報141:23-29.		四方			
884	昆虫	南ア一部		蛾類	雑誌	神部昭夫・朝長政昭	2001	鷲ノ住山(山梨県)の蛾, 採集ノート(4)	神奈川虫報136:23-26.		四方			
885	昆虫	南ア一部		甲虫類, カミキリムシ科	雑誌	大木裕	2007	教駒生物部関係者による静岡県二軒小屋付近のカミキリムシ科の記録目録	神奈川虫報159:17-27.		四方			
886	昆虫	広域		半翅類, カメムシ科	雑誌	梶真史・矢崎充彦	2007	神奈川・千葉・長野県のニセヨツボシカメムシ	神奈川虫報160:3-4.	大鹿村鹿塩のデータ含む	四方			
887	昆虫	南ア一部			書籍	南信濃村教育委員会	1998	遠山郷に生きるどうぶつたち		動物全般を扱った一般向け書籍	四方			
888	昆虫	南ア全域		ナガゴミムシ	雑誌	Morita, S and Kurosa, Y	1998	A new macrocephalic species of the Pterostichus (Coleoptera, Carabidae).	Elytra 26(1):69-73.	ヒメオオズナガゴミムシ	中村			
889	昆虫	南ア全域		ナガゴミムシ	雑誌	Kasahara, S	1992	Three new carabid beetles from Shizuoka Prefecture, Central Honshu, Japan.	Elytra 20(1):21-31.	リュウトウナガゴミムシ	中村			
890	昆虫	南ア一部	白根御池	蛾類	雑誌	谷口高司	1968	ミヤマチビナミシャクを南アルプスで採集	蛾類通信(51), 559	ミヤマチビナミシャクの採集記録	四方	四方	静岡	
891	昆虫	南ア全域		蛾類	雑誌	川辺湛	1970	高山のハマキガ類 (I)	蛾類通信(62), 22-25	タカネベニハマキ、ハイマツコヒメハマキ	四方	四方	静岡	
892	昆虫	南ア一部	北岳	蛾類	雑誌	春田俊郎	1963	日本産蛾類の未記録種及び稀少種について III	蛾類通信(31), 199-218	ホッチョクモンヤガ	四方	四方	静岡	
893	昆虫	南ア一部	北岳ほか	蛾類	雑誌	神保一義	1966	北岳を中心とした南アルプスの高山蛾について	蛾類通信(41), 377-379	高山蛾の記録	四方	四方	静岡	
894	昆虫	南ア一部	北岳ほか	蛾類	雑誌	神保一義	1967	南アルプス北部の高山蛾について(2)	蛾類通信(46), 454-455	高山蛾の記録	四方	四方	静岡	
895	昆虫	南ア一部	山伏峠～光岳	蛾類	雑誌	神保一義	1967	南アルプス南部の高山蛾について	蛾類通信(46), 155-157	高山蛾の記録	四方	四方	静岡	
896	昆虫			蛾類	雑誌	神保一義	1971	南アルプス北岳白根御池の蛾2種	蛾類通信(67)		四方	四方	静岡	
897	昆虫	南ア一部	荒川岳、北岳	蛾類	雑誌	神保一義	1972	高山蛾シロテンサザナミシャクの既知産地と本州における新産地	蛾類通信(68), 120-121	シロテンサザナミナミシャクの荒川岳と北岳の記録含む	四方	四方	静岡	
898	昆虫	南ア山麓	戸台	蛾類	雑誌	大和田 守	1972	日本未記録種Oncocnemis campicola Ledererクビジロツメヨトウ(新称)について	蛾類通信(69), 135-137	クビジロツメヨトウの記録	四方	四方	静岡	
899	昆虫	南ア一部	塩見岳～荒川岳	蛾類	雑誌	中島秀雄・飯塚新真	1990	南アルプス南部の高山帯の蛾類	誘蛾燈(120), 99-105	塩見岳から荒川岳にかけての蛾類採集記録	四方	四方	静岡	
900	昆虫	南ア一部	光岳	蛾類	雑誌	浦山幸夫	1988	南アルプス南部茶臼岳・光岳の蛾	蛾類通信(146)	高山蛾の調査記録	四方	四方	静岡	
901	昆虫	南ア一部	荒川岳、赤石岳、聖岳	蛾類	雑誌	中島秀雄・飯塚新真	1994	南アルプス南部の高山帯の蛾類 II	蛾類通信(180)68-75	高山蛾の調査記録	四方		静岡	未見

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
902	昆虫			蛾類	雑誌	井上 寛	1994	日本産Scoparia属のヤマメイガについて	越佐昆虫同好会特別報告(2)		四方		静岡	未見
903	昆虫	南ア一部	北岳御池小屋	蛾類	雑誌	小林秀紀・枝恵太郎	1995	北岳針葉樹林帯においてアトジロアルプスヤガを多数採集	蛾類通信(186)167-169	アトジロアルプスヤガの記録	四方	四方	静岡	
904	昆虫	南ア一部	北岳・農鳥岳	蛾類	雑誌	神保一義・柳田慶浩・中島秀雄・岸田泰則	1995	南アルプス・北岳と農鳥岳の蛾	誘蛾燈(139), 34-38	北岳・農鳥岳での蛾類調査記録	四方	四方	静岡	
905	昆虫	南ア一部	千枚岳	蛾類	雑誌	枝恵太郎・鈴木亨治・小林秀紀・飯塚新真	1996	南アルプス千枚岳付近の蛾	誘蛾燈(146), 93-96	千枚岳での蛾類の調査記録	四方	四方	静岡	
906	昆虫	南ア一部	仙丈ヶ岳、北沢峠、栗沢山	蛾類	雑誌	神保一義・中島秀雄・柳田慶浩・飯塚新真・神保宇嗣	1998	仙丈岳・栗沢山高山帯と北沢峠の蛾類	誘蛾燈(154), 121-133	蛾類調査記録	四方	四方	静岡	
907	昆虫	南ア山麓	二軒小屋	蛾類	雑誌	杉本可能・枝恵太郎	2003	南アルプス二軒小屋の蛾類(1992年~1996年)	駿河の昆虫(203)		四方		静岡	未見
908	昆虫	南ア一部	鳳凰三山	甲虫類	雑誌	水野弘造・細田倅市	1999	鳳凰山産甲虫類目録(Ⅱ) -1991年版への追加と訂正-	関西甲虫談話会資料(14)		四方		静岡	未見
909	昆虫	南ア一部	南部域	双翅目	雑誌	多比良嘉晃	2002	静岡県のハナアブ科(1)	はなあぶ(13)97-106	平地から高山帯までのハナアブ類の記録	四方	四方	静岡	
910	昆虫	南ア一部	鳳凰三山	双翅目	雑誌	大石久志・細田倅一	2003	ヒゲクロムツモンヒラタアブ(新称) Dasysyrphus friuliensisを南アルプス鳳凰山で採集	はなあぶ(16), 45	ヒゲクロムツモンヒラタアブ	四方	四方	静岡	
911	昆虫	南ア山麓	程野御池	双翅目	雑誌	四方圭一郎	2004	長野県中川村と上村でトワダオオカを採集	伊那谷自然史論集(5), 95	トワダオオカの記録	四方	四方	静岡	
912	昆虫	南ア一部	大鹿村	双翅目	雑誌	古田 治	2005	長野県大鹿村の珍しいニクバエ科の記録	伊那谷自然史論集(6)152-153	ハエ類の記録	四方	四方	静岡	
913	昆虫	南ア一部	大鹿村	双翅目	雑誌	古田 治	2006	長野県大鹿村・中川村周辺のクロバエ科の記録	伊那谷自然史論集(7)129-132	ハエ類の記録	四方	四方	静岡	
914	昆虫	南ア一部		双翅目	雑誌	大石久志・市毛勝義	2006	日本産クロハナアブ属(A種群)の研究	はなあぶ(22)28-67	南アの記録含む	四方	四方	静岡	
915	昆虫	南ア一部	御座石鉱泉	双翅目	雑誌	春沢 圭太郎	1996	日本産アブ科の分布資料(1)	はなあぶ(1)17-18	ヤマトアブの記録	四方	四方	静岡	
916	昆虫	南ア一部	しらびそ高原	双翅目	雑誌	春沢 圭太郎	1999	日本産アブ科の分布資料(3)	はなあぶ(7), 55	アオコアブ、アカウシアブ	四方	四方	静岡	
917	昆虫	南ア山麓	小渋川沿い	双翅目	雑誌	伊東憲正	2001	大鹿村周辺の双翅目(1)	はなあぶ(11), 91-96	ハナアブ類の記録	四方	四方	静岡	
918	昆虫			双翅目	雑誌	伊東憲正	2004	静岡県産ハナアブ科分布資料	はなあぶ(17)		四方	四方	静岡	
919	昆虫	南ア山麓	程野御池	双翅目	雑誌	桂 孝次郎	1997	長野県で得られたミツオビヒゲナガハナアブ	はなあぶ(4), 49	ミツオビヒゲナガハナアブ	四方	四方	静岡	
920	昆虫	南ア山麓	程野御池	双翅目	雑誌	桂 孝次郎	1999	ビルの屋上(大阪市西区)に飛来したカオグロオビホソヒラタアブ	はなあぶ(7), 51	程野の記録含む	四方	四方	静岡	
921	昆虫	南ア山麓	小渋温泉	双翅目	雑誌	桂 孝次郎	1999	ホソヒラタアブの斑紋異常個体	はなあぶ(7), 51	ホソヒラタアブ	四方	四方	静岡	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
922	昆虫	南ア山麓	戸台	双翅目	雑誌	桂 孝次郎・別府隆守	2002	エダシゲナガハナアブのみの発見と近似種との比較	はなあぶ(14)19-21	スズキナガハナアブ	四方	四方	静岡	
923	昆虫	南ア山麓	程野御池	双翅目	雑誌	木村輝夫	1996	日本未記録のハナアブ(6)	はなあぶ(2), 1	ギンモンヒラアシヒラタアブ	四方	四方	静岡	
924	昆虫	南ア一部	しらびそ高原	双翅目	雑誌	木村輝夫	1997	本州新記録のハナアブ	はなあぶ(3)3-4	ケブカヨツモンホソヒラタアブ	四方	四方	静岡	
925	昆虫	南ア一部		双翅目	雑誌	永富 昭・大石久志	2001	日本産キアブモドキの同定	はなあぶ(11), 47-64	南アの記録含む	四方	四方	静岡	
926	昆虫	南ア一部		双翅目	雑誌	永富 昭・大石久志	2003	日本産キアブ、クシツノアブ、クサアブの同定	はなあぶ(15-2)1-126	南アの記録含む	四方	四方	静岡	
927	昆虫	南ア一部	鳥倉山	双翅目	雑誌	西村正賢	2005	ナガハナアブ族の数種に関する知見(1)	はなあぶ(19)13-16	マツムラナガハナアブ	四方	四方	静岡	
928	昆虫	南ア一部	北沢峠	双翅目	雑誌	大石久志・桂 孝次郎	1999	ニッポンシカシラミバエ(新称)♂の発見	はなあぶ(7), 33-35	採集記録と記載	四方	四方	静岡	
929	昆虫	南ア一部	鳳凰三山、しらびそ高原	双翅目	雑誌	大石久志・田川勇治	1997	日本産マガリケムシヒキ属の再検討(1)	はなあぶ(3)15-37	モモグロマガリケムシヒキ、	四方	四方	静岡	
930	昆虫	南ア一部	光岳	双翅目	雑誌	春沢 圭太郎	2004	光岳(長野県)からのメスグロヒゲホソムシヒキの記録	はなあぶ(18), 53	光岳での記録	四方	四方	静岡	
931	昆虫			膜翅目	雑誌	金子義紀		鳳凰小屋周辺における蜂類の採集記録	神奈川虫報(132)		四方		静岡	未見
932	昆虫			膜翅目	雑誌	須田博久	2004	山梨県のハチ(5)アナバチ類(第3報)	つねきばち(3)		四方		静岡	未見
933	昆虫			膜翅目	雑誌	平野幸彦	2001	金子義紀氏採集の鳳凰山のキクイムシ	神奈川虫報(134)		四方		静岡	未見
934	昆虫			膜翅目	雑誌	岸井 尚	2006	細川浩二氏蒐集の邦産コメツキムシ	地域甲虫自然史(2)		四方		静岡	未見
935	昆虫	南ア一部	大鹿村、上村	膜翅目	雑誌	大平仁夫	2002	長野県大鹿村と上村のコメツキムシ若干種について	伊那谷自然史論集(3)89-92	コメツキムシ類の記録	四方	四方	静岡	
936	昆虫	南ア一部	広河原、仙丈ヶ岳	甲虫目	雑誌	Watanabe, Yasuaki	1986	Two new Quedius (Coleoptera, Staphylinidae) from the upper hypogean zone of Central Honshu, Japan	日本洞窟学会誌11	Q. onodaiの記載	四方	四方	静岡	
937	昆虫			甲虫目	雑誌	渡辺泰明	1990	日本産ヨツメハネカクシ亜科の分類学的研究(コウチュウ目、ハネカクシ科)(英文)	東京農業大学集報(31)		四方		静岡	未見
938	昆虫			甲虫目	雑誌	奥島雄一	2005	日本産ヨツメハネカクシ属の分類学的研究ならびに動物地理学的考察(英文)	日本昆虫分類学会誌総説版(2)		四方		静岡	未見
939	昆虫			甲虫目	雑誌	Takahashi, Kazuhiro	2003	A revision of the Japanese genus Yukikoa (Coleoptera, Cantharidae) with reference to systematic position and speciation	日本昆虫分類学会誌9(1)		四方		静岡	未見
940	昆虫			甲虫目	雑誌	今坂正一	2005	日本産アオハムシダマシ属の再検討(英文)	比和科学博物館研究報告(44)		四方		静岡	未見

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
941	昆虫			甲虫目	雑誌	斎藤昌弘	1999	日本産ヨコミソコブゴミムシタマシ属について(英文)	Elytra27(1)		四方		静岡	
942	昆虫			甲虫目	雑誌	大沢昭夫	1974	長野県戸台でヨコグロケシカミキリ	Elytra2(1)		四方		静岡	未見
943	昆虫			甲虫目	雑誌	市川恭治・奥田宜生・草間慶一	1988	静岡県のカミキリ	静岡の甲虫6(2)		四方		静岡	未見
944	昆虫			甲虫目	雑誌	森本桂・小島弘昭・宮川澄昭	2006	日本の昆虫Vol.3ゾウムシ上科概説・ゾウムシ科(1)(英文)	日本の昆虫3		四方		静岡	
945	昆虫			甲虫目	雑誌	川田一之	1975	ケブカマルクビカミキリを長野県戸台にて採集	Elytra2(2)		四方		静岡	未見
946	昆虫			甲虫目	雑誌	東 浩司	1992	私の手元にある静岡県産ナガクチキ	静岡の甲虫10(1)		四方		静岡	未見
947	昆虫			甲虫目	雑誌	東 浩司	1999	杉本可能氏の採集による静岡県産コメツキムシ	静岡の甲虫11(1/2)		四方		静岡	未見
948	昆虫			甲虫目	雑誌	原木直美	1989	静岡県に産するクワガタムシ科甲虫	静岡の甲虫7(1/2)		四方		静岡	未見
949	昆虫			甲虫目	雑誌	平井克男	1993	静岡県産ゴミムシ類採集記録(Ⅰ)	静岡の甲虫10(2)		四方		静岡	未見
950	昆虫			甲虫目	雑誌	平井克男	1993	南アルプス、千枚小屋・悪沢岳のゴミムシ科4種について	静岡の甲虫10(2)		四方		静岡	未見
951	昆虫			甲虫目	雑誌	市川恭治	1987	静岡県甲虫分布資料-1 静岡県のオトシブミ	静岡の甲虫5(1/2)		四方		静岡	未見
952	昆虫			甲虫目	雑誌	奥田宜生	1985	大井川上流樞島のオオゴミムシタマシ	静岡の甲虫3(1/2)		四方		静岡	未見
953	昆虫			甲虫目	雑誌	奥田宜生	1987	静岡県産甲虫記録資料	静岡の甲虫5(1/2)		四方		静岡	未見
954	昆虫			甲虫目	雑誌	奥田宜生	1992	静岡県産甲虫記録資料Ⅱ ナガクチキムシ科	静岡の甲虫10(1)		四方		静岡	未見
955	昆虫			甲虫目	雑誌	出口可能	1984	静岡県のヒゲナガゾウムシ科(Ⅰ)	静岡の甲虫2(2)		四方		静岡	未見
956	昆虫			甲虫目	雑誌	出口可能	1985	静岡県のヒゲナガゾウムシ科(Ⅱ)	静岡の甲虫3(1/2)		四方		静岡	未見
957	昆虫			甲虫目	雑誌	出口可能	1986	静岡県下の興味ある雑小甲虫の記録	静岡の甲虫4(1/2)		四方		静岡	未見
958	昆虫			甲虫目	雑誌	多比良嘉晃	1982	静岡県に産するアリモドキ科甲虫	静岡の甲虫1(2)		四方		静岡	未見
959	昆虫			甲虫目	雑誌	多比良嘉晃	1984	静岡県に産するコキノコムシ科甲虫	静岡の甲虫2(2)		四方		静岡	未見
960	昆虫			甲虫目	雑誌	多比良嘉晃	1985	静岡県産アトキリゴミムシ数種	静岡の甲虫3(1/2)		四方		静岡	未見
961	昆虫			甲虫目	雑誌	多比良嘉晃	1986	ヒメマキムシ科3種の記録	静岡の甲虫4(1/2)		四方		静岡	未見
962	昆虫			甲虫目	雑誌	多比良嘉晃	1986	ナガハナノミダマシ科2種の記録	静岡の甲虫4(1/2)		四方		静岡	未見
963	昆虫			甲虫目	雑誌	森田誠司	1985	Nebria taketoi Habuの採集記録(静岡県のゴミムシ1)	静岡の甲虫3(1/2)		四方		静岡	未見
964	昆虫			甲虫目	雑誌	森田誠司	1986	千枚岳山頂附近のゴミムシ類(静岡のゴミムシ2)	静岡の甲虫4(1/2)		四方		静岡	未見

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
965	昆虫			甲虫目	雑誌	杉本可能	1991	静岡県のオオキノコムシ科	静岡の甲虫9(1)		四方		静岡	未見
966	昆虫			甲虫目	雑誌	杉本可能	1992	静岡県内で採集したナガクチキムシ科甲虫の記録	静岡の甲虫10(1)		四方		静岡	未見
967	昆虫			甲虫目	雑誌	杉本可能	1992	静岡県下で採集したホタルモドキ科甲虫の記録	静岡の甲虫10(1)		四方		静岡	未見
968	昆虫			甲虫目	雑誌	原木直美	1999	静岡県産ベニボタル科分布資料	静岡の甲虫11(1/2)		四方		静岡	未見
969	昆虫			甲虫目	雑誌	平井克男	1999	南アルプス静岡県南部地域甲虫類報告	駿河の昆虫(186)		四方		静岡	未見
970	昆虫			トンボ目	雑誌	福井順治	1995	大井川上流で記録したトンボ	駿河の昆虫(172)		四方		静岡	未見
971	昆虫	南ア一部	大鹿村	双翅目	雑誌	古田 治	2006	長野県大鹿村、中川村周辺のヒメイエバエ科の記録	はなあぶ(21)66-70	南アの記録含む	四方	四方	静岡	
972	昆虫	南ア一部	鳥倉山	双翅目	雑誌	古田 治	2006	ニッポンシカシラミバエの生態的知見	はなあぶ(21)72-74	生態の記録	四方	四方	静岡	
973	昆虫			膜翅目	雑誌	羽田義任	1968	長野県伊那地方のアナバチ科	生物研究13(3/4)		四方		静岡	未見
974	昆虫			膜翅目	雑誌	羽田義任	1969	山梨県西部山地のアナバチ科	生物研究13(3/4)		四方		静岡	未見
975	昆虫			膜翅目	雑誌	南部敏明	1986	農業環境技術研究所昆虫分類同定研究室に保管されているコツチバチとジガバチモドキ類	蜂友通信(24)		四方		静岡	未見
976	昆虫			膜翅目	雑誌	須田博久	1973	山梨県のアナバチ科(第一報)	生物研究17(3/4)		四方		静岡	未見
977	昆虫			膜翅目	雑誌	須田博久	1978	山梨県のアナバチ科(第二報)	蜂友通信(8)		四方		静岡	未見
978	昆虫			膜翅目	雑誌	須田博久	1982	山梨県のハチ(3)2. キマダラハナバチ属(第1報)	蜂友通信(14)		四方		静岡	未見
979	昆虫			膜翅目	雑誌	須田博久	1987	山梨県のハチ(4)3. ヒメハナバチ科(第1報)	蜂友通信(27)		四方		静岡	未見
980	昆虫			甲虫目	雑誌	奥田宜生	1991	大井川上流二軒小屋周辺のカミキリムシ	静岡の甲虫9(2)		四方		静岡	未見
981	植物	仙丈ヶ岳		仙丈ヶ岳、流域、亜高山帯、植物群落、環境傾度	雑誌	大澤太郎	2000	南アルプス仙丈ヶ岳平右衛門谷流域の亜高山植生	伊那谷自然史論集 1:17-29, 2000		蛭間			
982	植物	南部			雑誌	吉澤正道	1977	南アルプス南部におけるハイマツの分布とその生態	下伊那生物・陸水会誌. 17. 1977		蛭間			
983	植物				雑誌	伊藤文男	1985	伊那谷の生物・下伊那の天竜川流域の暖地植物と高山植物の宝庫南アルプス・蛇峠山と原始的なカワゲラのトワダカワゲラ・飯田市のシンボル風越山とベニマンサク・山林資源豊かな野底山と池の平の生息者モリアオガエル・花と紅葉が美しいハナノキ	下伊那生物会誌. 18. 1985		蛭間			

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
984	植物	大鹿村		ニホンジカ・林業被害・大鹿村・植生変化	雑誌	小山泰弘・山内仁人・白石立	2004	長野県大鹿村におけるニホンジカによる森林植生の衰退	伊那谷自然史論集 5:49-54. 2004		蛭間			
985	植物	大鹿村		絶滅危惧植物・トウヒ属・南限・保全	雑誌	勝木俊雄・逢沢峰昭・明石浩司・島田健一・島田和則	2005	長野県大鹿村におけるヤツガタケトウヒとヒメバラモミの現状－南限地の絶滅危惧植物－	伊那谷自然史論集 6:71-76. 2005		蛭間			
986	植物	北部			雑誌	浅野一男	1970	赤石山脈北部の植生(予報)	下伊那生物会誌 3. 1970		蛭間			
987	植物	赤石岳			雑誌	吉沢正道	1975	赤石岳の植物	下伊那生物会誌 8. 1975		蛭間			
988	植物	聖岳			雑誌	古松隆明	1976	聖岳・伊那側を中心とした植物	下伊那生物・陸水会誌 9. 1976		蛭間			
989	植物				雑誌	古松隆明	1986	遠山谷の植物目録	下伊那生物会誌 19. 1986		蛭間			
990	植物	戸台		土石流氾濫源・微地形・礫径・カラマツ林・ドロノキ林・戸台川	雑誌	明石浩司	2007	赤石山脈北西部、戸台川上流域における土石流氾濫原の微地形・堆積物と森林植生	伊那谷自然史論集 7:33-78. 2007		蛭間			
991	植物	全域		森林植生	書籍	近田文弘(編)	1979	南アルプスの森林植生			蛭間			
992	植物	全域		寒地植物	書籍	小泉秀夫・横内斎	1959	日本南アルプス寒地植物誌(増補改訂版)			蛭間			
993	植物	全域			書籍	植松春雄	1967	南アルプスの植物			蛭間			
994	植物	全域		形態変化、後氷期、トウヒ属バラモミ節、晩氷期、分布変遷	雑誌	野出啓行・沖津進・百原新	1998	日本のトウヒ属バラモミ節樹木の現在の分布と最終氷期以後の分布変遷。植生史研究 6. 1:3-13.			蛭間			
995	哺乳類	南ア全域		カモシカ、分布域、地域個体群	資料	長野県	2007	特定鳥獣保護管理計画(カモシカ)		南アルプスを含めた長野県内におけるカモシカの分布域に関する記載あり。	竹田	竹田	なし	長野県HPでダウンロード可
996	哺乳類	南ア全域		ニホンジカ、分布域、地域個体群	資料	長野県	2006	特定鳥獣保護管理計画(ニホンジカ2期)		南アルプスを含めた長野県内におけるニホンジカの分布域に関する記載あり。本文中、教育委員会の報告引用で、カモシカとの摂食競合から、カモシカの生息が確認できなくなったとの記載もあり。	竹田	竹田	なし	長野県HPでダウンロード可
997	哺乳類	南ア全域		ツキノワグマ、分布域、地域個体群	資料	長野県	2007	特定鳥獣保護管理計画(ツキノワグマ2期)		南アルプスを含めた長野県内におけるツキノワグマの分布域に関する記載あり。	竹田	竹田	なし	長野県HPでダウンロード可
998	哺乳類	南ア全域		ニホンザル、分布域、地域個体群	資料	長野県	2007	特定鳥獣保護管理計画(ニホンザル)		南アルプスを含めた長野県内におけるニホンザルの分布域に関する記載あり。稜線部に2群の分布が確認。	竹田	竹田	なし	長野県HPでダウンロード可
999	哺乳類	南ア全域		イノシシ、分布域	資料	山梨県	2007	山梨県特定鳥獣(イノシシ)保護管理計画		南アルプスを含めた山梨県内におけるニホンイノシシの分布域に関する記載あり。データは、山梨県環境科学研究所(2000)からの引用。	竹田	竹田	なし	山梨県HPでダウンロード可
1000	哺乳類	南ア全域		ニホンジカ、分布域	資料	山梨県	2007	山梨県特定鳥獣(ニホンジカ)保護管理計画		南アルプスを含めた山梨県内におけるニホンジカの分布域に関する記載あり。一部のデータは、山梨県環境科学研究所(2001)からの引用。	竹田	竹田	なし	山梨県HPでダウンロード可

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
1001	哺乳類	南ア全域		ニホンザル、分布域	資料	山梨県	2007	山梨県特定鳥獣(ニホンザル)保護管理計画		南アルプスを含めた山梨県内におけるニホンザルの分布域に関する記載あり。	竹田	竹田	なし	山梨県HPでダウンロード可
1002	哺乳類	南ア一部	南アルプス南部	ツキノワグマ、分布域、地域個体群	資料	静岡県林業技術センター 静岡県環境森林部自然保護室 静岡野生動物研究会	2005	静岡県ツキノワグマ生息調査報告書		南アルプスを含めた静岡県内におけるツキノワグマの分布域に関する記載あり。	竹田	竹田	なし	静岡県HPでダウンロード可
1003	哺乳類	南ア一部	南アルプス南部		雑誌	鳥居春己	1985	南アルプス南部におけるツキノワグマの分布と棲息環境	森林環境の変化と大型野生動物の生息動態に関する基礎的研究, 89-114, 環境省	不明	竹田	竹田	なし	静岡県ツキノワグマ生息調査報告書に引用
1004	哺乳類	南ア一部	南アルプス・スーパールン道および小渋川上流	ニホンジカ、カモシカ、イノシシ、目撃	書籍	信濃毎日新聞社編集局編	1988	変わらぬ自然、変わりゆく自然、南アルプス	148-149	亜高山帯における目撃写真が掲載	竹田	竹田	なし	
1005	哺乳類	南ア全域		イノシシ、分布域	書籍	信州哺乳類研究会	1978	7. 野生動物の保護	長野県動物図鑑, 270-280	現在、特定鳥獣保護管理計画が定められていない長野県におけるイノシシの分布状況を示した。	竹田	竹田	静岡	静岡県のリストにあるが、動物によっては、分布域の記載が特定地域に限定されていない場合も。
1006	哺乳類	南ア全域		哺乳類全般	書籍	信州哺乳類研究会	1978	長野県動物図鑑		南アルプスに生息が確認されていると具体的に記載されているものは、以下のとおり。ニホンジカ、ハクビシン(飯田市)、ニホンザル、ミズラモグラ。その他については、県下、県下全域の山岳帯などといった表記。	竹田	竹田	静岡	静岡県のリストにあるが、動物によっては、分布域の記載が特定地域に限定されていない場合も。
1007	哺乳類	南ア全域		哺乳類全般	書籍	日高敏隆監修、川道武男編集	1996	日本動物大百科 1. 哺乳類 I		アズミトガリネズミが南アルプスに分布しているとの記載あり。ウサギコウモリが南北アルプス山麓に分布との記載あり。	竹田	竹田	なし	
1008	哺乳類	南ア全域		哺乳類全般	書籍	日高敏隆監修、伊沢紘生、粕谷俊雄、川道武男編集	1996	日本動物大百科 1. 哺乳類 II		特に南アルプスに限定した記述はないが、他地域も含めて、生息地であることが記載(ニホンザル、カモシカ、ニホンジカ、ハクビシン)。	竹田	竹田	なし	
1009	哺乳類	南ア全域	南アルプス北部	小型哺乳類、高山帯	雑誌	小林峯生	1930	南アルプス北部山岳地帯の小哺乳類	哺乳動物学雑誌, 2: 30-32		竹田	竹田	なし	
1010	哺乳類	南ア全域		カグヤコウモリ、トガリネズミ	報告書	財団法人キープ協会	2004	野外生物等調査活動業務=レッドデータ調査	財団法人キープ協会2004年度(平成16年度)事業報告, p15.	山梨県みどり自然課からの受託業務として、南アルプスの哺乳類相調査から、カグヤコウモリ、トガリネズミの生息確認。	竹田	竹田	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報 提供者	実物 保管者	他県 リストアップ	備考
1011	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部		報告書	国土交通省 中部地方整 備局	2007	動物		一般国道474号三 遠南信自動車道青 崩峠道路(長野県 飯田市南信濃)環 境影響評価準備 書, 108-132.	竹田	竹田	なし	
1012	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部	ツキノワグ マ, 食性, 大 井川	雑誌	鳥居春己	1989	大井川上流域におけるツ キノワグマの食性	日本林学会誌, 71: 417-420, 1989.	大井川上流に位置する畑薙第一ダムを中心とする20km <sup>2</sup> の地域 で, 5年間(毎年5月~12月)にわたってツキノワグマの糞分 析から, 食性を明らかにした。春から夏には, 前年の堅実類 芽吹いた木本, 草本類を, それ以降は種子類。動物質は, ア リ類, ハチ類が主。	竹田	竹田	なし	
1013	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部 (光岳)	森林生態系保 護, 山地帯, 高山帯	雑誌	中郡雅一	2002	南アルプス南部光岳	森林科学, 35: 53-56, 2002	当該地域で生息が確認された哺乳動物相は, ツキノワグマ, キツネ, テン, オコジョ, イタチ, タヌキ, リス, ヒメネズ ミ, ヤチネズミ, ニホンザル, ノウサギ, ヒメホオヒゲゴウ モリ, ニホンジカ, カモシカ。	竹田	竹田	なし	
1014	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部	ニホンジカ, 食害, イチイ	学術誌	門脇正史, 遠藤好和	2006	南アルプス静岡地域にお けるイチイTaxus cuspidata人工林のニホ ンジカCervus nipponに よる被害		筑波大学農林技術センター井川演習林での調査。シカによる 剥皮被害率は74.9%だった。被害木の胸高直径は健全木と差 はなく, イチイと同じ直径階に属するコウヨウザンに被害が なかったことから, シカは樹種を選択していると推察。	竹田	竹田	なし	
1015	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部	ニホンジカ, 食害, 天然性 林, ナナカマ ド	学術誌	門脇正史, 遠藤好和, 井波明宏, 滝浪明	2007	南アルプス静岡地域にお ける天然性林のニホンジ カCervus nipponによる 被害の事例報告	森林立地, 49: 73-78, 2007.	筑波大学農林技術センター井川演習林での調査。3年間の調査 の結果, ナナカマドの被害率が90%で, 次いで, オオイタヤ メイゲツが34.4%, ミヤマアオダモが30%であった。いずれ も胸高直径は類似しており, シカが選択していることが推察 された。	竹田	竹田	なし	
1016	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部	ニホンジカ, カモシカ, 分 布拡大	雑誌	大場孝裕	2002	静岡県におけるニホンジ カとカモシカの分布拡大	中部森林研究, 50: 65-68, 2002.	南アルプス南部を含む, 静岡県鳥獣保護区でのアンケート調 査。1976年と比較すると, ニホンジカ, カモシカともに分布 域が拡大。南アルプスに比べて, 伊豆, フジ地域で個体数密 度が高いと推測。	竹田	竹田	なし	
1017	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス全域	哺乳類全般	報告書	日本野生 生物研究セ ンター	1980	第2回 自然環境保全基 礎調査	動物分布調査報告 書(哺乳類)全国 版(その2)	南アルプス全域を含む, 全国の哺乳類分布調査。ピンポ イントでの分布に関する記載が少ない。全体の傾向を知る程度 の資料。	竹田	竹田	なし	
1018	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部	カモシカ, 栄 養状態	学術誌	鳥居春己, 高野彩子	2006	静岡県で駆除されたニホ ンカモシカCapricornis crispusの下顎骨管内脂 肪と腎脂肪	奈良教育大学紀 要, 55(2)(自 然): 55-58, 2006.	南アルプスカモシカ特別保護地域南縁で捕獲されたカモシ カの生体調査。下顎骨管内脂肪指数は, 腎脂肪指数よりも変動 が小さく, 冬期のカモシカの栄養状態を示すよう指標と考え られ, 当該地区のカモシカは栄養状態が良好だと考えられ た。	竹田	竹田	なし	
1019	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部	カモシカ, 年 齢査定, 栄養 状態, 胃内容 分析	報告書	大場孝裕	2005	カモシカモニタリング調 査	静岡林業技術セン ター業務成績報 告, 2004: 106- 107, 2005.	静岡県におけるカモシカ南アルプス地域個体群の生体調査結 果。胃内容物中における常緑広葉樹が占める割合が最も高 かった。	竹田	竹田	なし	
1020	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部	カモシカ, 年 齢査定, 栄養 状態, 胃内容 分析	報告書	大場孝裕	2004	IV環境に配慮した農林水 産技術の開発 野生動物 の生息実態と被害防除に 関する研究 カモシカ捕 獲個体のモニタリング	静岡林業技術セン ター業務成績報 告, 2003: 98-99, 2004.	静岡県におけるカモシカ南アルプス地域個体群の生体調査結 果。胃内容物中における広葉樹の葉の出現率が過半数を占 め, 冬期の主要な餌植物が林床の常緑広葉樹であることが示 唆された。	竹田	竹田	なし	
1021	哺乳類	南ア一部	南アルプ ス南部	カモシカ, 年 齢査定, 栄養 状態	報告書	大場孝裕	2003	野生獣類による被害防除 のための適正な個体群管 理と生息環境整備技術に 関する基礎調査 カモシ カ駆除個体のモニタリン グ	静岡林業技術セン ター業務成績報 告, 2002: pp79, 2003.	静岡県におけるカモシカ南アルプス地域個体群の生体調査結 果。個体群に大きな変化はなく, 幼獣死亡率は低かった。	竹田	竹田	なし	

NO	対象	地域 (大分類)	地域 (小分類)	キーワード	文献分類	著者	年代	文献タイトル	雑誌名巻(号)頁	概要	情報提供者	実物保管者	他県リストアップ	備考
1022	哺乳類	南ア一部	南アルプス南部	ツキノワグマ、行動圏、分布	報告書	大場孝裕、山本高義	2003	野生獣類による被害防止のための適正な個体群管理と生息環境整備技術に関する基礎調査 南アルプスに生息するツキノワグマの行動圏調査	静岡県林業技術センター業務成績報告, 2002: 80-81, 2003.	南アルプスに生息するツキノワグマの行動圏調査。ラジオテレメトリー法により行動圏を調べた結果、南アルプスの主稜線を越えて、長野県、山梨県側への往復等の長距離移動が確認された。	竹田	竹田	なし	
1023	哺乳類	南ア一部	南アルプス南部	ニホンジカ、カモシカ、分布、生息動向	雑誌	大場孝裕	2002	静岡県におけるニホンジカとカモシカの分布と	ニホンジカの生息動向、被害、狩猟等に関するアンケート調査、静岡県林業技術センター研究報告, 30: 1-16, 2002.	南アルプス地域を含む静岡県全域での調査結果である。南アルプス地域において、カモシカはニホンジカよりも南に分布が拡大。	竹田	竹田	なし	
1024	哺乳類	南ア一部	南アルプス北部	ニホンジカ、亜高山帯、季節移動	雑誌	泉山茂之、望月敬史	2008	南アルプス北部の亜高山帯に生息するニホンジカ(Cervus nippon)の季節的環境利用	信州大学農学部AFC報告, 6: 25-32, 2008.	南アルプス林道付近で捕獲したニホンジカに発信機を付けて、追跡調査した結果、12月は600-1200mの山地に移動し、捕獲地点から1.3-25.8kmの地点だった。12月~3月の越冬場所は、里山、二次林から落葉広葉樹林まで多様であった。夏は、亜高山帯上部の広葉草原を利用するタイプから、利用しないタイプまであり、その季節的移動は個体ごとに様々であった。	竹田	竹田	なし	
1025	哺乳類	南ア一部	南アルプス北部、入笠山	ヤマネ、亜高山帯、環境利用	雑誌	山本祐治	1998	亜高山帯域における巣箱を利用したヤマネ Glirulus japonicus の環境利用	自然環境科学研究, 11: 53-59, 1998.	入笠山で巣箱を用いて、樹上生活をする小型哺乳類の環境利用を調査した結果、ヤマネの利用する巣箱設置環境は、常緑針葉樹が多く、次いで落葉広葉樹。またヤマネは、中型肉食獣の食物資源にもなっている。	竹田	竹田	なし	
1026	哺乳類	南ア一部	南アルプス北部	哺乳類全般、天竜川上流	資料	国土交通省中部地方整備局、天竜川上流工事事務所	2001	哺乳類	天竜川上流の主要な両生類・爬虫類, 112-165, 2001.	主に天竜川流域に生息する哺乳類の紹介であるが、伊那谷特有の段丘崖の林がいわゆるコリドーの役割をして、野生動物の垂直方向への移動を可能にしていると紹介。	竹田	竹田	なし	

※情報提供者および実物保管者：中村、竹田謙一、大塚孝一、村松武、四方圭一郎、蛭間啓、河本和朗（長野県学術調査検討委員会委員）  
狩野謙一（静岡大学教授：静岡県学術検討委員会委員）

※リスト最終更新日：平成21年3月1日